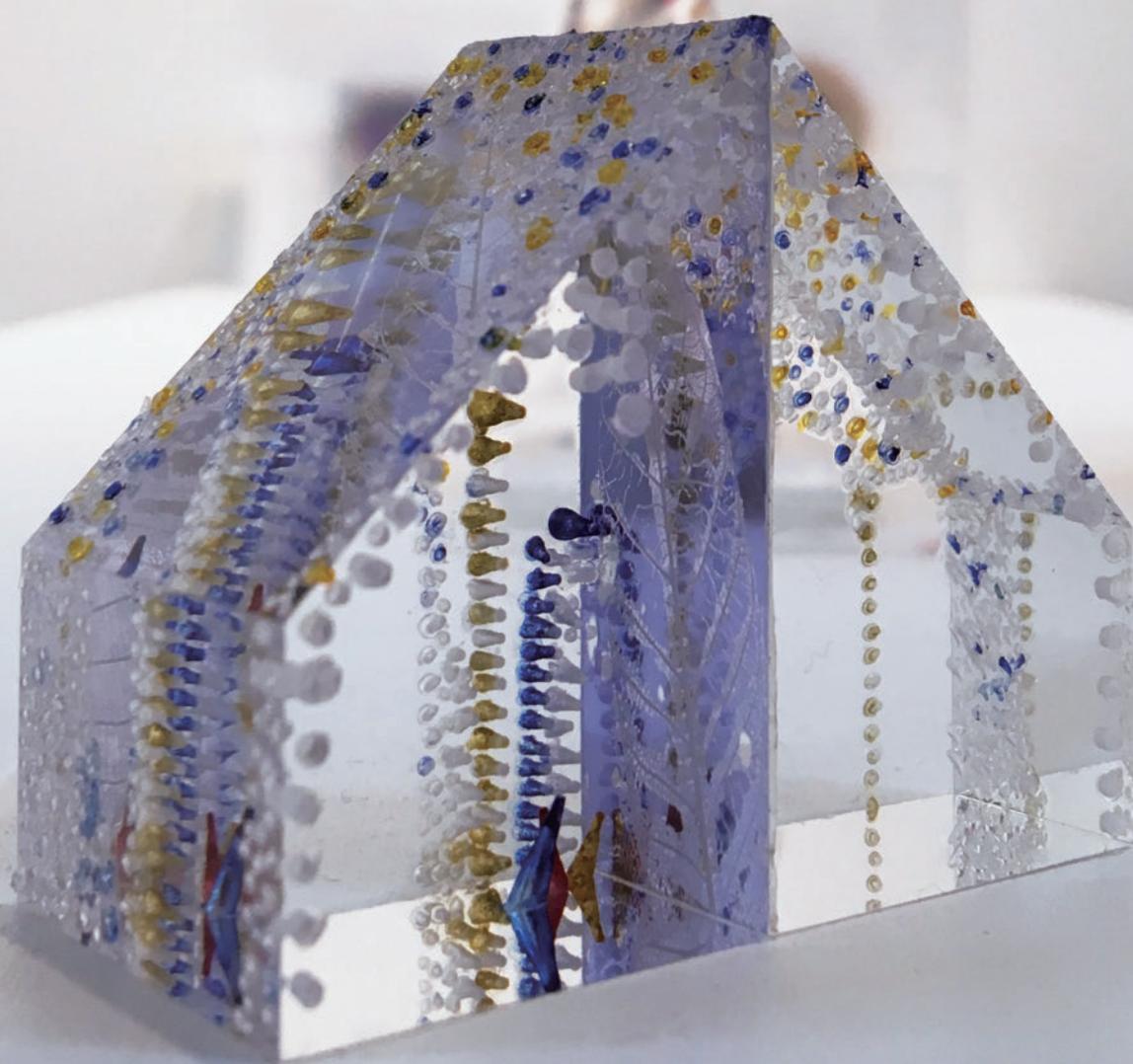


# 紫友同窓会 会報

五中小石川創立105周年

再会、再開の秋



2023年  
10月22日

# 紫友同窓会 総会/懇親パーティーへ

2023年、本年は5年ごとに開かれる総会と記念パーティーの年にあたります。2018年の盛大な百周年記念パーティーから時を経て、コロナ後の日常を取り戻した今、来る10月22日(日)に開催します!! 母校の創立をお祝いし、友との再会を待ち望む同窓生の皆さま、ぜひご参加ください。

## ■第一部 紫友同窓会総会

会場：小石川中等教育学校 3F アリーナ  
時間：13時30分～14時30分(予定)

## ■第二部 懇親パーティー

会場：文京グリーンコート 2F キャフェテリア  
時間：15時30分～18時(予定)

- ・いずれも事前の申し込みが必要です。
- ・申込方法等の詳細は「紫友同窓会ホームページ」ならびに「紫友ニュースレター(メールマガジン)」にてお知らせいたします。



## CONTENTS

### ▶目次

02	紫友同窓会総会・懇親パーティーのご案内
03	会長挨拶 戸叶司武郎(027C)
04	校長挨拶 鳥屋尾史郎校長
05	副校長挨拶 宮山尚之後期課程副校長 特集「再会、再開の秋」
06	2023年度評議委員会報告(各局活動報告・創立105周年事業等)
16	2022年度決算報告
17	2023年度予算案
18	役員一覧・組織図

19	同窓生訪問
	①ある金融マンの歩んだ道 野村勉さん(030C)
	②ペルシャ語との出会い、そしてイランの絵本に魅せられて 愛甲恵子さん(047I)
31	先生お元気ですか 片江安巳先生
32	吾が校友の精神を
	①セピア色の記憶が蘇る! 大橋秀行さん、 神崎文次さん、 日比野正寛さん(020E)
	②移住31年、沖縄あるある 小倉茂雄さん(023A)
	③私を育ててくれた小石川 橋本吉貴さん(044I)
	④ここというのは、時間のこと 鈴木晴香さん(053G)

44	今、学校では PTA活動報告 元PTA会長 塩川浩司さん
47	旧職員だより 中村明先生
48	大学合格者一覧
49	同期会・クラス会
52	クラブつながり 紫友美術会・剣道部・サッカー部(紫躰会)
55	小石川つながり ①紫友まち歩き ②031まちあるきの会 ③紫友経済人交流会開催報告 ④金融マンと元経済記者の対話
60	事務局だより
62	逝去者一覧
63	表紙の言葉・編集後記

# 会長挨拶

## 同窓会の「いままで」と「これから」を繋ぐ 特別な位置づけとなる105周年

紫友同窓会 会長 戸叶司武郎 (027C)



街は「コロナ明け」モードですが、新型コロナウイルスが消滅したわけではなく、感染への継続対応のためにいまでもご尽力されている医療関係者の皆様に心からの敬意と感謝を申し上げます。そして終わりの見えない深刻なウクライナ情勢により、被害にあわれたすべての方々に深い哀悼の意を表します。

### ○この3年間は異常な事態への対応の連続でした

同窓会のさまざまな活動が制限されましたがコロナ禍で気づき、気づかされたこともありました。ネットの活用が進んだこと、高齢同窓生のWebリテラシーが高いこと、そして仲間と「繋がる」思いが強いことをあらためて感じました。038学年同期会には約200名弱が、医療紫友会第1回懇親会には30名弱が集まりました。皆さんの思いを応援するために学年同期会等開催支援特別企画、Webクラス会サポート体制を用意しています。

### ○with コロナの影響を受けながら多様な活動

コロナが完全に収束していない今年5月、評議委員会は2019年以来4年ぶりのリアル開催となり、次の時代を担う副会長と理事、計5名が就任しました。大勢の評議委員のご参加に御礼申し上げます。恒例となった春の植樹祭、初夏の剣・柔道場への大型扇風機貸与設置には、それぞれ同窓生・現役生・顧問の先生がたが参加しました。今秋の創作展には視聴覚室を借り同窓会として企画展示を予定しています。

紫友ニューズレターはほぼ毎月配信しました。まち歩き会は活動再開、経済人交流会も定期的に開催、国際室は開室に向け胎動、クラブOB/OG会幹事会と紫友芸能班は名簿作成を進めています。オンラインセミナーの発信基地でもある紫友スタジオの利用は年間125回を超えました。活動の詳細は会報の各ページと同窓会公式ホームページをぜひご覧ください。

### ○現役生支援と紫友みらい基金

現役生には、楽器・プラネタリウム・運動部系備品の提供、各種コンテスト国内・世界大会参加やカーディフ大学夏期Web研修受講、文化系クラブ各種大会参加費等を支援しました。今年度も学校・一般財団法人

紫友会と連携し必要な物とコトを支援します。いま小石川は第4期SSHの2年目で多くの成果が発表され、同窓生の研究者メンターによる支援が役立っていると感じています。

紫友みらい基金は直近4年度連続で寄付金額が5百万円を超えました。そして昨年度から始めた返礼品制度を今年も展開いたします。母校の支援とともに、がんばっている同窓生の応援も合わせてお願いいたします。皆様には同窓会活動への参画、知見と経験のご提供など、引き続きご支援をお願い申し上げます。

### ○105周年行事は運営面でも特別な年

今秋10月22日(日)に母校アリーナと文京グリーンコートで、総会とパーティーを開催します。過去30年間、周年行事の運営は55-60歳の同窓生が幹事世代でしたが110周年から60-65歳を幹事世代にシフトするため、105周年にかぎり幹事を全世代としました。日本人の平均余命が伸び、企業の定年退職と年金受給年齢が65歳になったことへの対応です。

日本の変化に対応し同窓会の新しい形を目指すために、105周年はこれまでの百年とこれからを繋ぐ特別な位置づけとなります。本来なら105周年を担当する予定だった036-040期の皆さんには110周年行事を担っていただきます。同窓会は忙しい50代の皆さんにも交流を促進するさまざまな企画を提案していきますが、時間・体力・気力に余裕をもてる60代がたくさん同窓会に参画され、自由で大胆な発想で友達と一緒に活動する楽しさを感じていただけることを願っています。

同窓会は百周年を機に「静」から「動」に大きく舵を切りました。小石川三校是の下に故俵前会長の思いを引き継ぎ「小石川を卒業して良かった」と実感し「次の百年も母校から誇れる人材が巣立つことを願う」ため、さまざまな企画を試み寄付と支援をお願いしてまいりました。新しい同窓会の形を模索してきた4年間について皆様からの忌憚のないご意見をうかがいたく、総会とパーティーへのご参加をお待ちしております。

# 校長挨拶

## ごあいさつ

東京都立小石川中等教育学校 校長 とやお鳥屋尾 史郎

紫友同窓会の皆様には日頃より多大なるご支援をいただきありがとうございます。

5月以降コロナに関わるさまざまな制限が撤廃され、小石川ではコロナ前の教育活動を復活しつつあります。コロナの5類移行前のことですが、2月には5年生のシンガポール修学旅行を3年ぶりに実施しました。生徒たちはシンガポール市内のグループ行動やセントーサ島の観光を楽しみましたが、大きな成果をあげたのは現地の高校4校と交流を行ったことです。本校生徒が日本文化を紹介し、加えて小石川フィロソフィーで取り組んでいる研究内容を紹介して現地生徒とディスカッションをしたことは、生徒たちの国際理解、国際交流の感覚を育てる上でとてもよい経験となりました。

また3月には、3年生がアデレードで同じく3年ぶりの海外語学研修を実施しました。こちらも現地校8校と交流して、約2週間のホームステイと交流校での授業を体験しました。3年生は入学以来、宿泊行事の経験が薄く、海外語学研修は大きなチャレンジでしたが、無事にやり遂げることができました。

今年度は、後期課程の新教育課程2年目となります。今回の教育課程は中高一貫教育校であることと、SSHであることを最大限に生かした意欲的なカリキュラムとなっていて、例えば4年生では「理数探究基礎」を導入し、統計処理ソフト、解析ソフトを使ってデータ分析を学習し、「小石川フィロソフィー」で生かしていく取り組みを始めています。また、5年生では「小石川サイエンス」を導入して、物理、化学、生物をより高度な内容で学習するとともに、他校には類をみない科目横断的な理科学習を計画しています。

今年になって生成系AI（ChatGPTなど）について報道されることが増えてきました。仕事ですすでにお使いの方もいらっしゃると思いますが、既存のAIと決定的に異なるのは、このAIを使うと思考のプロセスをたどる必要がなくなってしまうことです。新しい教育課程の根幹にあるものは、従来から小石川ではぐくまれてきた、生徒が自分で考え試行錯誤しながら知識を獲得し、思考力、創造性など社会で活躍できる力を獲得していくことにあります。これからの教育活動では、生成系AIなどの急激な技術の発達にも対応しな

がら、新教育課程で生徒の思考力や創造性を高める教育をすすめていきたいと考えています。

さて、今年の春に卒業した12期生は、おおむね自分の希望進路に進学していきました。今年の大学進学の特徴は、学校推薦型選抜によって難関国公立大学に進学した生徒が多かったことです。高大接続改革が進み、推薦型の選抜がより重視されるようになってきている中で、小石川では在学中の研究成果や、学校での活躍を大学に評価されて合格となる生徒が増えていく可能性があると思います。また、今年の大学進学の特筆すべきことは、東京芸術大学に現役で3名（音楽2、美術1）が合格し進学したことです。こうした卒業生たちの進学後の活躍を期待しています。

今年度は小石川創立105周年にあたり、10月の記念式典に向けてご準備が進んでいるとうかがっています。記念の年にあたり、紫友同窓会のますますの発展を心より祈念申し上げるとともに、今後とも紫友同窓会のご支援をお願いしながら、小石川をますます発展させていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 副校長挨拶

# 小石川に再び着任して

後期課程副校長 宮山 尚之



紫友同窓会の皆様、ならびに一般財団法人紫友同窓会の皆様には、日頃より教育活動に対する様々なご支援をいただきありがとうございます。

4月に副校長に昇任し、ご縁があって小石川中等教育学校に着任いたしました宮山です。今後ともよろしくお願いいたします。

私は3月まで新宿高校の数学の教員でした。新宿高校は府立第六中学校で府立第五中学校である小石川の次に創立された学校です。小石川中等教育学校と同様に進学意識の高い優秀な生徒の多い学校でした。そこで、日々、受験指導を行ってまいりました。

副校長に着任してもうすぐ3ヶ月となります。業務は未知な部分も多く、戸惑いながらも毎日在必死に過ごしております。時にはいままでの授業を懐かしく思いながら授業の様子を観察し、あらためて今の小石川の教育を実感しております。

私は一教員として、2006年の小石川中等教育学校の立ち上げに関わり、2014年に離任しました。今、感慨深く当時の事を思い返しますと中等教育学校では、「立志・開拓・創作」という理念をそのままに、高校の教育にいわば前倒し的に三年間の中学校教育を

プラスさせることで、母体校である小石川高校以上の内容のある質の高い教育を6年間かけて継続していくことがコンセプトでした。小石川高校では理科4科目のすべてが必修であり、授業の6割程度は実験・実習で占められ、そのレポートの作成が特色でした。

現在の本校においても、理系教育を継承、充実したSSH事業、外国語教育の一層の充実としての海外語学研修、教科科目の横断的な学習の発展形としての小石川フィロソフィーなど、開校当時から計画された教育活動が実現しております。そして、生徒たちは充実した学校生活の下で、興味関心のまま自由に学問に取り組んでおり、都内のトップ校としての地位が確立されているように感じます。

紫友同窓会の皆様からは小石川に対する愛を感じます。これからも本校の教育活動を温かく見守って、また、一層のご支援、ご協力をいただければ幸いです。

社会の変化と共に、生徒も変化します。昔はこうだったなどと言うつもりはなく、良いところを残しつつ、教育界のパイオニアとしての学校であり続けてほしいと思います。

## 紫友同窓会からのお知らせ

### ◆ホームカミング・デー・パーティーは9月17日（日）開催予定です

創作展（9月16・17日）の開催期間中、同窓生同士が懇親を深めるホームカミングデー。

コロナ禍のため3年間の中止を余儀なくされていましたが、今年は9月17日（日）午後3時頃から文京グリーンコート、イーストウイング2階カフェテリアで開催予定です。同窓生の皆様、誰もが気軽に語り合い、交流のきっかけとなるパーティーへ多数のご来場をお待ちしています。

※創作展は、昨年まで現役生徒と学内関係者限定とされて同窓生の入場はできませんでした。現時点（2023年6月末）の学校からの情報では、今年は制限があるものの同窓生の入場も可能とのことですので、同窓会環境企画局及び伊藤長七研究委員会による協同展示ブースを開設する予定です。但し、今後の状況次第では変更もありますので、それらが判明次第、HP、ニュースレター等で暫時ご案内いたします。

※ホームカミングデー（開催の場合）は105周年事業の一環として、小石川卒業1年目から大学4年生までの同窓生の参加費を無料といたします（先着30名まで）。交流局までお申し込みください。

申し込み先：交流局 k100kouryusitu@gmail.com



# 再会、再開の秋

## — 母校創立105周年と同窓会活動 —

2020年、年初に始まり世界がパンデミックの恐怖に直面した「コロナ禍」。感染者数の増減に一喜一憂した3年が経過し、私たちは多くの代償を払いながら、コロナ後のあるべき日常を取り戻そうとしています。会話や談笑、議論など人と人の対面接触が制限されたときから、私たち紫友同窓会は、掲げた目標である「同窓生交流・現役生支援」に向かって、創意と工夫を重ねて活動を継続、展開してきました。それは人生の最も多感なひととき、その貴重な機会が奪われていた現役生徒の皆さんへのささやかな応援でもありました。

そして迎えた2023年は、母校創立105周年を祝う記念の年にあたります。(同窓生を)つなげる・(現役生を)ささえるための歩みを一歩進め、次の5年10年へとバトンをつなげようとする各局の取組みと活動を報告します。併せて同窓生の皆様一人一人に対し、母校創立105周年記念総会への積極的なご参集を呼びかけます。さあ、再会・再開の秋(とき)来たる。

### 2023年度 評議委員会を4年ぶりに対面により開催しました

5月27日、母校の多目的ホールにおいて各クラス選出の評議委員及び同窓会役員計63名の出席の下、2023年度評議委員会が開催されました。毎年1回開催される評議委員会は、同窓会運営について、同窓会が進める各事業及び予算・決算、組織・役員について、評議委員の皆様からご意見と審議・承認をいただく会議です。コロナが落ち着いた5月、4年ぶりの対面会議にご参集された評議委員の皆様、大変ありがとうございました。

会議は司会の河村理事(035D)が開会を宣言し、戸叶紫友同窓会会長の挨拶の後、学校関係者として参列の鳥屋尾校長先生からご挨拶を賜り、宮山副校長先生、三藤副校長先生の紹介がありました。

その後、戸叶会長を議長として以下の報告、議案についての審議・承認を行いました。

- ◎2022年度 各局事業活動報告
- ◎1号議案 決算報告・監査報告
- ◎2号議案 予算案
- ◎副会長公選結果報告並びに役員選任
- ◎その他質疑応答

結果、各報告・議案ともに承認され、新体制がスタートしました。



戸叶会長による議事進行



新役員の紹介



鳥屋尾校長先生のごあいさつ

## 交流局の活動

交流局長 戸叶司武郎 (027C)  
副局長 河村英敏 (035D)

### ◆交流活動支援企画

(105周年事業の新企画)

◎学年同期会や地域・職域会などの懇親会を応援

支援の条件を満たす会合には、経費として参加実人数1人あたり千円(上限10万円)を支給します。

(支給条件の詳細は公式HPに掲載)

◎コロナ禍でのクラス会開催の支援

2022年5月からZOOMでのオンラインクラス会の開催を支援しています。Web会議システムに慣れていない同窓生のために、交流局アカウントでZOOM会議を設定し、参加の方法を電話などでサポートします。



医療紫友会



038期同期会

### ◆紫友スタジオ運用管理

同窓生の交流の場として2018年度に開設した紫友スタジオは、母校の正門前、不忍通りに面したキャピタルビル地下1階にあります。2022年度は、同窓会、クラス会・同期会の幹事会、音楽練習、PTA会合などで計125回の利用がありました。特に、紫友オンラ



インセミナーでは配信基地&撮影スタジオとして重要な役割を担っています。

スタジオには電子ピアノ、ミキサーとスピーカー、50型モニター、A3プリンターなどの機材とWiFi環境をそろえ、Web会議やバンド練習、舞台稽古など様々な活動が可能です。

経費削減のため常駐スタッフを配置せず、備品管理やスタジオ利用の課題はありますが、ご利用をお待ちします。申込み方法は下記をご参照ください。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/studio/stdio-manual.pdf>



### ◆紫友オンラインセミナー開催

コロナ禍での新しい交流のかたちとして2020年6月に開始した本セミナーは、年間5回開催で14回目を数えています。講演の内容は、小石川の伝統「リベラルアーツ」に加え、企業経営などビジネステーマも企画しました。海外から生ライブ配信など、新しいアイデアにも取り組み、PTAや現役生の視聴者も増えています。(第1～9回の概要については、会報第48～50号をご覧ください)

◎各回セミナーの講師と概要

第10回：9月24日(土)

「障がい者との共生社会に～ショコラボ・グループの起業を通じての体験～」

講師：伊藤紀幸さん(035E) 一般社団法人AOH代表理事、(株)ショコラボ代表取締役会長

30歳で障害をもった息子さんを授かりました。小学校の初めての父親参観日で、高校を卒業しても月給3千円と聞き愕然。38歳のとき、ヤマト運輸の小倉昌男元社長が障がい者福祉に尽力された「私の履歴書」に影響を受けて脱サラを決意。障がい者たちが働く福祉事業所として全国初のチョコレート工房「ショコラ房」を創業、福祉の古民家レストラン「久右衛門邸」(横浜市)も開業しました。経営者としての理念、これからは誠実に語られる言葉が印象的でした。



第11回：11月26日（土）

「地域企業経営奮闘記 ～企業づくりとまちづくりの35年～」

講師：笠原盛泰さん（030H）（株）ハクヨーコーポレーション 代表取締役

大学卒業と同時に縁あって愛知県豊川市の木材業ハクヨーグループに入社。材木業の修行を経て、社有地の活用事業を一から始めた笠原さん。商業プロデュース、フィットネス事業など多様な地域事業を展開し、会社の主力事業に育て上げました。青年会議所・商工会議所への参画やB-1グランプリ in 豊川の実行委員長を通じた地域づくりにも精力的に貢献。地域企業が発展して、地域の発展に尽力することこそが、相互発展の好循環になるのだと迫力あるお話しを伺いました。



地域企業経営奮闘記～企業づくりとまちづくりの35年～ 笠原盛泰さん（030H）

第12回：2月25日（土）

「英語教育と議論力」

講師：松坂ヒロシさん（019D） 早稲田大学名誉教授  
／秀明大学客員教授

英語ができるようになるためにはどのように学習すれば良いか。実際のコミュニケーションへの対応力を目指す伝達重視のコミュニカティブ・アプローチという英語教育観。そして相手の主張と理由の間に隠れた前提を鵜呑みにしないディベート的発想。このふたつの組み合わせにより、母語話者よりも機能的に英語を使いこなす可能性が拡がると解りやすくお話しされました。また、正しく議論の前提を評価するにはどうすればよいか、事例を用いて丁寧に解説されました。



英語教育と議論力 - 松坂ヒロシ（019D）

第13回：4月22日（土）

「粘って粘って花開いた、米国ナスダック市場での新規株式公開までの私の奮闘記」

講師：鈴木善博さん（029C） Allegro Microsystems Inc. 取締役、取締役会会長

パワー半導体を事業とするサンケン電気に入社、シリコンウエーハの技術者からキャリアをスタート。35歳のときに赤字米国子会社だったアレグロ社の改革を任せられ、現地流経営を徹底し黒字化、その後Private Equityとの企業価値向上を主導します。いかにしてコロナ禍の真っ只中2020年にナスダックへ新規株式上場を達成したかを伺いました。小石川高校の3年間で人と群れないグローバルな生き様を決めたという鈴木さんの熱いメッセージでした。



粘って粘って花開いた 米国ナスダック市場での新規株式公開までの私の奮闘記 - 鈴木善博（029C）

第14回：6月10日（土）

「小石川高校演劇部から劇団民藝の演出家への道」

講師：丹野郁弓さん（本名：奈良岡乃里さん（027C））  
劇団民藝 演出家・翻訳家／聞き手：木村薫さん（027C） 東大名誉教授

丹野さんの舞台をほぼ観てきた同級生の木村さんがインタビューとなり、事前アンケートと会場参加者の質問に丁寧に答えました。早速2週間で翻訳を仕上げ、俳優の宇野重吉さんに認められたことや、仲代達也さんにダメ出ししたエピソードを楽しくお話しされました。丹野さん曰く「演出とは食と似て、味は覚えていなくとも満ち足りた時間を思いださせるものだ」。25歳以下であれば劇団民藝の舞台を年2本まで無料で観劇できる嬉しいルーキーシートのご案内もありました。



小石川高校演劇部から劇団民藝の演出家への道 - 丹野郁弓（奈良岡乃里）（027C）

【番外】 PTA 主催のセミナーに同窓生講師の依頼があり、12月17日（土）、「文系・理系と教養主義—理系「難関学部」としての医学部とその将来展望—」と題し荒木慶彦さん（027C）日本大学医学部病態病理学系微生物学分野・客員教授 / 上席研究員が講演しました。

今年度も幅広い同窓生人脈から講師を発掘し、年間5回のセミナーを着実に開催したいと考えています。皆様のクラスやクラブのお知り合いで、様々な学識・経験をお持ちの方や素敵な活動をされている方をご存知であれば、是非、交流局担当者までご紹介ください。

#### ◆紫友まち歩き会

コロナ感染懸念のため、2022年度の公式開催はオンラインとリアルそれぞれ1回だけとなりました。

詳細については55ページをご参照ください。

[https://www.shiyu-dousoukai.jp/archives/a\\_dousousei/a\\_hito\\_koto/machi/index.html](https://www.shiyu-dousoukai.jp/archives/a_dousousei/a_hito_koto/machi/index.html)

#### ◆「紫友経済人交流会」

様々な業種、職種に広がる経済人OB・現役の交流の場として、世代を超えた新しいネットワーク作りを目的とする交流の活動です。

第3回交流会は2022年10月29日（土）に東京消防庁スクワール麴町で開催し、35名が参加しました。

第4回は、6月18日（日）に同場所で開催しました。会の詳細については57ページをご参照ください。活動にご興味のある方は、是非、経済人交流局担当者までお問い合わせください。

※紫友経済人交流会ホームページ

<https://shiyu-keiei.com/>

#### ◆紫友会地域・職域支部、サテライト等

2022年4月、第8回オンラインセミナーとしてイタリアミラノ在住で紫友会ヨーロッパ支部長に指名された市倉昭一さん（020G）の講演を契機として、4月24日には、日本と世界各地に住む16名が参加してwebでのGlobal懇談会を実施しました。

今後はこれを足掛かりに支部・サテライトのオンライン活動の支援、紫友国際室の立ち上げを目標とします。第2回Global懇談会は7月開催し、国際室の目指す姿を話し合いました。また、6月17日には医療紫友会の懇親会を開催し、26名が集まりました。なお、国内各地の「ご当地紫友会」、会社内や同業界内の「職域紫友会」の新規登録をお待ちします。

## 教育支援局の活動

教育支援局 局長 大場賢一（034E）  
元局長 富田晴彦（032I）

「一般財団法人 紫友会」とともに、教育（SSH含む）活動・クラブ活動・学校生活活動それぞれへ、合計約3.2百万円（財団との合算で約3.8百万円）の支援を行いました。コロナ禍のもと2022年度も各種研修会や大会遠征の回数は例年より少ない状況でしたが、学校からの要望があったものは検討の上すべて対応し、支援物品の納品は11月までに完了しました。

また、今年度の要望品についても、学校予算では購入が難しい物品をとりまとめ、楽器など一部を前倒して納品しました。4月に同窓会窓口の副校長が異動され、新任の先生に引き継がれその後も滞りなく支援を継続しています。

#### ◆教育支援活動

##### ●海外研修支援

2022年度もカーディフ大学への夏期研修は中止となり、Webを通じての研究発表と講義になりました。カーディフ大学への研修費用支払を負担しました。

##### ●SSH支援

2022年度よりSSH第4期5年間のスタートしました。第4期認定には現役生の活発な研究活動が評価されるとともに、同窓生によるSSHの各テーマ研究活動を支援する「小石川メンターバンク」も貢献しました。今期第4期の研究開発課題は、『小石川リサーチラーニング』による、世界の科学技術を牽引する人材の育成です。諸先輩の知見や経験・人脈の支援を継続していきます。

・「物理チャレンジ（姫路：8月23日）」

参加旅費 助成

・「日本生物学オリンピック本選（鶴岡：9月17日）」

参加旅費 助成

・全国高校生中国語発表会本選出場（金沢：1月28日）

参加旅費 助成

#### ◆部活動支援活動

主に各クラブ活動における備品類の支援（貸与）と全国大会等への遠征費用の助成を行いました。具体的な貸与物品名は、『同窓会ホームページ』トップページ右下の『クラブ活動備品支援』『貸与品のリスト』をご覧ください。

●音楽系クラブ

- ・楽器類貸与  
：吹奏楽部、フォークソング研究会
- ・楽器類の修理  
：軽音楽研究会

●文化系クラブ

- ・ロボカップジュニア全国大会（京都：4月22日）  
：物理研究会参加旅費 助成
- ・パーソナルプラネタリウム設備一式：天文研究会（11月納品）
- ・全国高校生伝統文化フェスティバル茶道の部、東京都代表（京都：12月17日）参加旅費 助成
- ・生け花バトル全国大会栗林公園杯決勝（高松：1月21日）参加旅費 助成

●運動系クラブ

- ・軟式野球部ティバッキング用防護ネット、女子バスケ試合用シャツ、水泳部スポーツタイマー、各種トレーニング用機器
- ・物品貸与  
：大型扇風機  
：剣道部、柔道部、体操部（※）

※剣道・柔道場に空調施設が整備されるまで（体操部・音楽系クラブ含む）夏から秋までの5か月間、道場に大型扇風機をレンタル手配して貸与しています。詳細は下記をご覧ください。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/rental/rental-list.html>

◆学校生活支援活動

学校での特別授業をする教室が不足しており、2022年度から特別授業などを行う際に資料室を使用することとなりました。資料室には、府立五中時代、定時制高校の資料などが保管されているため、管理を徹底することを学校に求めています。



パーソナルプラネタリウム



ティバッキング用防護ネット



スポーツタイマー

## 環境企画局の活動

環境企画局長 岡村幸二（021A）

◆2022年度の活動

5月14日、母校の校舎周りにおいて、環境企画局主催の「小石川の杜プロジェクト」植樹祭（第6回）を実施しました。当日は2年生4クラスのチーム、先生チームと同窓会チームのほか、保護者（PTA）から4名の参加があり、また019Fクラスは記念樹の寄付を募り、その代表が植樹をしました。（会報50号既報）

創作展には同窓会としての参加はできず、生徒向けに作成した「小石川の杜プロジェクト」のビデオをアリーナで上映しました。また、大階段の2階掲示スペースでは「伊藤長七」と「杜プロジェクト」のパネルが設置され、説明員による来訪者との対話が実現しました。

◆2023年度の活動と計画

●第7回植樹祭の実施

5月13日（土）、心配された天気も開始の16時にはほぼ雨がやみ、前年度と同様に「小石川の杜プロジェクト」の植樹祭（第7回）がにぎやかに行われました。百周年記念事業の一環で始まった「小石川の杜プロジェクト」は、コロナ禍の2年間を除き、今年で7回目になります。2年生を主体として4クラスのチームを編成し、それに中央委員会、先生、PTA、同窓会の各チームも加わって植樹作業を行いました。2年生の代表と中央委員会の生徒が23名、先生3名、同窓会14名、造園会社スタッフ8名が参加し、みなさん手際よく1時間ほどで作業は完了しました。また、開始前には鳥屋尾校長先生がお見えになり、本活動の目的と意義について親しく歓談することもできました。



開始前の全体説明



植樹の様子

### ●「小石川の杜プロジェクト」小冊子の配布

植樹祭の前には、参加する2年生が多目的ホールに集合し、生活指導部の田代先生を交えて「小冊子」を見ながら、「小石川の杜とは」、「これまでの杜プロジェクトの活動」、「森林はなぜあるのか」などについて説明して意見交換をしました。「小冊子」は2年生を中心に200冊以上配布しました。

### ●今年の創作展に向けて

今年9月の創作展に向けて、植樹祭参加者（生徒・同窓会）の経験を全学年に広げていくために、「小冊子（改定版）」（1000部～2000部）を作成し、毎年2年生が上級生になっても「小石川の杜プロジェクト」への具体的な関りが生まれるように、広報普及活動に取り組みたいと思います。

### ◆植樹祭を終えての感想

#### ①2年生のクラスから

「最初は土汚いって思っていて、作業していて鬱陶しかったですけれど、そのうち自分が自然の一員であるかのように思えてきて、楽しく植樹することができました」（2年生1）

「木を植える段階で土手を作る時に、スコップを使っていたが、土手ができていないから手を使って一緒にやっていたことが、自然とみんなの気持ちがつながったと感じました」（2年生2）

「スコップの偉大さに気づきました」（2年生3）

「最初は女子4人、男子1人なのでなじめるかなとか思いましたが、自分も楽しくなれて良かったと思いました」（2年生4）

#### ②今年の新卒業生から

「実は僕は中2の時に生徒用通用口近くで植えていて、また久々に小石川に来て楽しかったのもあるし、みんな楽しそうにやっていて、すごく良かったなって思いました。」

#### ③同窓会からのエール（017D 柴田）

「僕らがこの植樹祭をいつまで続けるか知っている？」

実は100周年の時にスタートして、前の年の試験植樹を含めて7回目でしょう。これを次の100年、小石川200周年まで続けられたらすごいね。7年であそこまで行ったのだから。あと93年かな。93年、長く植え続けるのは面白いと思う。違う世界を皆さんが作り出すわけ。力を一緒にこう協力してね。ぜひやりとげてほしいなあって。よろしくお祈りします」（拍手）



イベント終了後、生徒・PTAと同窓会の記念撮影

## 基金局の活動

基金局長 杉渕 武 (022C)

### ◆「紫友みらい基金」の実績と予算

基金は10年間で1億円の寄付金を目指しておりますが、2022年度は399名の方々に総額5.3百万円のご寄付をいただきました。前年度も5百万円の実績でしたのでほぼ同額となりました。寄付金は、同窓会会計にとって会費と並ぶ二本柱として、昨年度予算と同額の6百万円を引き続き見込み（計上）しました。

### ◆今後の募金活動について

10年間目標の達成のためには新たな推進策として、昨年度「寄付金への返礼品制度」を創設しました。新しい寄付金の取組が会員と同窓会との強い絆となり、新しい伝統になることを目指したいと考えています。そしてまた、今年度の母校創立105周年に向けて、特別キャンペーンを実施します。

### 【紫友みらい基金 返礼品について】

2022年度から「紫友みらい基金」活動の一環として、ご寄付に対する返礼品のご提供を広く同窓生に呼びかけ、第2期として下記の品々・サービスが決定しました。昨年度年間で127件の申し込みを頂戴しました。同窓会に寄付を下さる方への感謝の印として、さらに同窓生が関わっている商品・サービスなどの紹介も兼ねまして、随時ご案内していきます。

なお昨年度は、寄付にあたって返礼品の申込みをされていない方がほぼ同数おられました。返礼品を見ると母校を思う気持ち、または返礼品をご提供いただいた同窓生の事業を応援したくなる気持ちが高まることを期待し、今年度も募集しております。

※寄付金額に対する返礼品の内容は今後、変更となる場合もあります

※返礼品の内容については次ページ、同窓会公式ホームページで紹介しています

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/index-henrei.html>

紫友みらい基金  
 母校創立105周年募金キャンペーン  
**寄付返礼品及び  
 協賛同窓生のご紹介**

**キャンペーン期間**

2023年9月1日～2024年8月31日

**ご寄付の方法**

61ページ「事務局だより」みらい基金へのご寄付のお願いをご参照ください。

**返礼品の贈呈**

期間内のご寄付（年度会費分を除いた金額）に対して、その都度、返礼品一覧表から希望される物品またはサービス1点を選択し、カテゴリと番号を事務局へご連絡ください。提供される物品とサービスは、紫友同窓会 HP でも詳しくご紹介しています。

**寄付金額とカテゴリ（寄付金額区分）**

A：5千円以上1万円未満 B：1万円以上2万円未満  
 C：2万円以上5万円未満 D：5万円以上  
 ※各カテゴリの内容、組み合わせは、追加・変更となる場合があります。

**【2023年度新規返礼品の紹介】**

**B-6 「我らは長七の教え子だった」（長七物語）**

本書は初代校長伊藤長七の生涯と事績を様々なエピソードから追いかけた第1部と、創作展での生徒・入場者向けの説明・展示パネル及び伊藤が残した冊子類7点を複製してまとめています。

編集・発行は「紫友85周年会編集委員会」。今回、同窓会に本書の著作権が譲渡されました。



**D-6 妙高高原「ペンションムーミンパパ」1名様宿泊券**

新潟県妙高高原、四季折々の自然に恵まれた池の平温泉の観光スポット「いもり池」近くにある温泉ペンションの1泊2食付き1名様分の宿泊券です。オーナーの太田善万さん（021G）の人柄と心を込めたおもてなしが評判の「ペンションムーミンパパ」。ご家族や友人との素敵な旅の思い出を作ってみませんか。



**昨年度から継続する返礼品の紹介**

（D-2 商品は冷蔵宅配便による配送に変更し、通年でお届け可能となりました）

**協賛同窓生のお名前と略称**

塚田憲さん(017D)・(塚)／太田善万さん(021G)・(太)／窪田慎三さん(022D)・(窪)／中村良行さん(029F)・(中)／伊藤紀幸さん(035E)・(伊)／安城守英さん(053F) & あゆみさん(058D)・(安)／紫友同窓会(紫)



B-1 スマホホルダー(塚)



B-2 和柄文庫ブックカバー(窪)



A-1 野老さん意匠マグネット(紫)



A-2 昭和校舎イラストハガキセット(紫)



A-3 オリジナルマスクケース(紫)



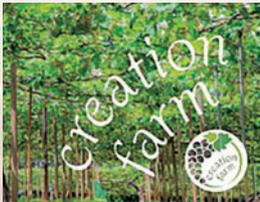
B-3 葡萄酒調味料ヴェルジュ(中)



B-5 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ1kg(安)



C-1 和柄名刺入れ(窪)



C-2 ブドウジュースとヴェルジュ(中)



C-3 葦崎クリエイションファーム製赤ワイン(中)

**母校創立105周年記念  
 キャンペーン**

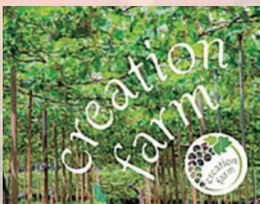
20,000円以上寄付された方（カテゴリC及びカテゴリD対象者）へ合わせてB-6（長七物語）を進呈いたします。



C-5 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ5kg(安)



C-6 小石川百年史3部セット(紫)



D-1 クリエイションファームブドウ狩りセット(中)



D-2 ショコラ房商品詰め合わせ(伊)



D-3 古民家レストラン久右衛門邸ランチコース1名様(伊)



D-4 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ10kg(安)



D-5 カシヤストール(紫)

## 母校創立105周年 事業について

105周年事業実行委員長 富田 晴彦 (032I)

### ◆ 100周年から105周年へ

『百年に一度』に立ち会える奇跡』をテーマに開催された「五中小石川創立100周年祝賀パーティー」から早5年が過ぎ、今秋には創立105周年を迎えます。

100周年という区切り・モチベーションがあまりにも大きかったため、次に向けて何をするかという準備が非常に遅れておりましたが、さらなる区切りとなる110周年へとつなげるべく、このたび同窓生の皆さまに以下の通り105周年事業についてお知らせします。

### ◆ 105周年事業 総会と記念イベント

#### ● 今回のテーマは、「さらにつながる」

100周年を超えて、あらためてクラブや学年・クラスなど、小石川で築いた横と縦の関係・繋がりをさらに広げ、深めるべく、再構築のきっかけとしてもらいたいという想いがあります。

この5年間を思い返しますと、日本国中で『『通常の生活』が変化せざるを得ない』長い期間ではありましたが、ようやくゴールデンウィーク明けから、少しずつ『通常の生活』が戻りつつあります。

様々な場所で人流や交流が大幅に制限されていた期間を終え、この先も継続して五中小石川の交流を深め、次の5年10年に繋いでいく、その契機としていきたいと考えています。

今回は、「紫友同窓会総会」と「懇親パーティー」の2部制にて2023年10月22日(日)に開催いたします。2003年の85周年以来20年ぶりに小石川中等教育学校のアリーナで総会を行い、それに引き続き学校からほど近い、文京グリーンコート2Fキャフテリアにて懇親パーティーの準備を進めています。それぞれの企画構成については現在立案の最中ですが、世代を超えた同窓生が参集する貴重な機会ですので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

具体的な開催概要や申し込み方法が固まりましたら、同窓会ホームページ、紫友ニュースレターなどの方法により速やかに皆様にお知らせいたします。今しばらくお待ちくださいますようお願い申し上げます。

## 105周年懇親パーティー助っ人募集

本誌表紙裏でご案内のとおり、来る10月22日に開催される総会と懇親パーティーには、会の準備・運営・撤収などに多くの人手が必要となっています。同窓会役員・事務局の人員は限られており、一方で外注は費用がかかることから、テーマ「ツナガル」の趣旨からも私たちの本意ではありません。

同窓生(特に036~040期)の皆さんに訴えます。今こそ、貴方の「小石川つながり」を、周年イベントに参加という形で体感しませんか。

よし、協力しようと思われた方は、お問い合わせ、登録を同窓会事務局までメールでお寄せ下さい。



## 中華料理「味珍(ミチン)」(旧千石中華)

(住 所) 文京区本駒込6丁目2-2

(千石1丁目交差点みずほ銀行角から巣鴨駅方面へ40m)

(営業時間) 午前11時~午後2時・午後5時~11時(日曜定休)

(電 話) 03-5976-1220 又は 090-8552-1198

※小石川同窓会・PTA/学校関係皆様のご来店を心よりお待ちしております

※宴会コース料理と予算については本会報広告を見たと言ってご相談ください

(店主)林 紹福(リン ショウフク)

## その他の各局・委員会の活動

### (1) 基金会計対象局

#### ◎伊藤長七研究委員会

初代校長・伊藤長七の教育思想を研究・情報発信するため、諏訪寒水会とも連携して継続的に活動を行っています。また、小諸寒水会の立ち上げに向けて、諏訪市教育長の三輪晋一先生にもお力添えをいただき活動中です。毎年実施していた「PTA 日帰り研修」は、2020年・2021年に続きコロナのため昨年度も中止となりました。故依同窓会前会長のご尽力で2019年9月から始まった東洋英和女学院大学院との交流は今後も維持していきます。伊藤長七先生の玄孫である伊藤りんさんが2023年3月に小石川中等教育学校を卒業されました。

また、紫友85周年会編集委員会により、同会メンバーが調査研究してきた伊藤長七の足跡と関連資料を「我らは伊藤長七の教え子だった」(略称「長七物語」)として自費出版されました。同窓会では紫友85周年会からこの本の著作権を無償で譲り受け、今後の普及啓蒙活動に活用していきます。



### (2) 同窓会会計対象局

#### ◎部活後援局

もうひとつの小石川である部活動OB/OG会の代表者を横に繋ぐ活動を開始しました。2月25日に第1回OB・OG会幹事会をオンラインで開催し、軟式野球部、バスケットボール部、バレー部、剣道部、リトルストーンズ、小石川フィルハーモニーオーケストラ部、サッカー部の代表者が参加しました。

今年度は、幹事会への参加団体数の増加を図って、各部の活動情報を広く共有する会議を実施します。そのため活動の周知を目的に、新たにfacebook上で部活後援局のページを立ち上げました。

クラス評議員とクラスメイトが相互に情報を展開、紹介して、新たなつながりの発見と登録申請をお待ちしています。卒業後、部活OB/OG会に参加されている方は、是非、部活支援局担当者までご連絡ください。

#### ◎広報局

##### ◆会報グループ

会報50号の発行(印刷19,000部):2022年8月に郵送配布しました。

(内容)

『特集:つながる・ひろげる

—コロナ禍の同窓会活動 2—』

- ・2022年度評議委員会報告(郵送・メールによる議案説明、承認)
- ・コロナ禍での同窓会各局の活動と学校関連行事を紹介、報告
- ・紫友オンラインセミナー開催報告(第4回~第9回)
- ・各局の活動報告
- ・みらい基金寄付返礼品の紹介

##### ●先生お元気ですか

岩田浩司先生(生物) 1981.4~1997.3 在任

三浦吉明先生(国語) 1982.4~1994.3 在任

##### ●同窓生訪問

御厨 貴さん(022H)「開拓」編集部の3年間と進路を決めた川野先生の助言

##### ●わが校友の精神を

##### ①認知症家族介護者と共に歩む

蛭間マサ子さん(022C)

##### ②鉱山技師として歩んで

境大学さん(023C)

##### ③コロナ禍でのパリ商品展示会

松本好史さん(035G)

##### ④AIとジャズと 松田圭子さん(036D)

##### ⑤あるラーメン屋のオヤジのこと

—故伊藤陸君(022I)の軌跡—

・南高之さん(022C)・柳川弘行さん(022G)

・天野隆義さん・渡邊伸廣さん(022I)

##### ●同期会・クラス会(オンラインクラス会実施報告)

・06E クラス文集「礎」発行

・015A こんちゃん会

##### ●クラブOPつながり

・紫友美術会

##### ●小石川つながり

・紫友まち歩き ・031 有志のまち歩き

・第2回紫友経済人交流会

・紫友85周年会編集委員会

「我らは伊藤長七の教え子だった」刊行

・御厨貴さん(022H)と福留真紀さん(044C)の対話

## ◆HP グループ

- ・毎月ついに公式ホームページを更新、必要に応じて、追加更新を行っています。  
<https://www.shiyu-dousoukai.jp/index.html>
- ・コロナ禍の影響で、相変わらず「紫友まち歩き」やクラス会が開かれず、掲載の分量も低下したままです。
- ・会報グループと連携して、会報のバックナンバーの掲載を行っています。
- ・母校のホームページの「お知らせ」へリンクを張って、現役生の情報もいくつか掲載しています。

## ◎資料局

百周年記念事業として立ち上げた、五中・小石川の歴史をインターネット上で記録、公開する「五中・小石川デジタルアーカイブ (<https://koishikawa.wiki/>)」の維持管理を行っています。

2022年度は、「017D」、「伊藤長七パネルプロジェクト」、「バレー部」といった項目で記事を追加しました。資料局では、五中、小石川高校、小石川中等教育学校に関連するさまざまな資料の提供をお待ちしています。在学中の学校生活に関する資料がありましたら、紫友同窓会事務局までご連絡ください。

## ◎事務局

2022年度の主な活動報告は、下記の通りです。

- 4月 2021年度決算報告作成、会計監査
- 5月 2022年度卒業記念品選定（印鑑）
- 6月 会報原稿作成（寄付一覧・学校情報・評議委員会報告・事務局便り・逝去者一覧等）  
評議委員会議案書発送（郵送/メール）・議決結果集計
- 7月 会報発行準備（宛名台紙作成、発送先リスト作成等）
- 8月 会員・客員への会報郵送
- 9月 在校生・教職員への会報配布
- 10月 海外会員への会報郵送（前年度会費納入者のみ）
- 11月 新入会員（6年生）への入会承諾確認票配布
- 12月 新入会員（6年生）から入会承諾確認票回収
- 1月 新入会員（6年生）への入会金・会費請求（学年積立金から振替）
- 2月 各局から2023年度予算提出
- 3月 2023年度予算案編成

## 【随時対応業務】

- 郵便物等受取り
- 銀行・郵便局対応（記帳、入出金）
- 会費・寄付等入金処理
- 各局・学校経費等支払い対応
- Web名簿更新（住所判明・転居・改姓・逝去・退会）
- 問い合わせ対応（郵便・メール・電話・留守電・FAX・来局）
- 会報原稿を受取り広報局長に転送（メール・郵送等）
- 会報宛先不明戻り対応（Web名簿住所不明処理・追跡メール送付・住所判明者に会報再送）
- 東洋文庫会員証発行
- 紫友文庫蔵書寄贈対応（採番・配架・閲覧・貸出返却・HP掲載依頼）
- HP更新情報作成（事務局担当分）
- 局長会開催（資料作成・開催案内メール送付：月1回）
- 理事会開催（資料作成・開催案内メール送付・議事録作成と配布：月1回）

## 役員公選結果の報告

選挙管理委員長 理事 伊藤正俊（019E）

今回の役員公選におきましては、会長と副会長の立候補者数とその定数を超えませんでしたので、選挙管理規定第10条と第11条第2項の規定に従って、本評議委員会において信任審議を行い、信任決議がなされた者を当選人とみなすこととなります。

副会長候補者 久光 一誠（ひさみついつせい）039J  
（所信） 省略

審議の結果、出席者から不同意の意見無く、満場一致で久光一誠さんの選任が決定しました。

# 2022年度同窓会運営に関する決算・監査報告

## I. 2022年度収支実績

2023年3月31日

### 1. 収支総括

(単位: 円)

	2021年度実績	2022年度予算	2022年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
前期繰越金(A)	26,195,231	26,889,364	26,889,364	0	
当年度収入合計(B)	6,967,333	7,171,000	7,098,368	-72,632	
総収入合計(C=A+B)	33,162,564	34,060,364	33,987,732	-72,632	
年度支出合計(D)	6,273,200	7,343,000	6,714,244	-628,756	
次期繰越金(E=C-D)	26,889,364	26,717,364	27,273,488	556,124	
当年度収支(F=B-D)	694,133	-172,000	384,124	556,124	

### 2. 収入

(単位: 円)

収入内訳	2021年度実績	2022年度予算	2022年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
i) 年会費	5,994,000	6,150,000	6,096,000	-54,000	納入者 3,048名(対象者約18,000名)
ii) 入会金	888,000	900,000	762,000	-138,000	第12回中等教育学校卒業生127名(辞退者26名)
iii) 利息	333	1,000	368	-632	
iv) 寄付	0	0	0	0	寄付金は基金会計に計上
v) 広告料	85,000	120,000	240,000	120,000	会報掲載広告
当年度収入合計(B)	6,967,333	7,171,000	7,098,368	-72,632	
前期繰越金(A)	26,195,231	26,889,364	26,889,364	0	※2
総収入合計(C=A+B)	33,162,564	34,060,364	33,987,732	-72,632	

### 3. 支出

(単位: 円)

支出内訳	2021年度実績	2022年度予算	2022年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
<b>局運営費</b>					
部活後援局	0	60,000	0	-60,000	OB・OG活動支援関連会議費等
広報局	31,128	54,000	35,949	-18,051	会報制作関連交通費、消耗品費等
資料局	0	10,000	0	-10,000	資料室/デジタルアーカイブ維持管理関連会議費等
事務局	6,022	10,000	3,597	-6,403	総務庶務、法務対応・資料作成等
小計(d1)	37,150	134,000	39,546	-94,454	
<b>事業費</b>					
部活後援局	0	0	0	0	OB・OG活動支援
広報局	1,705,000	1,930,000	1,738,000	-192,000	会報制作費
資料局	0	0	0	0	資料室/デジタルアーカイブ維持管理
事務局	593,555	600,000	593,555	-6,445	名簿システム使用料
	150,100	150,000	145,350	-4,650	卒業記念品(印刷)
	124,308	165,000	82,478	-82,522	プロバイダ・サーバー利用料、IT環境整備等
小計(d2)	2,572,963	3,025,000	2,639,383	-385,617	
<b>事務運営費</b>					
1. 人件費	825,428	850,000	1,168,688	318,688	事務局員報酬(常勤2名、返礼品作業等増加)
2. 消耗品備品費	967,740	890,000	920,403	30,403	会報発送関連、不明者一覧印刷、コピー機・プリンター等
3. 光熱費	41,964	30,000	53,800	23,800	事務局電気料金
4. 郵送料	1,289,186	1,434,000	1,287,553	-146,447	会報発送、委員会案内状発送、切手等
5. 電話代	72,202	70,000	72,990	2,990	事務局電話料金
6. 振込手数料	456,947	600,000	528,174	-71,826	郵便振替、銀行振込、自動引落手数料他
7. 会議費	1,073	65,000	0	-65,000	評議委員会懇親会費用補填、茶業等
8. 慶弔費	3,047	30,000	3,707	-26,293	弔電、供花
9. 交通費	0	5,000	0	-5,000	事務局員交通費
10. 雑費	0	10,000	0	-10,000	印紙代、合鍵等
小計(d3)	3,657,587	3,984,000	4,035,315	51,315	
予備費(d4)	5,500	200,000	0	-200,000	
当年度支出合計(D=d1+d2+d3+d4)	6,273,200	7,343,000	6,714,244	-628,756	
次期繰越金(E=C-D)	26,889,364	26,717,364	27,273,488	556,124	※4
総収入合計(C=D+E)	33,162,564	34,060,364	33,987,732	-72,632	
当年度収支(F=E-A)	694,133	-172,000	384,124	556,124	※3

## II. 2022年度貸借対照表

(単位: 円)

科目	金額	備考	科目	金額	備考
資産の部			負債・正味資産の部		
流動資産	56,235,857		流動負債	28,962,369	
現金預金	56,235,857		基金寄付預り金	27,422,369	
			未払金*	1,540,000	
			正味資産		
			(前期正味資産)	(26,889,364)	※2
			(当期正味資産増減)	(384,124)	※3
			当期正味資産	27,273,488	※4
資産の部計	56,235,857	※1	負債・正味資産の部計	56,235,857	

\*未払金: 一日の振込限度額制限の為、2023.4.4振込

### 当期正味資産(次期繰越金)の内訳

(単位: 円)

内訳	金額
預金 みずほ銀行	32,536,035
内訳 (定期預金)	11,000,000
(普通預金)	75,123
(普通預金)	20,280,341
(普通預金)	1,180,571
貯金 郵便貯金	23,699,822
内訳 (郵便貯金)	7,932,767
(郵便振替)	16,667,055
預貯金合計	56,235,857
資産合計(次期繰越金)	56,235,857

(注) この他に、紫友スタジオ分敷金322,224円がある。

2022年度会計の原簿及び諸証拠書類を照合した結果、正確に処理されていることを認めます。

2023年4月29日

監事 高橋 俊一 ㊞

監事 伊藤 みどり ㊞

監事 月田 陽子 ㊞

以上の通り報告いたします。

2023年4月29日

会長 戸叶 司武郎

## 2022年度基金事業に関する決算・監査報告書

### I. 2022年度収支実績

2023年3月31日

#### 1. 収入

(単位: 円)

収入内訳	2021年度実績	2022年度予算	2022年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
寄付金	5,000,087	6,000,000	5,275,191	-724,809	
利息	92	1,000	92	-908	紫友会寄付預り口座
収入合計(A)	5,001,179	6,001,000	5,275,283	-725,717	
前期繰越金(B)	38,292,742	38,662,237	38,662,237	0	
収入総計(A+B)=C	43,292,921	44,663,237	43,937,520	-725,717	

#### 2. 支出

(単位: 円)

支出内訳	2021年度実績	2022年度予算	2022年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
①交流局	55,674	462,000	22,332	-439,668	紫友スタジオ消耗品、交通費等
②教育支援局	0	15,000	0	-15,000	会議費、交通費、郵送料
③環境企画局	34,724	40,000	9,643	-30,357	小石川の社資料作成、植樹祭反省会
④基金局	0	10,000	0	-10,000	会議費、交通費、郵送料
⑤伊藤長七研究委員会	9,900	139,000	99,167	-39,833	諏訪寒水会、小諸寒水会出張旅費
⑥105周年事業	0	100,000	0	-100,000	
⑦特別委員会(百年史残作業)	0	0	0	0	
小計	100,298	766,000	131,142	-634,858	
①交流局	1,982,014	4,222,000	1,851,187	-2,370,813	紫友スタジオ賃料、電話代、備品等
②教育支援局	1,551,034	5,370,000	3,171,746	-2,198,254	楽器購入・貸与(償却)他部活支援
③環境企画局	462,000	950,000	916,300	-33,700	小石川の社PJ(植樹祭2年分実施)
④基金局	0	800,000	454,470	-345,530	寄付返礼品代金
⑤伊藤長七研究委員会	0	0	0	0	
⑥105周年事業	0	0	0	0	
⑦特別委員会(百年史残作業)	0	200,000	141,900	-58,100	百年史訂正表、「みんなの百年」内容差替
小計	3,995,048	11,542,000	6,535,603	-5,006,397	
1. 人件費	535,338	1,520,000	432,283	-1,087,717	事務局15人、交流室(紫友スタジオ管理)、アルバイト
2. OPP封筒代	0	0	0	0	
3. 短名台紙作成・印刷費	0	0	0	0	
4. 封入作業費	0	0	0	0	
5. 届出し費用・郵送料	0	200,000	0	-200,000	*返礼品送料
6. その他経費	0	0	0	0	
小計	535,338	1,720,000	432,283	-1,287,717	
予備費	0	200,000	0	-200,000	
支出合計(D)	4,630,684	14,228,000	7,099,028	-7,128,972	
次期繰越金(C=D-E)	38,662,237	30,435,237	36,838,492	6,403,255	
再計(D+E)	43,292,921	44,663,237	43,937,520	-725,717	
当年度収支(A-D)	369,495	-8,227,000	-1,823,745	-6,403,255	

\*返礼品代に送料が含まれて請求

## II. 2022年度貸借対照表

(単位: 円)

科目	金額	備考	科目	金額	備考
資産の部			負債・正味資産の部		
流動資産	36,838,492		正味資産		
現金預金	9,416,123		普通預金: 寄付預り口座	38,662,237	
未収金	27,422,369		同窓会預り分	当期正味資産増減	-1,823,745
				当期正味資産	36,838,492
資産の部計	36,838,492		負債・正味資産の部計	36,838,492	

### 当期正味資産(次期繰越金)の内訳

(単位: 円)

内訳	金額
預金 みずほ銀行	9,416,123
内訳 普通預金: 寄付預り口座	9,416,123
預貯金合計	9,416,123
その他資産	27,422,369
資産合計(次期繰越金)	36,838,492

2022年度会計の原簿及び諸証拠書類を照合した結果、正確に処理されていることを認めます。

2023年4月29日

監事 高橋 俊一 ㊞

監事 伊藤 みどり ㊞

監事 月田 陽子 ㊞

以上の通り報告いたします。

2023年4月29日

会長 戸叶 司武郎

# ● 同窓会会計 2023 年度予算案

## 1. 総括

(単位：円)

当期収入総額	当期支出総額	当期収支
7,290,300	7,485,000	- 194,900

## 2. 収入

(単位：円)

収入内訳	2022年度 予算	2022年度 実績	2023年度 予算案	23予算- 22実績	23予算- 22予算	備考
年度会費	6,150,000	6,096,000	6,150,000	54,000	0	2022年度納入会員 3,048名(対象者約18,000名)
入会金	900,000	762,000	900,000	138,000	0	2022年度卒業生入会127名(@6千円)
利息	1,000	368	300	- 68	- 700	
寄付	0	0	0	0	0	寄付は基金会計に計上
広告料	120,000	240,000	240,000	0	120,000	会報掲載広告料
当年度収入計(A)	7,171,000	7,098,368	7,290,300	191,932	119,300	
前期繰越金(B)	26,889,364	26,889,364	27,273,488	384,124	384,124	
収入総計(A+B)=C	34,060,364	33,987,732	34,563,788	576,056	503,424	

## 3. 支出

(単位：円)

支出内訳	2022年度 予算	2022年度 実績	2023年度 予算案	23予算- 22実績	23予算- 22予算	備考
部活後援局	60,000	0	160,000	160,000	100,000	OB・OG会活動支援
広報局	54,000	35,949	56,000	20,051	2,000	会報・ホームページ・メルマガ・SNS等
資料局	10,000	0	10,000	10,000	0	資料室管理、デジタルアーカイブ維持管理
事務局	10,000	3,597	10,000	6,403	0	事務・会計・名簿管理・情報管理・総務庶務・法務対応・資料作成
小計	134,000	39,546	236,000	196,454	102,000	
部活後援局	0	0	0	0	0	OB・OG会活動支援
広報局	1,930,000	1,738,000	1,940,000	202,000	10,000	会報・ホームページ・メルマガ・SNS等
資料局	0	0	0	0	0	資料室管理、デジタルアーカイブ維持管理
事務局	600,000	593,555	600,000	6,445	0	名簿システム使用料
	150,000	145,350	150,000	4,650	0	卒業記念品(印鑑)
	165,000	82,478	165,000	82,522	0	プロバイダ・サーバー利用料、IT環境整備等
	180,000	80,000	180,000	100,000	0	東洋文庫会費
小計	3,025,000	2,639,383	3,035,000	395,617	10,000	
1. 人件費	850,000	1,168,688	850,000	- 318,688	0	事務局員報酬(常勤2名)
2. 消耗品備品費	890,000	920,403	890,000	- 30,403	0	会報宛名印字、封入袋、PC/WLAN/コピー機関連、プリンタ関連
3. 光熱費	30,000	53,800	30,000	- 23,800	0	事務局電気料金
4. 郵送料	1,434,000	1,287,553	1,614,000	326,447	180,000	会報発送・封入セット、委員会案内状発送、切手、不明者一覧他
5. 電話代	70,000	72,990	70,000	- 2,990	0	事務局電話料金
6. 振込手数料	600,000	528,174	600,000	71,826	0	郵便振替、銀行振込、自動引落手数料他(事務局)
7. 会議費	65,000	0	65,000	65,000	0	評議委員会懇親会費用補填、茶業等(事務局)
8. 慶弔費	30,000	3,707	30,000	26,293	0	0
9. 交通費	5,000	0	5,000	5,000	0	事務局員交通費
10. 雑費	10,000	0	10,000	10,000	0	0
小計	3,984,000	4,035,315	4,164,000	128,685	180,000	
子備費(基金除く)	200,000	0	50,000	50,000	- 150,000	
当年度支出合計(D)	7,343,000	6,714,244	7,485,000	770,756	142,000	
次期繰越金(C-D)=E	26,717,364	27,273,488	27,078,788	- 194,700	361,424	
再計(D+E)	34,060,364	33,987,732	34,563,788	576,056	503,424	
当年度収支(A-D)	- 172,000	384,124	- 194,700	- 578,824	- 22,700	

# ● 基金会計 2023 年度予算案

## 1. 収入

(単位：円)

収入内訳	2022年度 予算	2022年度 実績	2023年度 予算案	23予算- 22実績	23予算- 22予算	備考
寄付金	6,000,000	5,275,191	6,000,000	724,809	0	
周年行事積立金	0	0	3,000,000	3,000,000	3,000,000	積立金：600千円/年×5年間
利息	1,000	92	100	8	- 900	
当年度収入計(A)	6,001,000	5,275,283	9,000,100	3,724,817	2,999,100	
前期繰越金(B)	38,662,237	38,662,237	36,838,492	- 1,823,745	- 1,823,745	
収入総計(A+B)=C	44,663,237	43,937,520	45,838,592	1,901,072	1,175,355	

## 2. 支出

(単位：円)

支出内訳	2022年度 予算	2022年度 実績	2023年度 予算案	23予算- 22実績	23予算- 22予算	備考
①交流局	462,000	22,332	432,000	409,668	- 30,000	交流室事業
②教育支援局	15,000	0	15,000	15,000	0	教育支援局事業
③環境企画局	40,000	9,643	40,000	30,357	0	環境企画局事業(小石川の社PJ)
④基金局	10,000	0	10,000	10,000	0	基金局事業(返礼品)
⑤伊藤長七研究委員会	139,000	99,167	139,000	39,833	0	諏訪寒水会、小語寒水会出張旅費
⑥105周年事業	100,000	0	70,000	70,000	- 30,000	105周年事業経費
⑦特別委員会(みん百残作業)	0	0	0	0	0	みん百部会残作業
小計	766,000	131,142	706,000	574,858	- 60,000	
①交流局	4,222,000	1,851,187	4,200,000	2,348,813	- 22,000	交流室事業
②教育支援局	5,370,000	3,171,746	5,370,000	2,198,254	0	教育支援局事業
③環境企画局	950,000	916,300	1,020,000	103,700	70,000	環境企画局事業(小石川の社PJ)
④基金局	800,000	454,470	1,300,000	845,530	500,000	基金局事業(返礼品)
⑤伊藤長七研究委員会	0	0	100,000	100,000	100,000	伊藤長七動画作成
⑥105周年事業	0	0	3,842,000	3,842,000	3,842,000	105周年総会、懇親パーティ
⑦特別委員会(みん百残作業)	200,000	141,900	0	- 141,900	- 200,000	みん百部会残作業
小計	11,542,000	6,535,603	15,832,000	9,296,397	4,290,000	
1. 人件費	1,520,000	432,283	1,280,000	847,717	- 240,000	事務局2人(常勤1、非常勤2)、交流室(兼友スタジオ管理1)
2. OPP封筒代	0	0	0	0	0	
3. 宛名台紙作成・印刷費	0	0	0	0	0	
4. 封入作業費	0	0	0	0	0	
5. 局出し費用・郵送料	200,000	0	850,000	850,000	650,000	返礼品送料(基金局)
6. その他経費	0	0	100,000	100,000	100,000	
小計	1,720,000	432,283	2,230,000	1,797,717	510,000	
子備費	200,000	0	200,000	200,000	0	
当年度支出合計(D)	14,228,000	7,099,028	18,968,000	11,868,972	4,740,000	
次期繰越金(C-D)=E	30,435,237	36,838,492	26,870,592	- 9,967,900	- 3,564,645	
再計(D+E)	44,663,237	43,937,520	45,838,592	1,901,072	1,175,355	
当年度収支(A-D)	- 8,227,000	- 1,823,745	- 9,967,900	- 8,144,155	- 1,740,900	

# 税理士法人タックスソリューション

税理士 倉林俊男 015F

〒150-0011 渋谷区東 3-25-4-703

TEL 03-3444-7391 FAX 03-3444-8361

税金のこと  
お気軽に  
ご相談  
ください。

## 紫友同窓会 2023 年度役員一覧

役員	評議委員	新任・留任・再任	備考
会長 027C 戸叶 司武郎		再任 (3期1年目)	交流局 局長
副会長 021G 鈴木 由美子		留任 (1期2年目)	特命事項担当
副会長 022E 並木 隆	○	再任 (3期1年目)	広報局 局長
副会長 028C 小堤 康史		再任 (3期1年目)	(一財)紫友会 理事長
副会長 039J 久光 一誠☆		新任	資料局 局長
副会長 040G 中代 次郎	○	再任 (3期1年目)	部活後援局 局長
理事 018I 河井 興正		再任 (3期1年目)	交流局・基金局 局員
理事 019E 伊藤 正俊	○	再任 (3期1年目)	基金局 局員
理事 021A 岡村 幸二		再任 (3期1年目)	環境企画局 局長
理事 022D 杉渕 武	○	再任 (3期1年目)	基金局 局長、環境企画局 局員
理事 023C 古山 光久	○	留任 (2期2年目)	伊藤長七研究委員会 委員長
理事 027C 木村 薫☆		新任	教育支援局 局員
理事 027B 村上 克己☆		新任	交流局 局員、105周年実行委員会 委員
理事 029C 鈴木 善博☆		新任	交流局 局員
理事 030H 笠原 盛泰	○	再任 (2期1年目)	交流局 紫友経済人交流会担当
理事 032I 富田 晴彦	○	再任 (3期1年目)	105周年実行委員会 委員長
理事 033B 今村 郁男☆		新任	部活後援局 局員、105周年実行委員会 委員
理事 034E 大場 賢一		留任 (1期2年目)	教育支援局 局長
理事 035C 虫明 智恵子		再任 (3期1年目)	広報局 局員
理事 035D 河村 英敏	○	再任 (3期1年目)	部活後援局 局長、交流局 副局長
理事 064B 渡邊 和真		再任 (3期1年目)	IT 環境改善担当
監事 019E 高橋 俊一	○	再任 (2期1年目)	活動及び会計監査担当、広報局・環境企画局 局員
監事 028E 伊藤 みどり		再任 (3期1年目)	活動及び会計監査担当
監事 029B 月田 陽子	○	再任 (3期1年目)	活動及び会計監査担当

### ☆ 新任役員



副会長 久光一誠



理事 木村薫



理事 村上克己

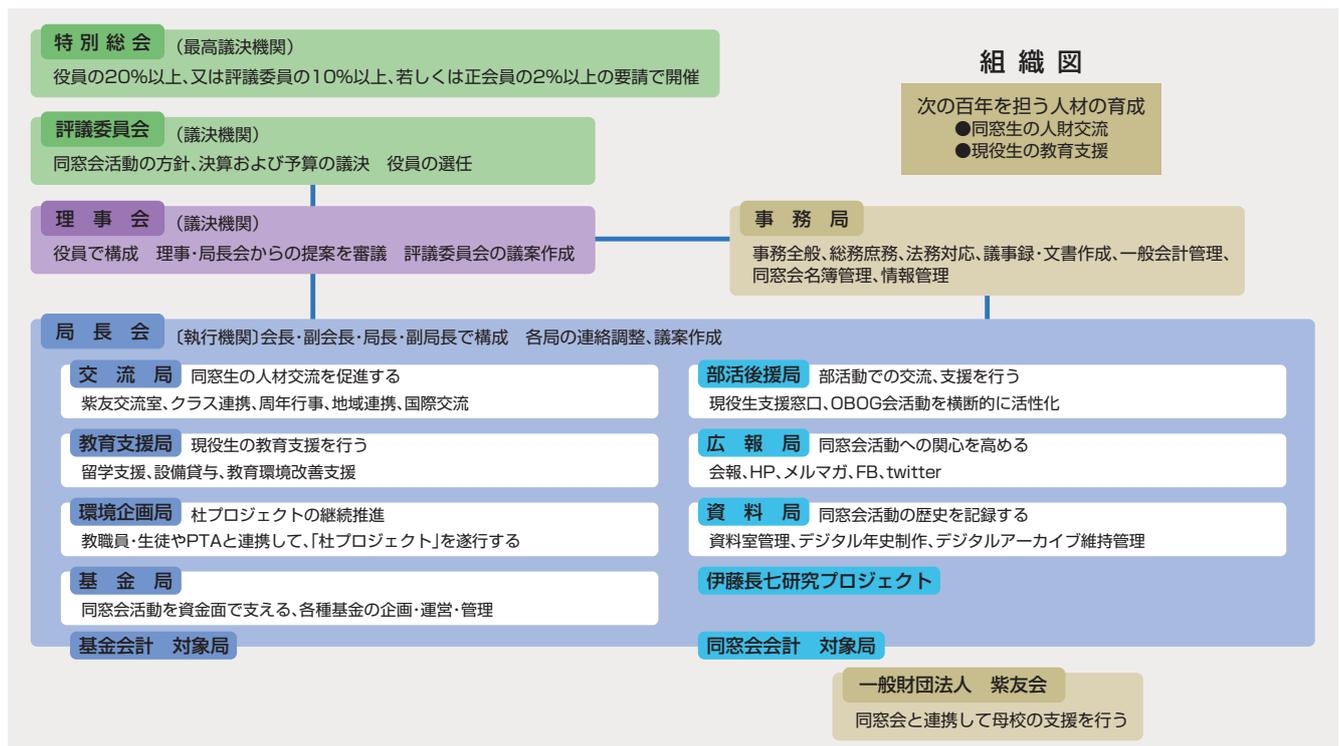


理事 鈴木善博



理事 今村郁男

## 紫友同窓会 新組織図



# 同窓生訪問

## ある金融マンの歩んだ道 —バブル・世界金融危機・銀行再編、 時代の波を受けとめて—

2023.04.17

030C 野村 勉

今回の「同窓生訪問」は、第一勧業信用組合理事長として、日々、金融面から地域経済の振興と会員の支援に奮闘されている野村勉さん（030C）を訪ねました。

創立百周年事業として同窓会が制作した入学年次ごとの年代記『みんなの百年』。その129ページ、1975年入学030期の記事として紹介されたのは「9.11同時多発テロで九死に一生を得た、いたずら好きな優等生」。

さて、その優等生は、バリバリの銀行マンとして昭和から平成に続く日本経済の渦中においてどのように身を処したのか、また、同窓生の中で唯一無二といえる体験をどのように受けとめたのか、長時間のインタビューを2部構成でお届けします。 並木隆（022E）

### ◎最初に出身と家族構成についてお聞かせください。

——北区の王子です。父が富士銀行の行員で、名古屋支店に勤務している時に生まれたので、出生地は名古屋ですが、名古屋では伊勢湾台風に遭遇し、私はその時赤ん坊でしたが、家族で避難したと聞きました。1歳に満たない時に東京に戻り、社会人になるまで王子本町の2丁目で暮らしました。家族は両親と姉、妹の3人きょうだいで、私は真ん中です。父も子供3人も皆王子第二小学校の卒業生です。



### ◎どんな少年時代を過ごされたんですか？

——子供の頃はまだ空き地だらけ。遊ぶところはいっぱいあって主に虫捕りをしていましたね。バッタとかカマキリとか蝶とか。真っ暗になるまで遊んでいました。当時、王子には米軍の野戦病院が今の中央公園の辺りにありました。ベトナム戦争の頃、1968年には反対運動が起こり、投石もあって危なかったですよ。小

学生の頃は、草野球やプラモデルにも熱中しました。

### ◎勉強の方はいかがでしたか？

——宿題はやりたくなくてやらない子でした。反抗心というより、遊ぶことが好きだったんです。だから先生によく立たされていました。勉強はしませんでした。成績は良かったので、生意気な子供に思われたかもしれません。姉と妹は同じ学校なので、「また立たされていたよ」なんて、よく言い付けられたものです（笑）。

### ◎中学校はどちらですか？

——十条中学です。当時は結構、荒れていました。卒業式の日、校門前にバトカーが待機していたこともあり。中学時代は1学年に7クラスもあって、1クラス40人ほど。バスケットボール部の活動に夢中であまり勉強せず、塾などには行っていませんでした。

### ◎勉強しなくても成績が良かったのはなぜですか？

——試験の時だけは勉強しましたが、その時だけやって、すぐに忘れる……（笑）。小石川高校（学校群41群）への進学は内申書でほとんど決まっていたと思います。内申書重視の時代で、国語・算数・英語が5点で、あとの6教科を1.2倍にして合計が51になる。それと試験の点数を組み合わせた座標軸で合格ラインが算出されるのですが、内申書が良かったので合格はまず問題ないと思っていました。小石川が地域の公立高では最も良いイメージで、本命でした。

### ◎高校入学は75年（昭和50年）ですね。どんな高校生でしたか？

——やはり多感な時期でしたね。その年代は妙に哲学的になるというか。いろいろな本を読んだり、青くさいですが、例えば「善とは何か」などということをして友人と議論をしたりしていました。部活は中学と同様、バスケットボール部に入りましたが、思うところあって残念ながらやめてしまい、将棋部に一応籍を置いていましたが、基本的にはクラスの友人と喫茶店に入って、いろいろなことを語り合っていました。巣鴨に白樺とかニュープリンスとか白鳥とか喫茶店があって、毎回同じだと飽きてしまうので、その3つをぐるぐる回っていました（笑）。高校1年の冬休みにスキー教室があって、それに参加したら結構面白くて、その後すっ

かりハマってしまい、今も趣味の一つです。

### ◎当時、印象に残っている思い出は？

——高校に入ってすぐに国鉄のストライキがあって、よく休みになりました。運動会、創作展、芸能祭で、春から秋まで勉強らしい勉強は少なかったような気がします。（社会問題は）高校生になるまで何もわからなかったけれど、興味を持っていた友人とドキュメンタリー映画を一緒に見に行き、狭山事件などのことを知り、世の中いろいろあるんだなと感じました。放課後に友達同士でそんな話をしたものです。

### ◎担任の先生は？

——生物の下河嗣朗先生です。高校3年の時、下河先生は教頭として他校に転出したので、3学期だけ英語の新貢治先生になりました。下河先生は当時40代後半だったと思いますが、真面目な先生という印象です。



下河嗣朗先生

### ◎ほかに印象に残っている先生は。

——強烈に印象に残っているのは（漢文の）鈴木由次先生です。ほかには体育の岡村（茂）先生と西中（良夫）先生。地理の高野（繁）先生、数学の橋本（弘子）先生など、名物教員と呼べる方々が大勢いました。そうそう、英語の井上（喜八郎）先生、三浦（訖）先生は独特の雰囲気のある方でした。国語の戸部（史郎）先生は、いつも真面目に淡々と授業をしますが、ある時突然、浅丘ルリ子の「愛の化石」がどうのこうのと大真面目に語り出して、とても可笑しかったですね。



030期担任団 後列右から3人目 新貢治先生

### ◎先生にも何か得意の悪戯をされたとか。

——英語の三浦先生が、辞書は研究社のもの以外に使

用するな、三省堂の辞書なんか使うなと言うわけです。そこで私は、いたずら心を起こして、神保町の三省堂本社に行って「辞書は三省堂」と大書したポスターをもらってきて教室に貼ったんです。そうしたら、ポスター近くの席にいた生徒が先生にどんどん指されて、あとでそのクラスメイトに恨まれました。卒業式の日、そのポスターを三浦先生に「お世話になりました」と言ってプレゼントしたら、先生はニヤッと笑って、「貰っておくよ」と受け取ってくれました。

### ◎三浦先生は、ご自分が受け持ったどのクラスでもそのセリフを言っていたようですね。

——辞書は引くものではなくて、読むものだなってね（笑）。

### ◎その頃には大学の進学目標は決めていたんですか？

——決めていませんでした。理数系の方が得意だったんですが、（理数系は）授業数や卒業単位が多かったので、そんな理由から文系にしてみました。

2年の冬に友人と蔵王にスキーに行き、「さて、来年はいよいよ受験だな」なんて話をしていたくらいです。その時、気になっているクラスの女性に手紙でも書かないかという話が持ち上がりましてね。「よし書こう」となって、「今蔵王に来て。来春は受験なので今のうちに楽しむ。今日、樹水原コースを滑ったが、樹水がなくて残念だった」といった趣旨を書いたんです。そうしたら、うれしいことにちゃんと絵入りのハガキの返事が来て喜んでんですけど、よく見ると桜がしっかり散っている絵でした。それを見て、「俺たち来春の受験はダメだな。」とみんなで大笑いした思い出があります。



スキーに夢中だった頃

### ◎では受験勉強は、その後からですか？

——3年の5月頃に駿台予備校の模擬試験を受けたら、全然受からないレベルで驚きました。これは大変だと。その頃は周りを見てもみんな浪人するのが当たり前で、実際そういう人が多かった。

### ◎何になりたいとか将来像は描けずに、とりあえず大学受験だという感じですか？

——その頃は特に確固とした将来像を持っている訳ではありませんが、3人きょうだいで姉は私大で、妹も多分私立に行くだろうから、やっぱり自分は国立に行っ

た方がいいのかなと漠然とっていました。子供が多いと親のことを考えてしまいますね。

◎結局、78年に現役で東大文Ⅱに合格し、経済学部で学ばれ、また、伝統(?)ある「襖(ふすま)倶楽部」で活躍されたとお聞きしました。

——一般家庭に行って襖を張り替えるのですが、アルバイトと部活動が一緒になったような感じで、文化の伝承という意味合いもありました。戦後間もない昭和29年頃に学生課に認められた正式な部で、私は27代目の部長。襖倶楽部は今も存続して活動しています。

◎具体的にはどんな活動だったんですか？

——電話で注文が入ると、まずは注文先に行って襖の配置や状況を確認し、見本から襖紙を選んでもらいます。襖紙や材料を取り寄せた後、ご家庭を訪問してその場で張り替えをします。料亭のような襖がたくさんある所にも行きましたよ。

◎ユニークというか、面白い部活ですね。

——面白いというか大変でした。ある日、先輩に呼び止められて、「試しに少しやってみてよ」と言われ、何となく入部しました。家庭教師のアルバイトの方が収入は良かったのですが、ご家庭に出向いて1日仕事をしながら話をすることで、いろいろ得るものがあったと思います。難局もそれなりにありました。前任の部長が急に失踪したり、取引先の紙問屋が倒産したり。ユニークなのでテレビや雑誌の取材依頼も多かったですよ。面倒くさいから断っていましたが、でも、女子大の新聞部の取材は迷わず受けました(笑)。

◎経済学部での専攻は？

——理論経済でした。それがそのまま世の中の役に立っているかという、必ずしもそうでもないかもしれませんが。近代経済学もマルクス経済学もやりました。先生は大石泰彦先生で、その頃はもう退官間近でした。経済全般を、知らないことを学べたので面白かったですよ。岩波新書の経済学叢書という10巻くらいのものがあって、買って読みました。「買うのは常識、読むのは非常識」なんて言っていましたけど。なかなか良い本だなと思いました。

◎マル経も勉強されたんですか？

——マル経は必修でありました。2年の後期はマル経が2つで近経も2つ。その他、会計、統計などを含めて専門課程に行く前の基礎知識として必修が8科目くらいありました。今またマル経が見直されていますが、今の現実で言うと古いかなと思うし、やっぱり最初の

前提に無理があるように思います。

◎大学4年ともなれば、企業から引く手あまただったと思いますが、研究者になる選択肢は？

——そういう考えはありませんでした。小学生の頃から宿題をやらなかった人間ですから。研究者向きではなかったですね。



第三回紫友経済人交流会でゲストトーク 右は大村仁さん(031H)

◎就職先として銀行を意識されたのはいつ頃ですか？

——4年生の8月か9月頃ではないでしょうか。10月1日が就職活動の解禁で、先輩から声がかかって、時々話を聞いたりしていました。銀行員だった父からは「決めかねているなら金融機関はどうか」と言われました。

親父から聞いた話で今でも印象に残っているのは、「銀行とは」という問いに、「企業を育てる組織」という答えが返ってきたこと。なるほどねと思いました。今思えばやや上から目線だし、「ともに成長する」と言った方がさらにいいんでしょうけど。とにかく銀行は、お金の決済とかお金のあるところから足りないところへ回すだけの組織ではなく、お客様の課題解決に資するサービスを提供して、そのお客さま、ひいては世の中の発展に貢献する企業だと。それで親父は富士銀行だから、そこは避けて私は第一勧銀だと考えました。

【銀行員として社会人生活をスタート】

◎実際に就職してどのように感じましたか。

——就職先を銀行に絞ったのですが、日銀は役所っぽいし、興銀は出来上がっている感じでした。第一勧銀は合併して10年程度で、本来の力を発揮しておらず(編集注・1971年に第一銀行と日本勧業銀行の合併で誕生)、やる事がいっぱいあると感じました。ですからトップバンクだから入ったというつもりはなく、課題があって、それがやり甲斐になると感じました。

◎当時の銀行は「護送船団」方式で守られ、横並びだった印象があります。

——資金量が大きかったのも、それなりの地位でしたね。しかし、護送船団方式はいずれ崩れる、早晚そう

いう時代が来るだろう、いかに世の中の役に立つことができるかが問われると思っていました。

◎その頃、新卒は何人くらい採用されたのですか？

——採用人数は多かったですね。第一勧銀は大卒 220 人、高卒 90 人、合計 310 人でした。その後では、平成元年入行が一番多くて、バブル経済の雰囲気の中で大量採用でした。高度経済成長も終わって、もう昔みたいにはいかないと普通は考えそうなものですが、人間って頭で分かっている、実際は違った行動をしてしまうものですね。

◎銀行マンの下積み時代はどんな感じですか、予想とは違っていましたか？

——イメージと違ってないな、という感じですね。日本橋の室町支店に入って 5 年いました。当時は 3 年半くらいで転勤のケースが多かったですね。基本的に 1 年目は事務周りで、私は 2 年目から渉外に回りました。

みなさんが想像するように、銀行は結構過酷なところでした。毎日夜 11 時頃まで仕事して、それから飲みに行き、終電で帰って、当時は土曜も半ドン、よせばいいのに、その後に麻雀、飲み会。休みも少なく 12 月 31 日まで仕事でした。最初は給料も低くて、いつもお金がなかった (笑)。今の時代もあのように仕事していたら、みんな辞めてしまうでしょうね。

◎バブルの時代はいかがでしたか？

——私は 5 年経ったところで NTT のシンクタンクに派遣されました。そこに 2 年間いましたが、その頃がバブルの頃でした。正確には円高不況からようやく抜け出て、バブルが始まる頃でしたね。でも、その後銀行の調査部でしたので、バブルの雰囲気を金融業務として肌で感じたかというより、外から見ている感じでした。

派遣されたシンクタンクは、社会科学的な調査研究を行う情報通信総合研究所です。1987 年に NTT の民営化に伴い、民間シンクタンクとして衣替えしました。

◎どういう仕事をされていたんですか？

——第二産業研究部に所属し、例えば電話帳の入札価格の妥当性の調査などもやりました。また、マーケティングトレンドニュースというのがあって、NTT の経営陣に世の中のトレンドを分析し報告する仕事として、例えば就職情報誌市場の現況なども報告しました。当時はインターネットもなく、データも少ない時代でしたから、関係者にヒアリングして、警察捜査で言う「物的証拠」がないけど、「状況証拠」で固めていく、論証していくという作業ですね。それが勉強になりました。

◎ご自身のその後に大きな影響を与えたのですか？

——それはありましたね。新しいトレンドなどを、どうやって調べたらいいんだろうと思ったし、情報収集や分析、検証の仕方とか勉強になりました。それに外から自分の会社を見ると愛着も増すんですよ。何か問題が起きたら、私ならどのように解決するだろうと自分事として考えますし、外にいと客観的にアイデアが浮かんでくるのかもしれないね。

◎シンクタンクの後には？

——銀行の調査部に戻りました。シンクタンクから帰ってきたので、そこに入れろとなったんでしょうね。

最初は日本経済の担当を、次に国際経済を見ることになりました。私は英語が嫌いでしたので、国際業務には回りたくない思いもありました。仕方なくなるべくアメリカに触らずにアジアを担当していたのですが、嫌な予感は当たってしまいました。

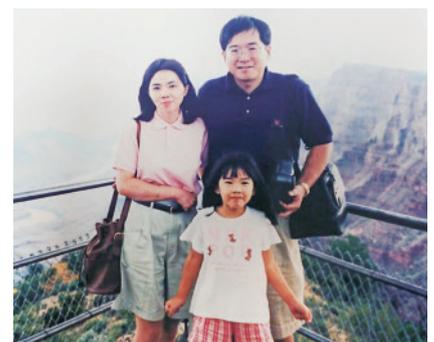
◎その後はどちらに異動されたんですか？

——5 年を超えたので、そろそろ営業現場に転勤だと思っていたら、敬遠していた国際審査部への辞令が出て「これはマズい」と焦った思い出があります。ものすごくきついところで、とにかく案件がバンバン来るわけです。FAX で、英語で。苦手な英語は読みたくもなかったんですが、次々に送ってくるし時間もないし。大体金額が大きいので全部役員案件になって、決裁を間に合わせるため大変な思いをしました。現地とのやり取りは時差もあり、徹夜もザラです。このままでは体を壊してしまうと思っていたら、新しく作るアメリカの本部部門の駐在に私が行くことになり、さらに本格的な国際業務に携わることになったわけです。

実はその頃、千葉の佐倉市に家を買ったばかりでした。郊外の一軒家で、通勤には遠いけど自然も豊かだし気に入っていました。娘も 1 歳ちょっとになって、伸び伸びと暮らせると思っていたのですけど。

◎転勤というと、仕事にも脂が乗って家を建てようかと考える年代の方が対象となることが多いですね。

——住宅ローンの利子の所得控除は受けられないし、もちろん補填もしてくれない。帰ってきたら新築のつもりが中古住宅になっていました (笑)。任期は最



米国駐在の頃、家族と

長で5年程度が通例です。一時帰国で戻るたびにメドが付いたら帰りますと人事担当の上司に伝えていたのですが、結果的にまさかの10年になっていました。でも、今思うと海外赴任は悪い経験ではなかったですね。ただ娘が小学校卒業まで向こうにいましたから、私と妻、両方の両親が孫に会えないと寂しがって、悪いことをしたなと思いましたね。

◎2001年9.11の米同時多発テロが起こったのは、アメリカに行かれて何年目ですか？

——6年目です。いろいろなことがありましたが、やはり一番大きな出来事でした。

◎当時の様子をお話いただけますか。

——亡くなられた方もいるので、ご家族や関係者のことを思うと軽々には話せないという思いもあります。ずっと話さない時期もありました。ところが第一勧業信用組合にきて、銀行出身の前任が引き継ぎの際、私が9・11に遭遇した話をよくするものですから、自分の口で正しく伝えた方がいいと思い、時々話すようになりました。

◎確か事件は午前中に起きたのでしたね。

——朝でした。8時47分頃でしたか。49階にあったオフィスで打ち合わせをしていたら、グワーンとすごい音と大きな揺れがありました。

避難の途中にビルの崩壊が始まり、私自身は地下に閉じ込められ、真っ暗闇の中で死を覚悟しました。瓦礫や粉塵を浴びてボロボロになっていましたが、そこで懐中電灯と手斧を持った消防士と出会い、ガラスの割り場所などを先導しながら（一緒に）何とか脱出できました。

◎金融機関に犠牲者が多かったのですか？

——第一勧銀は大丈夫でした。脱出後に興銀のオフィスに行って安否確認し、夜半にはほぼ大丈夫だと分かって一応安心しました。でも、（2機目が突入し先に倒壊した）隣のビルに入っていた富士銀行では、26人ほどが犠牲になり、統合の打ち合わせをしていた人たちも含まれていました。ご遺体も見つからなくて、ご家族が来て大変でした。半年くらいして、ご遺体の一部が見つかるなど厳しい現実がありました。富士銀行出身の部下がその間ずっとアテンドしていましたから、余計に辛さを感じましたね。

◎その衝撃から、どう立ち直られたのですか？

——それが不思議なくらい大丈夫でした。もちろん当日は緊張感があつたり、それなりに怖さもありました

けれど、その後、復興が始まったり（合併に伴う業務の統合も始まったり、忙しさで気が紛れたかもしれませんが。夢に見たりするとかもなくて。まあ、神経が鈍いのかもかもしれませんね。

◎その経験は今にどう活きているとお考えですか？

——他者への思いやりの視線というか、それを改めて再認識したことです。他者への思いやりは常に心がけていたつもりですが、亡くなられた方のご家族や関係者への思い、不安の中で現地で復興の任務に当たる行員たちへの配慮、また気遣ってくれる人たちへの感謝など、あの事件でより一層深まった感じです。

◎事件後の復旧、復興と並走して3行統合という面倒な仕事は待っていたんですね。

——それぞれの考え方の調整が大変でした。これから皆一緒にやるのだから仲良くやればいいのに、どうしても敵対的になりやすいんです。例えば、私は審査部の駐在でしたから、無事だった興銀のビルに机を3つ確保して復興業務に入るように動きました。しかし、当時のニューヨーク支店長が、「お前は相手に取り込まれるつもりか」と言うので、「誰に向かって言っているんですか。私はそんなにヤワではないし、それに、むしろ融合するいい機会じゃないですか」と突っぱねました。正しいと思うことであれば言うべきことは言うべきだと思いました。やや喧嘩腰に過ぎたかもしれませんが、それでも意見を通してもらい、以来、一目置いてもらえるようになった気がします。あの頃は一番働いて脂の乗った時期だったかも知れません。

◎いかにも面倒くさそうですね。

——面倒な話ですよ。アメリカだったから比較的、統合作業も合理的かつ効率的にやれたと思いますが。日本国内だったらもっとドロドロしていたことは、想像に難くないですね。

◎第一と勧銀の融合まで20年近くかかったのに、性格も特色も違う3行の合併はさぞや大変だろうなと。

——本来は一緒になることで、サービスの向上だとか、より良くするための体力をしっかりとつけることが重要なのです。それなのに内部の調整にエネルギーを使いすぎて、体力は消耗するわ、お客様へのサービスは低下するわじゃ、本末転倒です。

◎合併を見直すという議論はなかったんですか？

——なかったですね。当時としては興銀、富士、第一勧銀でなんとか生き残るしかないという雰囲気、一斉に走り出していましたから。

◎世界に冠たる銀行になれるとの思いが、皆さんにあったんですか？

——当時は思っていたんでしょうね。私はそう簡単でないと思っていましたが。私は、いつまで1970年代の高度経済成長の観念、大きいことはいいことだという観念に取り憑かれているんだと思っていました。環境の変化が激しくなってきた時代に、もっと柔軟な発想で意思決定して、対応していかなければなりません。

巨大なタンカーは、舵を切ってもしばらくはそのまま走ってしまう。大きくなったら不利になる場合もある。大きくなって、ほかより有利になるためにはどうしたらいいか。それには早めに内向きのエネルギーを転換して、意思決定を早くわかりやすくする、そういう手立てとセットでやらなきゃダメだと思います。互いのエネルギーを内向きに使いすぎて、挙句の果てにシステム障害を起こしているようじゃダメだと、最後は経営陣として関わった身として反省しています。

◎この先、帰国後のお話を伺う前で、予定の字数を超えました。続きは「小石川つながり③ある金融マンと経済記者の対話」(58・59ページ)に掲載いたします。

### 【若い世代へのメッセージ】

◎最後に後輩たちへのメッセージをお願いします。

——実は当信用組合の巣鴨支店では、小石川中等教育学校の生徒さんの職場体験を受け入れています。そこでお話したことで、うちの職員たちにも言っていることが3つあります。

1つ目は、魅力ある人間になってほしいということ。視野を広く持ち、誠実な行動をすることと言えましょう。それによって、この人と話してみたいと感じさせるような人になってほしいですね。

2つ目は、多様性を許容して活用できる人間になってほしいということです。現代はいろいろな価値観がある時代ですから、一概に否定したりせずお互いに尊重し、共生していくことがなにより大切だと思います。

3つ目が、何でも自分ごととして考えて行動してほしいということ。主体的に動いてほしいんです。これは今の世代に一番欠けていることかもしれません。今の生徒はみんな優秀だけど、均一化している感じがあって、少しつまらないと思います。全員を見ているわけではありませんが、昔の方が個性豊かでバラエティーに富んでいたような気がします。

そのほか、自分ができていないのに言うのも何ですが、こうありたいという目標に向かって、たゆまぬ努力をしてほしいというお願いです。

「努力の上にも辛抱という棒を立てろ」という名言が

あります。これは生前、テレビの司会者、タレントとして人気のあった故桂小金治さんと大工の棟梁だった親父さんの話に出てくるものです。小金治さんが子供の頃、ハーモニカを吹いて先生に褒められたことが嬉しくて、大工の棟梁である親父さんにハーモニカを買ってくれとせがんだそうです。そうしたら親父さんは神棚から榊の葉を出してそれを笛にして「ふるさと」を吹いて見せ、「贅沢を言わずに草笛で吹いている」と言う。小金治少年は何日か練習してもなかなかうまく吹けず、親父に吹けないと言ったら、「お前は親父にも勝てないのか」と叱責され、悔しくて、友人に励まされながら一生懸命練習したそうです。

努力の結果、ようやく吹けるようになって、父親の前で吹いてみせると、ニコリともせずこう言ったそうです。「努力の上にも辛抱という棒を立てろ。上手くいっても自分だけでできたと思うな。誰かの助けがあったはずで感謝を忘れるな。錐も片手では揉めない」。その顛末を母親に報告したら、タンスからハーモニカを出してきて、「3日前にお父さんがお前にと買って置いてあったんだよ」と言われたそうです。私はこのエピソードが好きで、胸に刻んでいるんです。

◎昔の親は親としての威厳、責任感を見せることによって、子供を教育したんですね。

——桂小金治さんの回想では、自分なりに大変努力もしたが、今あるのは皆さんのお陰だというわけです。今の年代にはなかなか通じないかもしれませんが、通じる子には通じるはずです。そのためには親世代が子供に対してもっと発信し、伝えていかなければいけないと感じます。

◎いいお話ですね。今日は長い時間、ありがとうございました。



# ペルシャ語との出会い、そして イランの絵本に魅せられて

2023.3.1

0471 愛甲恵子

ペルシャ語と聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。イランを中心に周辺中東地域で4,600万人の話者がいるペルシャ語の森へ、大学から独り分け入った愛甲さん。あることを契機にイランの絵本の翻訳・紹介を始めて、高校女子バスケット部の仲間、美術家フジタユメカさんとのユニット（サラーム・サラーム）を組んでの活動は、いつの間にか20年だそうです。（各社より12冊を出版）

谷中にあるギャラリーで開かれていた、愛甲さんの仕事とイランのアーティスト2人を紹介する展覧会を訪ねました。「絵本」とは縁遠いおじさん2人を相手におそろおそろ始まったインタビューでしたが……

並木 隆 (022E)

## ◎お生まれはどちらですか。

——鹿児島です。両親が鹿児島出身なんです。両親は結婚して東京に住んでいたんですが、里帰り出産したので、私は鹿児島で生まれました。父の仕事の都合で3歳から5歳になる頃までアメリカで暮らし、その後東京に戻って、それからはずっと十条駅に近い、板橋区と北区の境目あたりにいました。実際は板橋区で、住まいは加賀中学校の隣にある官舎。小学校は稲荷台です。今は統合してしまっていないですね（注：統合してできた「加賀小学校」は、旧稲荷台小の校舎を使っています）。その後、加賀中学校、小石川高校に通いました。



## ◎当時の高校入試は大変でしたか。

——私たちはよく言うんですが、小石川の歴史の中で多分、一番入りやすかった時代じゃないかと（笑）。1992（平成4）年の入学で、バブルがはじけた後ですが、優秀な子は私立や大学の付属校を目指していた印象があって、だから小石川の競争率は高くなかったのではないかと。私たちの学年で落ちた人はいなかったの

はないかと思うくらいです。学校側も、合格者から辞退する人が多く出るだろうと思ったんでしょうが、辞退者はあまりなくて、1クラスの人数がすごく多くなりました。45人くらいいたのかな？ 1学年9クラスあって、私はI組でした。

## ◎ちょうど入った時に新校舎ができたんですね。

——試験を受けたときは旧校舎でした。入学したら新しい校舎で、まだ体育館はできていませんでした。女子バスケット部に所属していたのですが、1年の時は旧体育館、2年の時は巣鴨の大塚聾学校で練習させてもらい、3年になって新体育館を使えました。柔道の授業は、わざわざ講道館に行っていた記憶があります。

## ◎担任の先生はどなたですか？

——数学の青木（和男）先生です。三角関数でサイン、コサイン、タンジェントってありますよね。鼻が高いのが印象的で、生徒の間ではコサイン先生と呼ばれていました（笑）。すごく穏やかで、優しい先生でした。I組はうるさくてやっかいなクラスだったのですが、先生のことは皆好きだったと思います。



青木和男先生

## ◎ほかに面白かった先生、印象に残る先生は。

——生物の岩田浩司先生です。私たちにとって生物はとても思い出深いんです。生物は、岩田先生と松田（政幸）先生のお2人でしたが、とにかく丁寧なノートを作らなければなりません。実験をする時、グループで役割を決めて、準備から考察までを分担してノートに書くのですが、それが全てきちんとしていないと合格できず次の段階にいけない。精緻なものを作らないといけないんです。何回も何回もダメ出しをされました。とても苦労したので、私たちの学年は生物という、「ああ、あのノートの」と思い出します。

岩田先生は女子バスケット部の顧問でもありました。そして、先生とはびっくりするような再会もあったんです。2013年のことですが、成増のギャラリーでイランの絵本の展覧会をさせていただくことになって、そのギャラリーのオーナーと話をしていたら、実はその方のお父様が岩田先生で……本当にびっくりしました。それから、地学の永田（洋）先生は、今でも展覧会によく来て下さいます。

◎バスケ生活はいかがでしたか。

——高校時代はとにかくバスケしかしていませんでした。朝練ではシュート練習、2限が終わったらお弁当を食べる、そして昼休みに練習して、5限、6限が終わったらまた練習する、という感じです。お弁当をすごく早く食べていました（笑）。お腹空いちゃいますよね。だからみんなお菓子なんかを、近くのお店へ買いに行つて食べていました。バスケ部の繋がりは今もあります。よく展覧会にも来てくれます。

◎女子バスケ部は強かったのですか。

——東京都には当時4部まであったのですが、わたしたちはずっと3部でした。2部に上がりたいね、といつも言っていて、最後の最後で2部に上がったのですが、すぐ負けてしまいました。



女子バスケ部。顧問の岡松典子先生、岩田浩司先生とともに

◎勉強の方はどうでしたか。学校に「受験、受験」といった雰囲気はなかったですか。

——私自身は大学を受けなければと一応、部活の合間を縫って受験勉強的なことはしていましたが、学年全体としては皆、自由にやっていて浪人が当たり前のような雰囲気でした。

◎外国語に対する興味を持ち、大学でもその道へ進みたいと思ったのは、3年生くらいの時ですか。

——そうですね。東京外語大に行きたいという気持ちがまずありました。どの言語にしようかと考えた時に、英語やフランス語などと違って、独学できないものがないと思いました。それに中東は当時の自分からはとても遠い存在だったので、それがいいかなと。要はあまり深く考えていない（笑）。勉強するなら知らないことをやった方がいいのではないかという単純な理由です。あとは乾燥しているところの方がいいなど。

3年の秋ぐらいだったと思いますが、TVで絵本『スノーマン』のアラビア語版が紹介されていました。文字がとても美しく印象に残りました。そんなこともあつ

て中東の言語に興味を持って、ペルシャ語を志望したら運良く受かりました。

◎言語学的な面白さとか、その言語を使う人達の国や文化が面白いとかは後からついてくるんですか。

——私はそうでしたね。その辺を聞かれると痛いんですけれど。流れに任せてといたしますか……（笑）。バスケ部仲間で今サラム・サラムと一緒にやっているユメカ（藤田夢香）さんにも「変わった人だよ。そんな理由で大学を選ぶ人がいるんだね」とよく言われました。

私が受験した頃、ペルシャ語科の定員は20人でしたが、その中でペルシャ語を使って仕事をしているのは私を含め2人です。

授業は真面目に受けていました。外語大は、特に語学を真面目にやらないと卒業できない大学なので。

◎大学を出てからの進路に悩む時期もあるかと思いますが、それはすんなり通過したんですか。

——全然すんなりではないです。大学院まで行って、これ以上研究するのは難しいなと思ったので就職を考えたのですが、うまくいきませんでした。

絵本に出会ったのは、ある本がきっかけです。修士論文を書いていた最後の頃に、図書館で『絵本をよんでみる』という五味太郎さんの本をたまたま手に取って読んだらとっても面白かった。それで絵本というメディアに非常に関心を持ちました。絵と文章で何かを表していくという部分に。

そうしてなんとか修士号をとった後、日本の絵本を読み始めたんですが、そのうち、「そういえば私はペルシャ語がわかるんだ」とイランの絵本に関心を持ち始めました。それではと、上野の国際子ども図書館に行ってみると、たまたま「野間国際絵本原画コンクール」の入賞作品展をやっていて、見れば、イランの人が結構入選している。その時「こんなに素晴らしい絵を描く人達が沢山いるんだ。それならきっと絵本は面白いな」と直感しました。というのも、イランは詩、ポエムの国なんです。詩の国で、絵も素晴らしいなら、きっと面白い絵本があるに違いない、と思ったわけです。そんなこともあって、やっぱりもう一度イランに行ってペルシャ語を現地で勉強したいと思い、10カ月だけ行くことにしました。

◎留学は大学院修了後にされたわけですね。

——はい。2003年の9月からです。その前にも2週間とか1カ月とかいうのはあったのですが、向こうで長く暮らすのはそれが初めてでした。外国人向けの語学学校に所属して授業を受ける、それで、絵本もあれば見てみよう、くらいの考えで生活がスタートしました。

◎授業を受けながら、絵本を探す。現地の本屋さん事情はどのようなものですか。

——テヘランにも神保町みたいに本屋が沢山あるエリアがあって、空いた時間に絵本を探しましたが、最初は全然見つかりませんでした。店員さんも絵本がどこにあるのか知らないし……、上野の原画展で見たような絵本は一体どこにあるんだろう、と思っていました。

そうして2カ月くらい経った頃、用事で日本大使館へ行こうとした時のことなのですが、タクシーの運転手が坂道を1本間違えて下ってきたところに、私でも知っていた児童書出版社のマークが貼ってある店がありました。「あれは何だ？ 子どもの本屋っぽいぞ」となり、「また絶対に来よう」と思って再訪したら、まさにその出版社の直営店だったんです。「ここにあったんだ！」とガンガン買い始めまして……。買って、家で読んでの生活が始まりました。暗いんですけど(笑)。

◎それから作家さんたちと出会い、交流が始まります。

——現在まで続く長い付き合いになるイラストレーター、モルテザー・ザーヘディに会ったのはその少し後です。カーヌーンという国営の出版社があって、私はその直営店によく行っていたのですが、ある時、買い物をすませ帰ろうとすると、付属のギャラリーで何かやっている。覗いてみると絵本『ごきぶりねえさんどこいくの?』の原画展で、さらにご本人がいました。「私は日本の板橋というところに住んでいます」とか「ボローニャ国際絵本原画展をご存知ですか?」などと話すと、「私はそれに入選したことがあるんです」と言



ザーヘディさんの絵を配したTシャツ

われて。「素敵な絵本ですね。これはどこで買えるんですか」と訊いたら、「街では売っていないから、この絵本をあげます」と1冊くれたんです。その時、連絡先などは聞いていなかったのですが、とにかく可愛い絵本なので家で飾っていました。

◎その後、イランに遊びに来た藤田さんから、アドバイスもらったそうですね。

——家で絵本を読んでいるうちに、ユメカさんが日本から遊びに来ました。私が買い集めていた絵本を見て、「一体どうするつもり?」と聞いてきたので、「日本で紹介したり、出版社に売り込んだりするのかな」と答えたら、「そんな簡単にはいかないと思うよ」と言われました。彼女は、出版社に持ち込んでも簡単にはうまくいかないことをよく知ってたんです。そして「原画

を借りられるなら、展覧会ができると思う」と提案されました。彼女自身は絵描きとして既に個展の活動をしていたので、ギャラリー事情もよく



サルヴェナーズ・ファールスィヤーンさんの作品

わかる。それで「この『ごきぶりねえさん……』を描いた人がいいから、この人にまず連絡を取って」と指令がでました(笑)。

まずは出版社に電話しました。「ザーヘディさんの作品はありますか? 他の作品も欲しいんですけど」と。すると出版社の人が「事務所に来てください」と言うのですぐに出向き、絵本を買いつつ「彼と連絡取れますか?」と尋ねたのですが、当時、彼は兵役で故郷に帰っていて、連絡先はわかりませんでした。

すると出版社の人は「(ザーヘディの)彼女の絵もとてもいいよ」と彼女、マルジャー・ヴァファーイヤーンさんの絵本を見せ、その場で電話もかけてくれました。電話口で「素晴らしい絵本ですね。とても気に入りました」と言ったら、「今度うちに来て下さい」と言われ、気がついたら彼女の家で絵を見せてもらいながら色々な話をしていました。

こんな状況をユメカさんに説明したところ、「ではまずマルジャー展を日本でやろう」ということになりました。……この展覧会を開催するため2004年の7月に帰国し、10月に初めて展覧会を開きました。

◎お話によると、最初の出会いは偶然から人と人が繋がっていきますね。

——そうですね。ほとんど全部、偶然です。そして、私の場合、最初に出会ったのが素晴らしい才能のある人たちだったのが幸運でした。ユメカさんの眼鏡にかなう人だった。イランの絵本はレベルが高いですが、もちろんすべてが良いという訳ではないですから。良い人に最初に出会ったと思います。

◎留学の目的は、元々は語学だったんですよね。それがいつの間にか、展覧会開催へと。

——そうですね。なので本当はまだ帰国したくなかった(笑)。でも展覧会という目標ができて、帰ることができました。それ以来、ありがたい



ことに色々な方に応援してもらって、20年近く続いています。

(その理由の)一番は、やはりユメカさんだと思います。イランやペルシャ語に直接関係ない彼女が、こんなに長い間一緒にやってきてくれているのですから！ 展示会のレベルを保っているのは彼女のおかげで、私だけだと何もできません。1人のイラストレーターにも当然ですが色々な作品があって、彼女はその中の出来が良い物をきっちりと見定められます。

例えば(展示の宣伝・告知の)DMにはこの作品を使おうとか、メインでこれを持ってこよう、というのを彼女が決める。そして先方とすり合わせると、「わかってきている人がやっているな」と信頼してもらえるので、そういうところは本当に頼りにしています。

◎イランという国の印象として、例えば独特の気質があって、お隣のシリアやイラクとは違うのですか。

——シリアとかイラクとは言葉が違います。ただ、イランの公用語はペルシャ語ですが、母語として話す人は半分くらいしかいません。アラビア語とかトルコ語を話す人も沢山います。

イランの人たちはおしゃべり好きですね。そして、機を見るのがうまいと思います。空気を読むのが上手といますか。その場をみんなで楽しく過ごしたいという気持ちが旺盛にある人達で、そのための様々な気遣いができるんです。だから私のような旅行者も1人にさせない。寂しいだろうと思って必ず声をかけられます。逆に疲れたりするんですけど(笑)。そういう気遣いはすごいですね。

それから、さきほど詩の国と言いましたが、彼らの言葉の使い方はとても豊かだと思います。ひとつのことを表そうとする時に、色々な言い方ができるんです。私はペルシャ語を話す人たちのそういうところに憧れます。言葉の豊かさというか、ストレートに言わないんですね。決まり切ったパターンも沢山あるのですが、そういうものを積み重ねていった上に、更にどんな風に自分なりの言い方をするか、表現を追求している感じがあります。芸術家を見ていると、絵描きさんもそうだし、自分の表現というものをすごく大切にしているところに惹かれます。私自身にはそういうところがあまりないからだと思いますが……。

◎同じイスラム教の国、例えばアフガニスタンのように、女性は家にいなければいけないとか、読み書きは必要ない、といったことは。

——イランではそれはありません。15歳以上の識字率は85%です(2016年、15-24歳では98%)教育面では、地方の子も都市の子も、みんな学校に行っていますね。

アフガニスタンのような状況ではないです。

しゃべるといのは、自分の意見を主張するという事で、それはすごく大事にされています。それから、いかに美しくしゃべるか、も大切です。2019年にテヘランにある保育園を見学させてもらったのですが、そこで、発音を重視する教育をしているのを見て驚きました。美しく発音することによって言いたいことがより相手に伝わりやすくなり、自信がつく。するとさらにコミュニケーションを取りたいと思うようになる。そうやって、自分の意思を語ることに自信を持たせていくんです。なるほどな、と思いました。

私たち日本人は、「はっきり話さない」などとは言われても、発音についてうるさく言われてこなかった気がします。でもイランの保育園では、そういうことをやっている。コミュニケーションの基本として、日本でも発音はもっと大事にされていいのかもしれないと思いました。

◎ペルシャ語を大事にしているんですね。外国語、英語の教育などはどうでしょうか。

——英語ももちろん勉強しています。今は小さな頃から英語教室に行って勉強している子も多いようですし。それでもやはりペルシャ語は大事にしていますね。とても美しい言語だと自負していますし、大切にしていると思います。

◎ペルシャ語は、100年前、200年前の人達が話した言葉が、今も同じように話されているのですか。

——完全に同じではないのですが、日本語ほど離れていない印象です。さすがに簡単ではないのですが、日本語の古文を読むよりは簡単かもしれない。専門にやっている方も、そういう風におっしゃいますね。1000年くらい前のものも読めることは読めます。

ペルシャ語において詩は、音とリズムとともに耳から入ってきて、ある意味音楽のように楽しむものです。詩を、文字だけでなく音でも記憶して共有してきた、ということが、もしかしたら言葉の形が大きくは変わっていない理由のひとつなのかな、と思ったりします。

◎ペルシャ語のお気に入りのことわざや慣用句があれば教えて下さい。

——「結び目は手でほどくもの、歯など使うな」  
Gerehi ra ke ba dast baz mishavad be dandan nabayad goshud.

『ペルシア語ことわざ用法辞典』(勝藤猛、ハーシェム・ラジャブザーデ著、大学書林)には、このことわざの解釈について「穏健な手段で容易に達成できることを、みずから困難にし、無益な心配をすることをいう」と

ありますが、私はこのことわざを知った時、「難しいことがあっても、いつかの感情で乱暴に解決しようとしてはいけない、辛抱強く結び目をほどく努力をしなければいけない」という意味に受け取りました（今回ネットで調べたところ、この意味でも使われることがわかりました）。困難に相対した時の心構えとして、自分に必要な言葉だと思っています。

◎昨年9月、ヒジャブを適切に被っていなかったという理由で女性が道徳警察に逮捕され急死する事件があり、世界的なニュースになりました。どうお考えでしょう。

——イランへは昨年5月に行きましたが、事件はその後です。事件から続く様々な抗議行動には、今までとは違うものを感じました。これまでも緑の運動（＝「グリーン革命」、2009年）など多くの抗議行動がありましたが、今回は女性の関わり具合が違うんです。アーティストたちを見ても、以前は全くノンポリでありあまり政治に関わりたくないという感じだった人たちが、この事件をきっかけに積極的に声を上げたり態度を表明したりしていて、その変化に驚きました。インスタにハッピーな投稿が載らなくなったり、サッカーのワールドカップカタール大会でも、代表チームが難しい立場に立たされたりしましたよね。イランで反対の声を上げるというのは本当に大変なことなんです。彼らの勇気に胸を突かれる思いがしました。この事件がイランに与えたインパクトの大きさと、イランの抱えている問題の大きさを改めて感じています。

◎抗議デモでは、ヒジャブというただの1枚の布切れに、人々の価値観とか自分の生き方とかが象徴、集約されているように見受けられます。

——その1枚1枚に、被ったことのない人には想像しがたい重みがあると思っています。外国人も被らなければいけないので、私も行った時は被るんですが、布1枚が壁のように感じられます。それに、外出しようとする時に「被らなくちゃ」と思わされること自体にも違和感を感じるんです。

イランの友人たちは、金髪にしたり、坊主にしたり、ずっと前からいろいろな髪型にしています。要は、好きな髪型にしているんです。でも、その上に1枚被らなければならないわけで……。この「なければならない」というのは一体何なんだ、おかしいんじゃないか、という率直な気持ちを、勇気をもって上げ始めたというのが今回の抗議行動なのだと思います。

◎イランという国、その芸術作品をもっと知ってほしいというお気持ちでしょうか。

——文学作品は、今までも古典を中心に翻訳されてい

ますし、絵本も英語から訳した物も含めて30冊くらいはありました。ただ、私たちのように展覧会をやったり、絵にフォーカスした人はいませんでした。普通に翻訳するだけだったら、5冊出ただけで終わってしまったと思います。イラストレーターたちの絵の展覧会を企画して、ポストカードやTシャツを作り、朗読イベントなどをやることなどの工夫があって、ここまで続けてられました。

◎最後に、これからのお仕事をどんな風に続けられるのか、今後の計画などはありますか。

——いろいろ良いイラストレーターがいるので、その人達の絵本が出るように努力していきたい。そのためには自分の翻訳の力を高めていかないといけない。それが一番ですね。2006年に『ごきぶりねえさんどこいくの?』が出たときは、ほとんど何も知らない状態だったのに、たまたま出すことができました。そこから次の翻訳刊行までに間が空いたのは、翻訳の力のなさからだと思います。それをもっともっと磨いて、出版社が出したいと思える作品を提案していきたい。そして新たなイラストレーターも見つけないですか。

夢は、絵本を自由に見られる場所を作ることです。展覧会で少しずつ紹介してはいますが、常設で見せられる場所ができたなら、と思っています。そこにイランのイラストレーターを招待して滞在してもらい、ワークショップなんかもできたら最高ですね！



ザーヘディさんの絵本やグッズ

サラーム・サラームのHP：<http://salamx2.com>

\*イランの絵本や雑貨の販売、イラストレーターの紹介、展覧会情報の発信などを行なっています。

## 〈インタビューを終えて〉

取材チームに加わって6年目。「同窓生訪問」は、ミーハーな素顔を隠しつつ、冷や汗ものの素人質問をぶつけられる貴重なハレの場となった感があります。

第一勧業信用組合理事長の野村勉さん。並木隊長の奮闘のおかげで、本編（P19～24）、補足編（P58～59）の2階建て構成に仕上がりましたが、インタビューは予定時間を大幅にオーバー。掲載しきれなかった話が山ほどあります。中でも欧米で相次ぐ銀行の経営破綻や、著名投資家ウォーレン・バフェットの来日と株価高騰に関する評価など、3階建てにしてでも載せるべきだったのでは？とも思うのですが、少し残念です。

余談ですが、帰り際、野村さんからは「理事長推薦図書」の資料を頂戴しました。社内向けに執筆している書評で、対象は童話や小説からビジネス書、経済書まで多岐に及びます。同志に語りかけるような文面からは、複雑で不透明な現代を読み解き、それを仕事や生き方にどう落とし込むかをアドバイスする真摯さが伝わってきます。本を涉猟しながら思索を深めた青春時代の情熱が息づいているようで、何だか嬉しくなりました。

一方、ペルシャ語翻訳家の愛甲恵子さん。台東区谷中の原画展会場で愛甲さんが翻訳した絵本を眺め、喫茶店でじっくり話を伺ううちに、イランという不可解な国との距離が一気に縮まった気がします。

世界史を受験科目に選ばなかった人の多くが同じではないかと思いますが、ホメイニ師らイスラム原理主義派が「イラン・イスラム共和国」を樹立し、米大使館占拠事件が起きた1979年より以前のイランの歴史は余りに複雑で、私には苦手意識がありました。

愛甲さんにとってイランは「隣国」です。インタビューにあるように、昨秋のサッカー・ワールドカッ

プ（W杯）カタール大会でイランの代表選手が国家斉唱を拒否する行動に出たのは、ヒジャブの着用の仕方を巡ってイラン人女性が逮捕され、警察署で急死した事件後に広がった抗議デモへの「連帯」の意味がありました。それがいかに勇気ある行動だったか。イランという国で抗議すること自体がいかに大変なことか。「ポエムの国」を愛し、イランに留学して生身の国民に接してきた愛甲さんが、憤りを交えながら解説してくれたことで、イランの実相が見えたように感じます。

絵本は、歴史、宗教、言語の壁を越えて、その国の人々のところを直観できる媒体なのでしょう。そんな絵本の魅力を教えてもらったことに大いに感謝しています。片や、ロシアに武器を供与したり、核開発を進める一方で反米国家間の団結を強めたりと、一体、この国は何なのか。高校卒業から半世紀を経て、イランの歴史を本気で勉強したいと考えています。

嶋沢裕志（026B）

本欄を担当して7年目、長年のインタビュー相棒、嶋沢さんにしてみれば、毎号多士済々の小石川人脈から登場願ったその人を、もっと深掘りしたいとの思いは重々承知しています。それでも、これ以上ページを増やせば本誌はインタビュー誌になってしまいます。それなら、話のテーマをもっと絞ればよいのではと思っても、これもまた会話は流れなので難しいのです。

今回お願いした野村さんと愛甲さんは、片や経済金融、片やペルシャ語翻訳という全く異質の世界で活躍されている方々でした。お二人に共通する誠実（ときに慎重に言葉を選びながらの）で飾り気のない語り口と言葉の一つ一つを、丁寧に拾って伝えようと思ったからです。

並木隆（022E）

## 日蓮宗 立應寺 (りゅうおうじ)

仏事全般 所願ご祈祷 本堂葬できます

住職 関口健勇 (031G)

【立應寺(りゅうおうじ)住所】

東京都足立区大谷田2-21-13

(最寄駅はJR亀有)

TEL 03-3605-8250



# 先生お元気ですか？

## 化学を追い求めた 13 年

1981(S56).4~1994(H6).3在任  
化学科 片江 安巳

私が小石川に来ることになったのは、当時化学科の教諭でいらした住谷先生からのお誘いを受けたからでした。その時私は新設校の武蔵村山東高校に居り、化学教育研究会という会に毎月出席して化学の新しい知見を得る努力をしていました。住谷先生もその会に所属されており、その縁で小石川に招かれた次第です。

赴任時小石川では自身で内容を設定する講座があり、着任早々この講座を担当とのことで、小石川では深い知見が要求されることを痛感しました。その後時間割の変更によりこの講座は無くなりましたが、難関大学の入試にも対応出来る授業内容が求められるなど、通常の授業でもより深い知識を必要となりました。化学教育研究会の例会では、ベテランの先生方の講義や実験法など多くの知見が得られ、勉強の日々でした。その後この研究会の事務局を引き継ぐこととなり、例会の会場を小石川に移して、事務局を行いながらの勉強の日々でした。

化学は実際に目で見て変化を体験することが重要な学問だと認識していましたので、授業ではできる限り実験を行うことを心掛けていました。実験授業は、二時間続きの授業を設定して行っていました。実験授業は年間通して1クラス20回以上、最も多い年は26回行っており、実験後のレポート提出も義務付けていました。そのため学習する内容に応じた実験方法と時間内に終える内容を決めてプリント作成をし、さらに実験を実施した後に提出された大量のレポートの点検も行うなど、なかなか忙しい日々でした。

体験授業を続けていましたが、その後体験の時期が高校からでは少し遅いと感じるようになりました。その折りに、物理学の教授でいらした故後藤道夫先生か

ら、科学実験の屋台村のようなイベントをしませんかとのお誘いを受けました。科学的な楽しい体験が子供の頃に必要と感じ始めていました私は、この計画に大いに賛同しました。イベント開催に当たって科学技術館の全面的な協力も得られ、1992年に初めて「青少年のための科学の祭典全国大会」というイベントが開催できました。

開催当初は化学系の実験担当者が少なく、実行委員を務めながらブースでの実験指導も行っていました。この祭典開催の2年後には竹早高校に異動しましたが、運営委員はその後現在までずっと続けており、昨年は30年の記念大会も行うことができました。このイベントは電気事業連等からの援助により比較的大きな規模で行っていましたが、2011年の東日本大震災以降はこの援助が出来なくなったことから、夢基金等の支援活動として規模を縮小して実施となりました。しかし一方で読売新聞社の協力を頂くことにより日本学生科学賞のファイナリストの参加も得られ、内容的にはより充実したものとなりました。

現在居住している地元立川市には小学校科学教育センターがあり、希望した小学校高学年の生徒達へ年間通した様々な科学の講座が設けられています。数年前にお誘いを受け、ここで化学系の講座を担当させて頂いています。これとは別に立川市の市民リーダーに科学実験および植物染色で登録し、楽しい科学教室や化学的な解説を行う植物染色講座など、科学の楽しさを伝える活動の手助けを現在も行っています。

これらの様々な活動の原点は、小石川で培った多くの経験や体験でした。旧校舎の化学実験室で過ごした時間は、私の人生の中での最も大切な時間でした。



037期担任団 前列右1人目片江先生

# 吾が校友の精神を

会員より送られてくる投稿を中心に、同窓生の文章を掲載いたします。どの文からも五中、小石川の立志・開拓・創作、自由闊達な精神を感じます。皆様も是非ご投稿ください。表題は校歌の一節から採用しました。

## 「セピア色の記憶が蘇る！ クラス文集の不思議な力」

～卒業50周年記念020Eクラス文集の紹介～

020E 大橋秀行、神崎文次、日比野正寛

### 1) 020Eクラスの紹介

昭和43年(1968年)卒業の020E組は在校当時から仲が良く、一致団結して何かをやり遂げることが得意なクラスだった。男女有志20数人で毎日昼休みにグラウンドでソフトボールの試合を続け、また一、二年生が校外授業で三年生は休校の日に大型バスを自分たちで手配して中津川溪谷にバーベキューに行くなど、いろいろなクラス独自企画のイベントを実施、自由な校風をエンジョイした。

卒業後は名簿管理人が長年にわたって級友の動静を把握し、クラスのホームページも自主的に開設してきた(現在閉鎖中)。卒業から30年近く経ち、40歳代半ばになってからはクラス会を毎年開催してきた。出席率は卒業後年数を考えると高い数字が続いている。

コロナ第8波の感染が増え始めた2022年11月にはE組初のオンライン・クラス会を開催、地方在住組を含めて16名が参加し久々の再会を喜び合った。対面形式のクラス会では参加が困難な地方在住者(姫路、大津、軽井沢、札幌)も参加してくれたことは大きな収穫であった。中には車で外出途中にコンビニ駐車場の車中からスマホで参加した級友もいたが、こんなことが可能な時代だと改めて実感した。

オンライン・クラス会の出席者に感想文を依頼したところ、14名からの寄稿があった。事務局の予想以上の反応であったが、執筆依頼メール発信から集まった原稿を編集(校正・小見出し・写真選定など)し、完成した文集を配信するまでわずか1か月でやり遂げた。コロナで中止が続いた後のクラス会だけに級友の関心が高かったといえよう。

73歳の我々がオンライン・クラス会を開催したことは大いに誇れることではなかろうか?とはいっても決してすんなり開催にこぎつけたわけではなかった。最大の課題はオンライン会議システムの確保であった。最終的にはZOOMの提供を快く引き受けてくれた級友が運よく見付き開催にこぎつけた。また、ZOOMに不慣れな級友のために幹事が接続方法の個別説明を行い、事前に接続トライアルも実施した。まさに高校時代に英語の授業で学んだ「Where there is a will, there is a way」である。幹事がシステム探して奮闘中に解決策を見出すべく紫友同窓会事務局に相談したところ、ZOOMを使ったオンライン・クラス会開催について協力の申し出を戴いたことを付記しておきたい。



020E組、初のオンラインクラス会(2022年11月)

### 2) クラス文集発行の経緯

卒業50周年記念文集作りの話が最初に出たのは2017年秋の卒業49周年クラス会だった。級友の一人が紫友同窓会百周年記念行事の一環で「みんなの百年」にクラスを代表して「キッチン駕籠の思い出」を寄稿したのがきっかけ。卒業50周年に当たる2018年に「記念クラス文集」を作ろうという話で盛り上がり、年末までに有志4人による編集事務局の骨格が固まった。目標は50周年に掛けて50頁、翌年のクラス会に間に合わせる等々、やると決まると一致団結して素早く行動するのが我がE組の特徴だが、卒業から50年、70歳近いメンバーでは記憶が飛んでいる部分も多く最初は難航した。

高校時代の出来事を思い出すきっかけに、メンバーが持ち寄った高校時代のアルバムを「思い出起こし写真集」としてPDFにしてクラス会常連メンバーに配信し、原稿を募集した。最初の寄稿は編集委員4人の原稿のみで50頁の目標は遙か遠くだった。活動開始から数か月、編集委員が個別に声掛けすると昔話が弾み、寄稿してくれる仲間が増えていった。2018年夏には10人超のメンバーから20数編が集まった。残り3か月、50周年クラス会でのお披露目を目指し、寄稿していない級友へ個別にアプローチし、ついに20数名から30編、約50ページの原稿を集めることができた。



担任の江渡明徳先生

表紙には1965（昭和40年）4月の入学記念の集合写真をはめ込んだ。ハワイ（正面玄関右手のシュロの木）の前で中央に眞田幸男校長と担任の江渡明徳先生を囲んで男子37人、女子14人、E組のピカピカの一年生51人が並んでいる。それにしても皆若いというか表情が幼かったという印象。体育祭でのE組マスコット「ハタ坊」（赤塚不二夫の漫画キャラクター）と小石川高校の三大精神「立志・開拓・創作」を中央に配置し、背景にはタンポポの綿毛をアレンジした。記念文集は「先生・学校行事」、「生活・部活」、「天国の旧友に捧ぐ」、「卒業後の出来事」の4部構成とした。

なお、紫友会同窓会報No.48には「010Aクラス文集『蜃気楼』刊行～80歳の記念に～」と題して010Aクラスの皆さんが在学中2年生の時に創刊したクラス文集を、傘寿を迎えた記念に復刊させるまでの経緯が恩師の思い出や在学当時の思い出とともに綴られている。我々より10年先輩にあたる方々もクラス文集を刊行されていることに敬意を表したい。何歳になろうとも旧友との思い出は永遠に不滅である。否、歳を重ねるごとに輝きを増すと言わねばなるまい。

### 3) 卒業50周年クラス会でのお披露目

目標通り1年で卒業50年記念クラス文集の刊行にこぎつけ、1年後のクラス会で参加者20人に配布することができた。また不参加者や地方在住者には郵送で配布した。翌年には第2版を電子版で発行、さらに昨年のオンライン・クラス会の参加メンバーからのコメントや近況報告を追加した第4版では80頁を超えるクラス文集になった。執筆要請に快く応じてくれた寄稿者、追補版の企画、編集、配信等の作業に携わっ

た事務局メンバーによるチームワークの成果で、020E組の特徴がいかに発揮されたように思う。

遠く離れた関西の級友からこんな感想が寄せられた。「E組エッセイ集を拝受しました。まだ完読していませんが、少しずつ楽しく拝読するつもりです。編集委員の皆さん有難うございました。そしてご苦労様でした。皆様の文章を拾い読みしていると、霞の中に隠れていたような高校時代がはっきりと浮かんでくるようで、迷惑のような有難いような気がします。忘れていたことが多いですし、全く知らなかった事実を今になって初めて知らされたトピックも多くあって、驚かされたりします…（後略）」。彼とは在学中に活動を共にする機会の少ない一人であったが、早速連絡をとって加筆修正を依頼し、後の改訂版に掲載するに至った。

### 4) 編集活動の紹介①

#### ～始動そして編集・発刊へ～

ここではクラス文集発刊に興味を持たれた方へ、参考事例として紹介してみたい。まず「みんなの百年」寄稿者が“名ばかり編集長”として発起人になれば、皆様のクラスにおいても事はすんなり始まると思う。賛同者の中に編集経験者がいなくても、すでにビジネスで広く使われているワード・エクセルの上級者がいれば装丁役となってもらえる。原稿はワードでやり取りするのが手取り早いですが、注意したいのは装丁機能が弱いこと。何年も続くことを想定して、初版時に体裁フォームをきちんと作っておくと良いだろう。目次編集はエクセルが使いやすい。本文構成の挿入・並び替えや行間の高さ調整を細かく設定できるうえ、頁数へ結ぶドット列（…）を容易に配することができる。

当初、原稿集めとして考えたアイディアは、ネット上のオンライン・サービスを利用した専用ボックスを作り、その中に思い出起こし写真集や初期原稿を入れて自由に読んだり書き足したりしてもらった方法であった。開設当時は興味を示してボックスにアクセスした仲間がそれなりにいたと思うが、残念ながら020世代はIT不慣れが多いため、こうした思惑はあえなく失速してしまった。結局、原稿のやり取りはメールで進めることとなった。

初版は発刊後も新たな原稿が追加できるようホルダー式のファイルを採用した。第2版以降は電子版にして各自がダウンロードする方法に変更したが、解像度を高めたことや写真を多数貼り付けたため容量が大きくなり、メール配信ができなくなってしまった。そこで大容量ファイルの無料送信サービスを利用した

が、デジタル時代の成熟化に伴っているいろいろなサービスがあるものだと感心させられた。

今年発行した第4版は印刷用とともに容量を押さえた携帯版も配信したが、早速、級友女性から「E組エッセイ集ありがとうございます！携帯にダウンロードしたものを、暇を見つけては読み返しています。懐かしいですね！この時代も。また対面でワイワイできる日を楽しみにしています」というお礼メールが届いた。読み手がいつでも・どこでも・気楽に読める利便性の高さに加え、事務局側の印刷の手間や配送負担の軽減へ大いに役立つ優れものである。

## 5) 編集活動の紹介②

### ～寄稿参加者を増やす工夫～

クラス文集として成り立たせるには多くの級友の参加が条件といえよう。しかし「作文は苦手なので書かないよ」と断る仲間が数人名乗り出たことも事実である。そこで何らかの仕掛けが必要になるので思いついた方法は、①寄稿本文をエッセイ（随筆）とし、②それを読んでチャット感覚で書き加える短文をエピソード（小話）とする階層形式で広めていくことにした。結果として題材の多くは本文の後にエピソードが1つまたは複数つづくスタイルが数多く生まれ、参加率向上につながった。

もうひとつの試みは、例えばクラス会欠席通知に添えられた近況文をエピソードとして束ねることで参加者が増えるうえ、卒業後の気になる級友～〇〇君どうしているか～を知る機会にも役立っている。あるいは名簿管理人から伝えられた死亡通知の返信欄に刻まれた哀悼文を整理して、「〇〇に捧ぐ」と題する思い出エピソードとして綴ることも方法の一つである。そうした一人から「名前を載せてくれて有難う」という趣

旨の賀状が届いたこともある。

第4版では部活編を拡充する目的で、当時熱心に活動していた級友らに原稿を依頼したが、全員が快諾してくれたのはおそらく青春真ただ中の思い出がいっぱい詰まっていることが背景にあるのだろう。その他の寄せ書きスタイルのテーマとしては、先生の思い出や修学旅行も書きやすい題材だと思う。今では出版時点における連絡可能34名に対して寄稿参加28名となり、実に8割を超える参加率に達した。

## 6) 「クラス文集」発刊のすすめ

今回、同窓会事務局の計らいにより我々の取組みを紹介する機会を得たが、皆様のクラスでも文集を作成されてはいかがだろうか？編集事務局のスタッフとして加わった経験から申し上げますと、それなりのエネルギーを要求されたものの、今振り返ってみてもワクワクの連続を体感できる作業であった。これから先の時代では、さらに進歩したシステムをとりこんだ情報発信が可能となることは間違いなく、我々の取組みのさらに一歩、二歩先に行くことに果敢に挑戦していただきたい。そのことを提案する以上、我々も『蜃気楼』を発刊する010Aクラスをはじめとする諸先輩に負けることなく、級友と固いスクラムを組んで80歳まで増補版作成を続けることを目指したい。

我々も後期高齢者の仲間入りをすることになるが、時代の変化に取り残されてなるものかという意気込みがまだ残っていたことを改めて実感した。しかし、それから先になるとさすがに？コロナ禍という未曾有の困難の中でオンライン・クラス会の開催を思い立ち(立志)種々の困難を克服して開催までの道を切り開き(開拓)と書き進めてきたところではたと止まってしまう。過去の思い出を語り合う場がクラス会だが、創作



卒業 50 周年記念クラス文集の表紙・目次・本文の例（修学旅行の思い出）

にあたるものがあるだろうか？ そうだ、話題をあれこれ探して文章を綴るのだから、「創作」ならぬ「搜索」ということでお許しを戴くことにしよう。言葉遣いには厳格なご指導をされたと伝えられる伊藤長七先生、なにとぞご寛容のほどお願い申し上げます。

「クラス文集」編集は負担のかかる作業を伴うが、小石川精神をもって取り組めば消えかけた高校時代を蘇らせる最強ツールにもなり得るし、新たなクラス交流の輪が増える。さらには自分史高校編(ファミリー・ヒストリー)として家族に残すこともできるだろう。赤の他人が読めば、たわい無い出来事や何の面白みもない文面であったとしても、我々には忘れかけた50年前のセピア色の写真として脳裏に浮かびあがり、やがて映像となって動き出す素晴らしい媒体だと思うし、それがクラス文集の魅力といえるだろう。80頁を超える本文を読んでいるといつの間にか高校当時へ

引きずり込まれる不思議な力を持つ文集になったと自負している。

さあ、旧友と共に懐かしき青春の世界への扉を開けようではないか！ 本稿を読まれた皆様のクラスにおいて「クラス文集」発刊の動機づけになれば幸いです。



卒業50周年記念クラス会(2018年10月)

## 移住31年、沖縄あるある

023A 小倉 茂雄

「沖縄」と聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？

南国リゾート、首里城、美ら海水族館、米軍基地、オリオンビール、泡盛、沖縄そば…

私が最初に沖縄での生活を始めたのは、日本航空時代に会社の異動で沖縄に赴任した時でした。1980年(昭和55年)、弱冠27歳の独身でした。社宅に引っ越して1日目の夜、食事をしに近くの大衆食堂に行きました。メニューを見て「？」マークが頭の中を覆いました。「豚肉野菜炒め」と「ポーク野菜炒め」……どう違うんだ？ 豚肉って英語でポークでは？ お店の人に聞きました「何が違うんですか？」。その人の答えは明確でした。「豚肉は普通の豚肉さあね、ポークはいわゆるランチョンミート(※)、加工肉なわけさあ」と、そんな説明でした。

(※) SPAM、チューリップなどの缶詰

沖縄には食べ物以外にも、内地(本土)とはちょっと違う何かがあります。沖縄に移住して31年、その



間に見聞きした内地とちょっと違う沖縄の文化、歴史、風物、しきたり。これらのあるある風にくつかご紹介することで、私が沖縄に住み続けている理由を感じ取っていただければと思います。

### ○ 私のパーソナル・ヒストリー

私は1952年(昭和27年)、熊本市内で生まれました。父が公務員だったため、西宮市で幼稚園時代を過ごし、小学校に上がる直前に東京(豊島区)に引っ越して来ました。千早小学校、千早中学校を卒業し、昭和43年、小石川高校に入学します。

高校時代にパイロットになることを夢見た私は、勉強もせずにフォークソング狂いだったため一浪して航空大学校(パイロット養成の国立大学校)を受験するも落ち、東海大学工学部航空宇宙学科へと進みます。

大学では航空整備士を目指しますが、オイルショックの影響で航空会社が学卒の採用を見送ったため、仕方なく志望を変更し、機械専門商社に入社しました。その会社で営業活動中にたまたま目にした「航空管制官採用試験」のポスターを見て、空の仕事に就きたいとの夢を実現しようと応募し、1977年4月、航空保安大学校(羽田空港内)に入りました。

6ヶ月の基礎研修を終えて、日本の航空管制の中核を担う所沢の東京航空交通管制部に配属されました。所沢に来て半年ほど経った頃、今度は、日本航空が航空機関士(フライトエンジニア)を募集することを知り、応募して採用試験に合格。航空機関士訓練生として入社したのは1979年、26歳の時でした。

航空機関士はパイロット職ではありませんが、操縦訓練が課せられていました。米国カリフォルニア州ナバ乗員訓練所での訓練中、プロGRESS・チェック（見極め試験）で不合格となり、地上職への変更を余儀なくされました。そして配属されたのが日本航空沖縄空港支店航務部（運航管理部門）です。ここで冒頭に書いた食堂でのエピソードにつながります。

振り返ってみると、独身時代に過ごした沖縄での3年間はとても充実した濃いものでした。マリンスポーツを体験したのもこの時期です。運航管理者の国家試験に合格し、成田に転勤、3年後に日本航空を依願退職しました。沖縄の女性と結婚し長女が1歳を迎えた時でした。日本航空時代の先輩と会社（日本ビジネスジェット）を設立し、沖縄の琉球エアークommューター（RAC）の航空運送事業免許を取得する仕事で沖縄に派遣されました。半年ほどで東京に戻り悶々としている時に、RACにいる友人から、路線を拡大するのでRACに来ないかと言う話があり、二つ返事で1992年、家族と共に移住しました。この時私は39歳。それまで、多くの職場で仕事をしてきましたが、定年退職するまで21年間、楽しくも充実した日々を過ごすことができました。



退職の日、RACの仲間と

## ○ 沖縄あるある

### 1. 地名と名前

沖縄には独特な地名、名前があります。例えば、勢理客、手登根、嘉手苺、我謝、安謝、桃原、保栄茂、謝刈、東江、西表島等々。地名にも人の苗字にもあるこれらの表記を読めますか？その土地に住んでいた人が地名を自分たちの姓として名乗るのは、全国的にもありますが、沖縄は特に多いと感じます。

さてその答えは。勢理客（じっちゃく）、手登根（てどこん）、嘉手苺（かでかる）、我謝（がじゃ）、安謝（あじゃ）、桃原（とうばる）、保栄茂（びん）、謝刈（じゃあがる）、東江（あがりえ）、西表島（いりおもてじま）。

これらは、ほとんどが大陸（中国南部）から伝わって来たきたものと言われています。

ちなみに沖縄の三大名字は、比嘉さん、金城さん、大城さんです。



難読地名のいろいろ

### 2. 沖縄人（うちなんちゅ）、大和人（やまとんちゅ）、内地人（ないちゃー）

沖縄の人は自分たちを「うちなんちゅ」と言います。そして私のような東京から来た人は「やまとんちゅ」です。本土のことは「内地」とか「大和（やまと）」と言います。「若い頃はヤマトで仕事をしてたよ。」と言っても、別に宅配便の仕事をしていただけでは無く、東京とか大阪で仕事をしていた、と言う意味になります。そして私のように沖縄の女性と結婚した大和出身の婿は、大和婿（やまとむく）と言われ、少しリスペクト感があります。逆に「内地の人」と言う意味で「ないちゃー」と言われることもあります。これには少し排他的な響きがあります。うちなんちゅでは無い人、と言う感じです。

沖縄の人は、うちなんちゅであることのアイデンティティを強く持っています。沖縄の文化、風習が色濃く染み込んでいると感じます。そのためか、進学や就職で内地に行くのを避ける傾向にあります。県内に残りがります。親も然りです。また、長男の場合はトートーメと言って、仏壇を守り継承する風習があるため、県外に出るのは難しいようです。個人的には、もっと県外、国外に羽ばたく人が増えて欲しいと思っています。その昔、琉球王国は中国との交易で栄えた「万国津梁（ばんこくしんりょう）（※）」の国でした。その気質をうちなんちゅは持っているはずなのです。

（※）万国津梁：「琉球王国は南の海にある蓬萊の島で、船を万国の架け橋にして貿易によって栄える国である」ことを意味しています。（沖縄県立博物館・美術館 HP より）

### 3. うちな－タイムと運転マナー

私が沖縄に赴任した頃は、約束の時間に来る人は少なく集合時刻に30分ほど遅れて集まるのが普通でした。これを「うちな－タイム（沖縄時間）」と言っていました。結婚式の披露宴も30分程度遅れて始まるというのが常でした。時間通りに来た人は怒ったりイラついたりすることもなく、ビールでも飲みながら隣の人とゆんたく（談笑）しながら始まるのを待つ、それが沖縄のフツウの風景でした。

しかし、どうしたことでしょうか？それから40年

経って、この状況は一変した感じがします。時間を守るようになってきました。少なくとも結婚披露宴も会議も定刻に始まります。ごく当たり前のことではありますが、昔ののんびりした時間の流れ、人生長いんだから、なんくるないさー（何とかなるさ）の風習が私には心地良いものだっただけに、これはちょっと寂しい思いがあります。

これとは逆に、一向に改善されないのが運転マナーの悪さです。前の車がウィンカーも出さずに左折したり車線変更するのを当たり前のように目にします。最初は驚きました。ワジワジー（イライラ）することもあります。プロの運転手であるはずのタクシーですらそうです。危険を感じることもあります。慣れてくるとウィンカーが出ていなくても左折するのが分かるようになります。このマナーの悪さがどうして改善されないのか不思議です。

#### 4. エイサー

沖縄の人は唄や踊り、音楽がとても好きです。普段でも三線の音がどこからともなく聞こえてきますし、お盆（沖縄では旧盆）の時期になると、エイサーの太鼓の音があちらこちらから聞こえてきます。



エイサー

エイサーの躍動的なパフォーマンスは一度見ると虜になり、ちむどんどん（心わくわく）します。各地の青年会がエイサーを練習し、旧盆最終日のウークイと呼ばれる日に、先祖供養のための道ジュネー（通りを練り歩く行列）を行います。旗頭を先頭に、大太鼓、締め太鼓、パーランク、三線、手踊り、チョンダラー（リーダーでありピエロ役でもある人気者）で構成され、30人程度から多いと100人くらいの集団になります。夏には全島エイサー大会が開催され、20組ほどの青年会がエイサーの演舞を競い合います。

#### 5. 三線、琉舞（琉球舞踊）、空手

沖縄の楽器を代表する三線（さんしん）。いわゆる三味線です。三味線は、中国から沖縄に伝わり、これが大和（本土）各地に広がって行きました。沖縄では「しゃみせん」とは言わずに「さんしん」と呼んでいます。BEGINを始めとした多くの沖縄ミュージシャンも三線を使って演奏します。

琉舞は、古くから伝わる伝統的な踊りです。華麗な紅型（びんがた）の琉球衣装に身を包み舞う姿は、琉

球王朝時代を髣髴とさせます。三線、笛、太鼓、琴と言った楽器演奏（演奏者を地謡（じかた）と呼ぶ）に合わせて踊る姿は何とも優雅です。国立劇場おきなわ（浦添市）では、琉舞だけでなく、組踊（くみおどり）や島言葉（沖縄方言）を使った芝居も上演されています。琉舞をはじめとした沖縄の伝統芸能は多くの観光客にも喜ばれ、食事をしながら踊りを見る料亭やお店がいくつかあります。

もう一つ、沖縄の伝統的な武道である空手は、中国から琉球に伝わりこれが大和に伝わったと言われていいます。意外と知られていませんが、沖縄は空手発祥の地なのです。2020東京オリンピックで、喜友名諒選手が金メダルを取ったことで、沖縄の空手が全国的に知られるようになりました。

#### 6. シーサーと石敢當

ご存じの方も多いシーサーは、沖縄の土産物では一番人気があるのではないのでしょうか。いわゆる、家の守り神、魔除けの獅子（いわばライオン）です。街を歩けば、家の門柱の上や屋根の上に鎮座しているのをよく見かけます。



屋根の上のシーサー

1対の場合は「阿吽」、向かって右に口を開いた像（オス）を、左に口を閉じた（メス）を置きますが、1体でも魔除けとなります。

「石敢當」は何と読むのでしょうか？答えは「いしがんとう」です。地名ではありません。これも魔除けです。家の中に入ってくるマジムン（魔物）を撃退する石碑です。T字路で道がぶつかる塀などによく置かれています。

マジムンは猪突猛進なので、道を真っすぐ走って来て、そのまま家の中にまで入って来られては困るので、このような魔除けの石碑を塀などに設置しているのです。



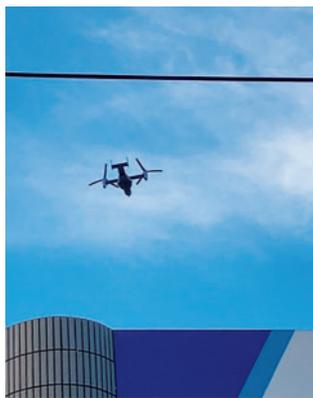
家の前の石敢當

#### 7. 沖縄の米軍基地

沖縄県が、日本の国土面積のわずか0.6%の土地に、米軍専用施設の70%が存在することは良く知られた

話です。場所にもよりますが、住んでみるとこれは直ぐに実感できます。

私が住んでいるマンション（浦添市）の上空も、普天間基地を離着陸するオスプレイや輸送機が毎日のように飛び交っています。とりわけジェット戦闘機が離陸していくときの爆音は



上空を飛ぶオスプレイ

尋常ではなく、テレビの音は全く聞き取れません。本島のメインストリート、国道58号線を車で走ると、軍用車両を見かけることもしばしばです。

米軍の嘉手納基地は驚くほどの広さです。普天間と嘉手納、この2つの米軍施設が返還されたら、沖縄の経済発展に大きく貢献すると思いますが、現状では嘉手納の返還はあり得ないし、普天間の返還すら怪しくなっています。

### ○ 私と沖縄—この地に住む理由とは

さて如何でしょうか？沖縄あるあるは、まだまだありますが、ここまでの話で私が沖縄に住み続けている理由を感じ取ってもらえましたでしょうか。もちろん温暖な気候と独特の文化や生活、人柄、そしてそれらと共に、この島で感じる空気感や解放感、これがとても心地良いこと、そして沖縄出身の妻がいて、何より仕事が楽しかったことが大きな理由です。

そしてもう一つの理由は、趣味のギターを通して多くの友人ができたことです。沖縄に来てからはたまにしか弾くことが無かったギターですが、55歳ころに、たまたま機内で聴いた押尾コータローのソロギターに

魅惑されてしまいました。フォークソングとジャズギターしか知らなかった私には衝撃的で、ソロギター・サークルに入って月1回のライブ（演奏会）で演奏の腕と度胸を磨きました。ほどなくして私にはその才能が無い事に気がつき、首里のライブカフェに「戦うオヤジの応援団」と言うサークルができたのを機に、昔懐かしい弾き語りの世界に戻ったのです。現在は、拓郎、陽水に始まり、村下孝蔵、山下達郎、大滝詠一、サザン等々の曲を月例会で披露しています。

仕事が忙しい時ほど、歌とギターに没頭してストレスを解消することができました。そして、今ではソロでの弾き語りだけでなく、サークルのメンバーとユニットを組んで、ショッピングモールでのステージや福祉施設などでライブを行っています。

こういうギターを通じた仲間たちとの結びつきがあって、沖縄での生活に潤いと生き甲斐を感じたことが、この地に根を生やすことになった理由ではないかと思っています。

独身時代を含めると35年、人生の半分が沖縄です。そして今は、専門学校で航空業界を目指す学生達を教えています。沖縄から出る考えはありません。

私がかつて勤務していた那覇空港では、運航事務所の窓から美しい海を眺めることができました。その向こうには慶良間諸島です。そして今、8階の職員室から見える景色は、あの安室奈美恵が引退コンサートを行った沖縄コンベンションセンターと、その向こうに広がる東シナ海です。東京のお台場とはちょっと違うと思いますが、ありがたいことに、オーシャンビューの職場でずっと仕事ができることで大満足です！

沖縄は決して宝島とか竜宮城ではありませんが、ここに住んで生活していること自体が、私にとってはぬちぐすい（心の薬）となっています。



中城モールでのライブ演奏(左から2人目が筆者)



事務所からの眺め(沖縄コンベンションセンター)

## 私を育ててくれた小石川

0441 橋本 吉貴

### はじめに

1974年（昭和49年）生まれの私は、板橋区立常盤台小学校、上板橋第三中学校を卒業し、1989年（平成元年）小石川高校に入学しました。当時の校長は第12代の馬場信房先生と第13代の佐々木純一先生、担任は体育の古山光久先生でした。古山先生とは、今でも年賀状のやり取りをしています。



私は、小石川の旧校舎で3年間過ごした最後の学年です。クラスはI組でした。卒業後も頻繁に部活に顔を出していたので、私の3つ年下の学年まではI組が存在していたことは確実です（J組は、2つ上の学年で終わっています）。部活は、軽音楽研究会（以下、軽音研）に入部し、夏休みは9月の行事週間に向けて、毎日練習に明け暮れていました。クラスと軽音研のことについては、後ほど詳しく書きます。

私は子どもの頃から教員に憧れていたもので、東京学芸大学教育学部に入學、横浜国立大学大学院に進学し、中学校の非常勤講師（数学）を経て、2004年（平成16年）4月に鎌倉女子大学児童学部（途中で教育学部に異動）に赴任しました。

### ○ I組での思い出

小石川高校は、3年間クラス替えがありません。担任の先生も、基本的には持ち上がりです。小石川の特色として、自由でのびのびとした校風、3年生は体育と英語以外は基本的に自分で時間割を組むため、大学に入学して自分で時間割を組むときに、それが役に立ちました。

小石川の校舎は、現在の校舎のあるところに旧グラウンド、現在のグラウンドがあるところに、私たちが3年間過ごした旧校舎が建っていました。校舎はA棟、B棟、C棟に分かれていて、2階に渡り廊下があって繋がっていました。1年生の教室は、不忍通りから一番遠い棟にあって、しかも私たちのクラスは確か3階だったので、1時間目の授業開始の10分前には正門をくぐっていないと、完全に遅刻でした。2年生の教

室はB棟の1階だったので、休み時間に中庭に出たり、体育の授業を受けたりした後は、教室に戻ってくるのが楽でした。

クラスとして団結したのは、とくに行事週間ですが、中でも体育祭と創作展です。体育祭ではクラスカラーがあって、私たちのI組は水色でした。2年I組と3年I組（3年生はIJ連合のクラス）の先輩と共に、昼休みに応援の練習をしました。

3年生の創作展では、「スターは君だ」の企画名で参加しました。今になって振り返ると大がかりな準備でしたが、ジェットコースターのようなコースを教室の中に作って、台車にお客さんを乗せます。最後の急坂を下るとそこがステージになっていて、お客さんのリクエストした曲をカラオケで流して歌ってもらう、という企画でした。



1992年3月 卒業旅行（熱川温泉へ行く途中）

卒業後のクラス会は、食事会とバスで3回ほど旅行に行きました。伊豆の熱川温泉と戸狩野沢温泉（軽音研の合宿先の近くでした）のスキーが印象に残っています。それからは、ほとんどのクラスメイトと音信不通になってしまいましたので、本稿を読んでいるI組の人がいたら、ぜひ連絡してください。クラス会、またやりたいです。



卒業旅行（戸狩ヘスキー）

### ○ 授業の思い出

数ある中から思い出に残っている、数学と体育、生物の授業について回顧したいと思います。数学は自分の専門分野でもあるので、とくに印象に残っています。松永浩之先生、青木和男先生、佐々木巧先生、青木太夫先生、村瀬欽也先生にお世話になりました。村瀬先

生は、いつも白衣を着て授業をしておられました。現在、大学の教員採用試験の対策講座で、学生に三角比や2次関数の問題を黒板で解説していると、よく小石川の数学の授業を思い出します。

担任の古山先生が体育の先生でしたので、古山先生の授業を受ける機会も多かったです。高校2年生の途中から、新校舎の建築工事のためにグラウンドが使えなくなりました。前の項でも書きましたが、旧グラウンドのところにも新校舎が建ったので、座学の授業は潰すことなく過ごせました。問題は体育です。中庭で縄跳びをしたり、2時間続きの体育では、少し離れた六義園まで歩いていき、六義園の周りをジョギングしました。体育祭も六義園のグラウンドで行いました。私は球技と水泳が苦手だったので、高校生活の後半にそれらがなかったのは、ラッキーでした。

小石川高校で、厳しい授業の1つとして、生物の授業を無しには語れないでしょう。私の在学中は岩田浩司先生と八重樫健弍先生が担当されていました。I組は岩田先生です。生物の実験ノートは、今でも大切な宝物の1つです。方法、結果、考察、結論をまとめて、期日までに先生に提出します。今はもちろん分かりませんが、当時は結果と考察の違いが分からなくて、岩田先生からは何度も「あなたは、結果と考察と内容が同じです」と指摘され、まとめるのに苦戦しました。

岩田先生は、生徒一人ひとりのノート1字1句にすべて目を通されて、「熱意を認める」や「図が小さい」などの小さな印鑑をノートにギッシリと押しつけて下されます。それを直して、授業が終わると生徒たちは大急ぎで生物室まで駆け込み、先生に再添削して頂くための長蛇の列ができます。何度も生物教官室に通い、「合格」の印鑑がもらえた時の喜びは今でも忘れられません。

大学では、学生の小論文を添削したり、大学に入学する予定の高校生が書いた入学前教育の作文を添削したりすることが多いですが、すべての行に赤を入れることは不可能に近い作業です。岩田先生は、何十人もこのノートのすべての行に目を通して添削をされていたので、頭が下がります。

また、大学の教員として多くの原稿を執筆していますが、今の私があるのは岩田先生のおかげといっても過言ではありません。時には、原稿の校正の仕事もまわってきます。生物のノートに細かく矢印を入れて書き直したテクニックは、定規を使って、小さな文字と文字の間に「校正記号」を入れる作業をするのに役立っています。

## ○ 軽音研の思い出

私は、小学生の頃からピアノを習っていたので、高校でも音楽系の部活に入りたいと考えていました。それで、軽音研の新歓コンサートを聴いて、先輩方が演奏している姿に憧れて入部しました。楽器はトロンボーンです。小学校高学年のとき、マーチングバンドで少しトランペットを吹いていたことがあったので、音はすぐに出ました。顧問は、英語科の伊藤裕美子先生と生山文雄先生です。私は合宿係でしたので、何度も相談に乗って下さいました。技術的な指導は、部活の先輩から受けました。トロンボーンの前輩からは、優しく、時には厳しく楽譜の読み方を教わりました。私は「ピアノ読み」で慣れていたので、「トロンボーンの楽譜では、全音1つ分あげて読む」のに慣れるまで苦労しました。例えば、ピアノの楽譜でC（ド）の音は、トロンボーンでは「レ」と読みます。そして、何よりもクラシックとジャズで違うのはリズムです。八分音符を4つ鳴らすとき、クラシックでは均等の長さになりますが、ジャズでは1番目と3番目の音が少し長めになります。曲の練習では、メトロノームの速さに合わせて何度もドレミでジャズのリズムで歌えるようになってから、楽器を持って吹きました。

軽音研では、毎年5泊6日で長野県の戸狩野沢温泉にある「銀嶺荘」（筆者がインターネットで検索したところ、現在も営業中）に夏合宿に出かけます。



1991年8月 夏合宿合奏風景

自由席のため、上野駅に夜21:00頃には到着して列に並び、上野23:58発の急行「妙高」（既に廃止）で長野到着が翌朝の4:30頃。眠い目をこすりながら、長野駅の飯山線ホームで待つこと1時間。長野5:30頃発の始発列車に1時間ほど揺られて戸狩野沢温泉駅に着きます。午前中は宿で仮眠をとって午後からはみっちり練習です。顧問の先生は引率で付き添いますが、指導者は、大学の学生バンドでバリバリに活躍している先輩でした。

長く続いている合宿の伝統で最終日の夜には「ライブ・イン・戸狩」と称し、芸能祭と創作展で演奏する曲の全曲を、OB・



1991年8月 夏合宿(戸狩の銀嶺荘)

OGの前で演奏してコメントをもらいます。楽器を長く吹ける体力がついたのはもちろんですが、同じ楽器の先輩と後輩との絆が合宿でとても深まりました。

そして、軽音研にとっての集大成の発表の場は、行事週間である芸能祭と創作展です。芸能祭は、講堂のステージで行われ、CMA（古典音楽研究会）とはほぼ隔年で2日目の大トリを飾っていました。創作展は、1日目または2日目のどちらか1日、学年別バンドや「芸能祭 again」（芸能祭の曲の全曲演奏）をします。



1991年9月 創作展(旧校舍音楽室)

軽音研の同期は、入部当初は12～13人いましたが、最後で残ったのは男性8名です。今でも年に数回、巣鴨に集まって食事をする私にとって、かけがえのない友人です。



1992年3月 卒業式の日

## ○ 軽音研の過去そして現在

ここで、軽音研で私の10期ほど上の先輩の小倉康之さんから、昔の軽音研の様子を聞く機会があったので少し書きます。当時の行事週間も、私たちが高校に在籍していたときと同じように、芸能祭と創作展が2日間ずつ、そして体育祭です。芸能祭のプログラムを見ていたら、懐かしい曲が並んでいました。1979年(昭和54年)ですから、私がまだ5歳のときのことです。

### 1979年芸能祭のプログラム

- 1 Fun Time
- 2 It Only Happens Every Time
- 3 A Child Is Born
- 4 Wave
- 5 Cute
- 6 Quietude
- 7 It's Oh So Nice
- 8 Miss Fine
- 9 Little Karen
- 10 ルパン三世
- 11 Orange Sherbet



1979年9月 芸能祭

“Quietude”、“It's Oh So Nice”、“Little Karen”と“Orange Sherbet”は、自分が現役のときにも吹きました。そのほかの何曲かは、大学生や社会人になってから吹いています。

軽音研は、小石川の周年行事があるときに、度々ステージで演奏してきました。写真は、創立95周年の記念イベントのときの軽音研の演奏写真です。私も、1998年の創立80周年の記念式典のとき、一度だけ吹いたことがあります。機会があればこのように世代を超えて、また先輩や後輩と一緒にいたいです。



2013年 小石川創立95周年の記念イベントにて

ところで、トランペット以外の楽器は、譜面台の代わりに箱の形をした組み立て式の譜面台（通称、箱面（ハコメン））が使われています。小倉さんのお話によると、この譜面台は当時の部員がNHKまで出向いて、スタッフさんをお願いして譲り受けたそうです。私が2018年9月の創作展に訪れたときにも使われていたから、途中で何度も外側の色を塗り替えながら、40年以上にも渡って大切に後輩へ受け継がれています。



2018年9月 創作展にて

そして先日、日暮里のコンサートホールで軽音研のOBが何名か出るライブがありました。若い卒業生も会場に来ていて、久しぶりに大集合になったので、記念写真を撮りました。若いOBの皆さんには、このようにいつまでも楽器を続けてほしいです。



2023年2月 日暮里サニーホールにて

### ○ 現在の自分に生きていること

高校生活で得られた友人、知識、体力などすべてが今の私に生きているのはもちろんですが、教員として仕事をしているので、学生に指導したり、原稿や論文を執筆したりするのに役立っています。前述しましたが、生物のノートの書き直しが学生の書いた小論文や作文の添削に生きています。また、高校を卒業してからしばらくの間、軽音研の普段の練習や夏合宿に顔を出して後輩の指導に携わってきたので、現在、大学で

顧問をしている音楽系の部活動の指導にも、大変参考になる部分が多いです。

現在、鎌倉女子大学教育学部に勤務していますが、小石川中等教育学校の設立に大きく貢献された、第19代校長の遠藤隆二先生が教育学科長としていらした時期があり、大変お世話になりました。仕事のことはもちろんですが、私が卒業した後の小石川の話を沢山して下さいました。深い縁を感じました。

### ○ 終わりに

小石川での思い出は、4枚の原稿には収まらないくらい、沢山の思い出が詰まっています。本稿を執筆するにあたっては、記憶で思い出せない部分は「小石川創立100周年記念誌」を参考にしました。また、多くの資料を提供して下さいました軽音研OBの小倉康之さんに御礼申し上げます。そして、私の高校時代を育てて下さった、I組の担任でいらした古山光久先生はじめ小石川高校の先生方、I組クラスメイト、軽音研の先輩、同期の友人、後輩の皆さんに感謝の意を表します。

(2023年3月6日 寄稿)

## ここというのは、時間のこと

053G 鈴木 晴香

九十九年の夏、私は確かに小石川高校の生徒だった。

ロッテリアどこにあるって聞かれたら

九十九年の夏の新宿

ハンバーガーセットを持って駆け上がる

階段いくつかは三角形

夏休み。クラスの友人たちと新宿のマルイに洋服を買いに出掛けた。赤い手摺のエスカレーターを上ったり下りたりして最後に選んだのは、透き通った小花柄のブラウスと、その下に着る薄紫色のキャミソール。新宿駅で待ち合わせることも、試着することも、すべてが大人になったみたいだった。買い物を終え、私た

ちはロッテリアの二階で長い間おしゃべりをした。ハンバーガーに挟まれたチーズはなんだか薬のような味がした。

新宿三丁目交差点の近くのロッテリア。あの夏の、あのロッテリアだけが、私にとってたったひとつの、本物のロッテリアなのだ。



ハンバーガー冷やして食べていた夏の

ともだちの名前みんな三文字

つばの広い麦わら帽子のともだちを

夕陽のように眺めたりした

今日は雨の金曜日。先週まで鴨川を埋め尽くすように咲いていた桜もほとんど散った。誰かに伝えるようなエピソードもなく、特に撮るべき写真もなく、何日か後には忘れてしまう、そんな時間が緩慢に流れている金曜日。

九十九年の夏からは、二十四年隔てられている。

いつからか会わなくなった友達のように

打ち上げ花火は終わる

君が今どこかで濡れている雨が

ここにも降りそうで降らなくて

あの夏、一緒に洋服を買った友人たちは、どこでどんなふうにも今この瞬間を生きているのだろう。あの三年間、偶然同じ学校の同じ教室で過ごした運命たちは、きらきらと地球の上に散らばって、それぞれの土地で光っている。今、君を濡らしている雨に私は濡れることができないし、私を濡らす雨が君に届くこともない。当たり前のことだけれど、他の誰かの人生をそっくりそのまま生きることができないのだ。ただある時、私たちの人生が交差したことがあった。それだけ。

それだけ？

またここにふたりで来ようと言うときの

ここというのは、時間のこと

思い出は増えるというより重なって

どのドアもどの鍵でも開く

十年ほど前のある日から、私は短歌を作るようになった。五七五七七の短い詩。短歌には風景と心を同時に冷凍保存できる機能があるように思う。青春の真っ只中にあるとか、恋をしているとか、大切な人を失ったとか、そんな劇的な場面でなくていい。例えば今日のようなすぐに忘れてしまいそうな金曜日のことだっけとぎゅっと凍らせて、あとから味わうことができる。むしろ、なんでもない金曜日のほうが、短歌では価値を帯びたりする。

いつ開けたペットボトルかわからない

ペットボトルが何本かある

飲みかけのペットボトルが冷蔵庫にいくつかある。底にはそれぞれ何センチか液体が残っていて、飲みきることも捨てることもできずになんとなく日が経って

しまった。どうにかしなきゃなと思いながら並んだペットボトルを眺めているうちに、ああ、と気づく。これは私の心の中ではないか、と。一緒に花火を見ようと言った約束。あとがきだけ読んだ本。「ずっと好きでした」という言葉。どれも中途半端なまま残されて、その先に進むことも捨てることもできないまま私の中に留まっている。どうにも扱うことのできない記憶が、ほんやりとそこに立ち続けているのだ。冷蔵庫を開けるその手が、私の心を開いてしまう。開けるたび、そこには橙色の小さな電球が灯る。

\*\*\*

ここで紹介した短歌は、鈴木晴香第一歌集『夜にあやまってくれ』（書肆侃侃房・新鋭短歌シリーズ）、第二歌集『心がめあて』（左右社）に掲載されているものです。雑誌「ダ・ヴィンチ」「短歌ください」に掲載された作品のほか、東京・京都・パリを描いた短歌などを収録しています。現在は、田原町のReadin' Writin' BOOKSTORE、よみうりカルチャー自由が丘で、現代短歌教室を毎月開催しています。短歌に触れるのは初めてという方も含めて、幅広い年齢層の方にその手法や魅力を伝えています。また、8月下旬に最新歌集『荻窪メリーゴーランド』（木下龍也氏との共著・太田出版）を刊行します。

先日、NHK ラジオ深夜便「ほむほむのふむふむ」にゲストとして出演した際、穂村弘さんが『心がめあて』からこの歌を紹介してくださりました。

この手紙燃やしてほしいと思ったり

しないもともと燃えているから

この「手紙」は、私の短歌のことでもあるような気がしています。



# 今、学校では

## コロナ禍からの復活

教諭 小原 洋平

ここ数年間、新型コロナウイルスの影響で、多くの都立学校において、様々な教育活動が延期、縮小の措置を取らざるを得ない状況でした。これまでの記事でもお伝えした通り、本校の行事においてもその影響を大きく受けておりましたが、今年5月8日に新型コロナウイルスが「5類感染症」になったことに伴い、多くの教育活動が本来の形に戻りつつあります。今回はコロナ禍から復活した行事を紹介したいと思います。

### ● 3年海外語学研修（15期生）

令和4年度の春季休業中、3年ぶりに実施しました。これまでの学年と同様にオーストラリアのアデレード州の現地校8校を訪ね、ホストファミリーのもとでホームステイも行いました。現地でしかできない生きた学び、かけがえのない出会い、2週間を過ごした自信等、様々な経験値をもって帰国をしました。帰ってきた生徒の話の聞くと、多くの学びがあったように感じます。一部の感想を紹介します。

- ・海外語学研修で学んだこととして、自分に意志をはっきり伝えるということがある。これが海外のコミュニケーションだということを実感した。また現地に行かなければ分からないということも学んだ。日本を発つ前に下調べをして行ったが、実際に経験してみないと分からないことが多くあった。
- ・海外語学研修を経験して、英語に対する考え方が変わった。現地で英語を実際に使っているところを見



現地校にてパディ生徒との記念撮影(海外語学研修)

たり、自分も英語で人に伝えたりすることで英語は教科であるということ以前に言語であるということを実感した。

- ・海外語学研修が終わって思うことは、この行事は「英語力の向上」以上に、「海外に対するハードルの矮小化」が最も重要なポイントである。今自分にあるのは、「再び海外の地へ訪れたい」という想いである。これだけで、海外語学の獲得へのモチベーションとして十分すぎると感じている。



集会でのスピーチの様子(海外語学研修)

### ● 1年生宿泊行事（18期生）

6月7日から2泊3日で1年生の移動教室が実施されました。これは毎年1年生で、学年の親睦、よりよい集団づくりを目的として行われてきた行事ですが、1年生のこの時期に2泊3日で実施できたのは5年ぶりとなります。天候にも恵まれ、予定していたすべての行程を行うことができました。1日目は酪農体験を行いました。乳しぼりやバター作り体験をするとともに、牧場主の方から命の尊さやこれからの世の中を生き抜くためのアドバイスも頂きました。その後は、クニマス記念館やこうもり穴の見学、世界的に貴重な溶岩樹型洞穴を散策し、自然の恵みを体験するネイチャーガイドウォークを行いました。どの場面においても、目を輝かせながら各展示を見学したり、一生懸命にメモを取る生徒の姿が印象的でした。2日目は山中湖を半周するウォークラリー、3日目は飯盒炊爨を行いました。班で協力して様々な課題に取り組んだり、集団として活動を通して、少しずつ小石川生としての自覚が芽生えてきたように感じます。これまでの先輩たちのように、あれもこれも挑戦して、小石川生として大きく成長してくれることを願っております。

# 今、学校では

現在は、行事週間に向けて、生徒の活気に溢れています。朝は各学年の学年種目の練習、昼休みは応援ダンスの練習、放課後は予備体育大会と、生徒の歓声を聞かない日はありません。また土日には芸能祭のオーディションや委員会の練習会、LHRの時間には各クラスの創作展の話し合いがもたれています。今年度の創作展は、時間制限こそあるものの、外部者も制限なく来場できます。いよいよ、OB・OGの方々も自由に来校できる「ホームカミングデー」な創作展になりそうです。みなさんの来場をお待ちしています。



移動教室での記念写真(山梨県)



## トラットリア・イタリア文京店

東京都文京区本駒込2-28-10 文京グリーンコート1F

JR駒込駅 徒歩8分 三田線千石駅A3出口 徒歩5分

営業時間 11:30 ~ 22:30 / 150席(個室2) / 年中無休 / 駐車場あり

yoyaku@kyoei-kikaku-group.co.jp



www.kyoei-kikaku-group.co.jp

## 桑原志織



藝大ピアノ科初の奨学生、  
首席卒業。

ベルリン芸術大学大学院  
留学。

ブゾーニ・コンクール第2  
位、ルービンシュタイン・  
コンクール第2位、他多数  
を受賞。

母は、桑原(鈴木)良子さん…  
033E組(地学の土屋  
クラス)女子軟式テニス部  
所属。



### 紫友同窓会からのお知らせ

#### 「紫友ニュースレター」をご存知ですか？

同窓会では、同窓生・同窓会・学校に関するニュース、セミナーをはじめとするイベント、出来事など様々な話題を皆様にいち早くお伝えするため、メールマガジン「紫友ニュースレター」を月に1回程度発信しています。

同窓会へメールアドレスをご登録されている方(公開・非公開を問いません)に無料配信していますので、小石川のホットな話題を知るために、貴方もぜひメールアドレスをご登録ください。

#### 【登録方法】(どちらでも登録可能です)

- Web 名簿管理システムのマイプロフィールにメールアドレスを登録(非公開指定可)
- 同窓会事務局(下記メールアドレス)へ  
ご連絡(jimu-kyoku@shiyudousoukai.jp)



# 今、学校では

## やっぱり楽しかった 小石川PTA

令和5年度 PTA 顧問 塩川 浩司 (元 PTA 会長)

あれは3年前、コロナが始まって早々に小石川PTA会長に就任し、その年は、何もすることができないという焦りの中で右往左往するのみでした。コロナ2年目には、オンライン会議のやり方も板に付いてきて、紫友スタジオをフル活用させていただきながら、どうかこうにか活動を模索する日々。「楽しくなければPTAじゃない」を掲げて、コロナ最終年の令和4年度には、いくつか新しい活動にチャレンジすることもできました。

### ●楽しく有益な企画を開催

コロナ禍での学校で、保護者の声が多かったのが、「学校に行ける機会も全くないので、子ども達の学校生活が全くわからない」ということでした。そこで、PTA役員内に「小石川PTA チーム広報2022」を結成し、不定期ではありますが月1～2回のペースで、「PTAだより」として、メールマガジンの発行を開始。いやはや、小石川はつねに情報でんこ盛りですね。メディア掲載情報やサイエンスカフェ情報、もちろん紫友同窓会情報等々、普通なら見過ごしてしまうもったいない情報を毎月発信。令和5年度からはPTAサークルの「こいしかわらばん」にその役割を移管して継続しています。

夏休みには、親時の会で、「お子さんが学校に行きづらさを感じていませんか？」というテーマでのトークサロンを開催しました。「心の負担が大きくなる休み明けの2学期を迎えるにあたり、親として気になっていることがありましたら、思いをシェアできる場になれば」と専門家の保護者さんも交えて実施した企画でしたが、「子どもの問題のことは、学校とのやりとりだけで、横の情報がまったくなく、同じ悩みを持っている他の保護者さんの話を聞いたことは、本当によかった」という感想も聞きました。この会の開催をきっかけにして、校長はじめいろんな先生や、保護者さんらと話げできたことは、自分自身にとっても、本当に貴重な経験になりました。

また、12月3日に、子宮頸がんワクチンのPTAセミナーを開催しました。これは、ある保護者さんからの要望に応じて開催したもので、講師には東京大学医学部附属病院小児科勤務の瓜生久美子医学博士をお迎えし、参加



## PTA 活動報告

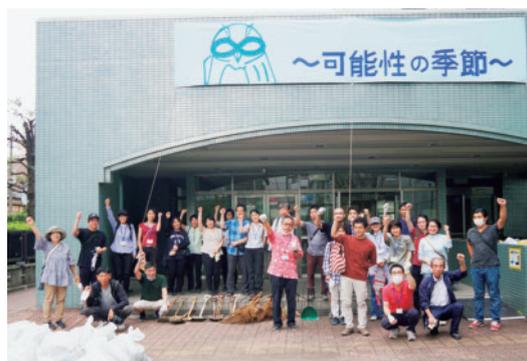
者のみなさんの質問のレベルも非常に高く、このテーマに対する保護者の関心が高いことが分かりました。

そして、12月17日には、PTA行事の大本命であるPTA講演会を荒木慶彦先生（医学博士、日本大学医学部病態病理学系微生物学分野・客員教授／上席研究員）を講師にお招きして開催。「文系・理系と教養主義—“理系”難関学部としての医学部とその将来展望—」と題するご講演を頂き、医学教育などを例にとり、世界標準から見た日本の教育の将来展望についての論考は小石川保護者にとって、本当に有意義な講演会となりました。

### ●新しいサークル「こいカレ」も始動

さて、その前の11月19日に、2年間途絶えていたPTA懇親会を大会議室で開催することができました。もちろんノンアルでの開催でしたが、生徒指導部の小原先生に、「行事週間の振り返り」と題して、子ども達の情熱的な活動の様子を映像を見ながら語っていただき、どの学年の保護者さんも大満足。そして、その懇親会の場で出たのが、「合唱サークルを作りたい!」という話題。その後もあれよあれよという間に賛同者が増えて、年明け早々に「こいしかわカンターレ（通称こいカレ）」を結成。現在は、来年1月14日に開催される「文京区合唱のつどい」に向けて練習を開始し、同窓会様からもお誘いを受けて、105周年の式典で、「青空ジャンプ」を歌うべく練習を重ねています。小石川保護者がこんなにも音楽意欲が高いことには正直驚いています。

最後に私事ではありますが、令和5年度の入学式では、2年間なかったPTA会長あいさつを初めてさせていただきました。その席で私は新一年生相手に「小石川学校生活カーニバル説」を語りました。「好きな勉強、好きな研究、好きな部活と、小石川は何でもありの行け行けどんどん、毎日がカーニバルである」と。これには、戸叶会長からも「なるほどと感心しました」とご賛同いただいたのですが、実は続きがあります。6年間のカーニバルが終わった卒業後には、もっと楽しいカーニバルが始まるというのがその結論です。PTA会長をしながら、数々出会うことのできた同窓生の皆様を見てつくづくそう思うのです。3年間、本当にありがとうございました。



体育祭前の草取り活動

# 旧職員だより

## いろいろな学校で気づいたこと

桜修館中等教育学校 数学科 中村 明

私は高校教員として25年間、浦和明の星女子高等学校（2年間）、足立新田高等学校（5年間）、本所工業高等学校定時制（6年間）、小石川中等教育学校（11年間）、そして桜修館中等教育学校（現任）で数学を生徒と一緒に学んできました。



今となっては、勝手な妄想や検証もしなかった人づての情報から、私は異動する度に、ペーパーテストが苦手な生徒の多い学校、その逆に得意な生徒の多い学校をととも怖く感じてきました。当時の私は、私が想像できない生活をしている人間を過剰に怖がっていました。

異動の都度、私自身の勝手な思い込みを基に、生徒

に対して私の自己満足のために、それが充たされるように演じようとしたのですが、そんなに器用ではない私は、生徒にすぐに見抜かれて、自分自身が疲れてしまったりしました。どの学校でも例外なく、生徒は私の正体を見抜きました。なので、年を重ねて容姿が変化してきていますが、どの学校でも私は皆さんと出会った当時と同じの素のままの私です。

複合的な問題を抱えた環境に身を置いて悩む生徒と保護者もいました。どの生徒と保護者も同じ「人間」でした。めんどくさかったり、腹が立ったり、さぼったり、笑ったり、喜んだり、嫌いになったり、好きになったり、…、みんな同じでした。

今となっては、器用でなかった自分で良かったと思いました。そして、器用でない私と一緒に数学を学んでくれた生徒と、廊下などでばったりと出会う保護者や紫友同窓会の方々は、こんな正体の素の私でもいつも笑顔で受け入れてくれました。私はどこの学校でもいつも幸せです。ありがたいことと常々実感しています。

生徒たちはやがて社会人として羽ばたいていきますが、彼ら彼女らがせめて学校にいる間は、なるべく幸せな環境の中で学校生活を充実させて、たくましく豊かに育ち続けてほしいと思っています。

## 令和4年度転出・令和5年度転入者等一覧

### 〈転出・退職者等〉

職名	教科等	氏名	転出先
主幹教諭	数 学	高橋 省司	城東高校
主任教諭	国 語	田口 智里	成瀬高校
教諭 (臨時的任用)	国 語	田倉 明恵	未定
主任教諭	数 学	中村 明	桜修館中等教育学校
主任教諭	数 学	森本 美紀	兵庫県立大学附属高校
教 諭	理科(化学)	木村 泰彦	白鷗高校・附属中学校
主任教諭	理科(生物)	村澤 匠	竹早高校
主任教諭	英 語	寺川 新視	日比谷高校
教 諭	英 語	矢野 絢奈	九段中等教育学校
教 諭	英 語	田中 健	神津高校
主幹教諭	美 術	落合 良美	Brussel 日本人学校
主任教諭	保健体育	押野 由香	三田高校
主任養護教諭	養 護	山川 幹子	永山高校
事務主任	経営企画室	川島 寿也	日比谷高校
主任(司書)	図 書 室	村上 眞知	退職
事務主事	経営企画室	下村 有加	忍岡高校

### 〈転入者〉

職名	教科	氏名	転入元
副 校 長	数 学	宮山 尚之	新宿高校
主任教諭	国 語	飯塚 真奈	足立高校
教 諭 (臨時的任用)	国 語	渡部 萌依子	新規採用
主任教諭	数 学	内藤 久美子	三鷹中等教育学校
主任教諭	数 学	山口 貴史	大泉高校・附属中学校
教 諭	理科(化学)	蛭原 雄太	永山高校
(過員解消)			
主任教諭	英 語	永野 志保	青山高校
主任教諭	英 語	小森谷 文瑠	小平高校
主任教諭	英 語	高杉 芳恵	北区立浮間中学校
主任教諭	美 術	森永 伊聡	八王子市立第七中学校
教 諭	保健体育	大川 佳奈	江戸川高校
主任養護教諭	養 護	宮 恵美子	北豊島工業高校
事務主任	経営企画室	東 慧美	白鷗高校・附属中学校
課長代理(司書)	図 書 室	尾崎 裕之	竹台高校
事務主事	経営企画室	岩崎 悠佑	新宿山吹高校

●2023年度大学入試合格者数（現浪合計／現役）

（4月12日段階）

国公立大学	現浪	現役
北海道	2	2
東北	3	2
群馬	2	0
筑波	5	5
埼玉	1	1
千葉	3	2
お茶の水女子	3	3
電気通信	1	1
東京	16	15
東京医科歯科	1	0
東京外国語	2	2
東京海洋	2	2
東京学芸	2	2
東京藝術	3	3
東京工業	6	6
東京農工	4	3
一橋	11	11
横浜国立	2	1
山梨	1	1
静岡	1	0
名古屋	1	1
京都	1	1
神戸	1	1
九州	2	2
東京都立	3	2
都留文科	1	1
国公立大学合計	80	70

文部科学省所管外の大学校

大学校	現浪	現役
防衛医科大学校	1	1
防衛大学校	1	1
合計	2	2

上記、国公立大学・大学校のうち

医学部医学科	現浪	現役
群馬	2	0
千葉	1	1
山梨	1	1
防衛医科大学校	1	1
合計	5	3

私立大学	現浪	現役
酪農学園	2	2
岩手医科	1	0
青山学院	18	16
麻布	2	2
学習院	3	2
北里	8	8
杏林	3	3
慶應義塾	44	40
工学院	9	2
國學院	2	2
国際医療福祉	2	1
国際基督教	3	3
国士館	1	1
芝浦工業	10	7
順天堂	7	7
上智	61	60
昭和	3	1
昭和女子	3	3
女子栄養	2	2
成蹊	2	2
聖路加国際	1	1
専修	3	3
大東文化	2	2
多摩美術	2	1
中央	26	24
津田塾	3	3
帝京	2	2
東海	2	2
東京医科	2	1
東京音楽	1	1
東京家政	3	3
東京工科	1	1
東京慈恵会医科	1	0
東京造形	2	2
東京電機	2	2
東京都市	3	3
東京農業	4	2
東京薬科	1	1
東京理科	53	45
東邦	2	1
東洋	12	7

日本	11	6
日本獣医生命科学	3	3
日本女子	2	1
日本赤十字看護	1	1
日本体育	4	4
法政	24	19
星薬科	5	5
武蔵	3	3
武蔵野美術	2	1
明治	66	57
明治学院	8	7
明治薬科	1	1
立教	31	28
早稲田	81	75
立命館	5	4
関西	2	0
関西学院	7	0
川崎医科	1	0
私立大学合計	571	486

上記、私立大学のうち

医学部医学科	現浪	現役
岩手医科	1	0
国際医療福祉	2	1
順天堂	2	2
昭和	2	0
東京医科	2	1
東京慈恵会医科	1	0
東邦	2	1
日本	1	0
川崎医科	1	0
合計	14	5

海外大学	現浪	現役
University of London (英)	1	1
DePauw University (米)	1	1
The University of Melbourne (豪)	1	1
合計	3	3

# ❀ 同期会・クラス会 ❀

## 08Gクラス会報告

日 時：2022年9月28日（水）  
会 場：神田神保町新世界菜館  
参加者：12名  
幹 事：堀越雅郎

08Gクラス会は2006年以降山本博幸氏と岩崎基子さんが常任幹事を務め、毎年10月上旬に開催されています。会場はドームホテル、後樂園函徳亭、東洋文庫、トラットリア・イタリア文京店、新世界菜館等で最盛期には25～26名の出席がありました。一昨年はコロナで休会、昨年と今年の出席は夫々12名に激減しました。2017年から堀越雅郎が常任幹事に参加しています。

また山本氏や岩崎さんが幹事の時代、同級生有志による旅行会も実施し、台湾、沖縄、伊勢志摩、伊豆半島、房総半島、伊良子崎に足を延ばしています。今回のクラス会に当たり丹念に調査の結果、入学時53名いた同級生のうち逝去者21名、行方不明1名、生存者31名と判明し、生存者のうち半分強は都合がつけばクラス会出席可能、残りは体調不良で出席不可能と分かりました。

クラス会は恒例に基づき先ず前回以降の逝去者に黙祷と献杯を捧げ、幹事からの報告、出席者各自の近況報告、自由歓談で楽しい時を過ごし、最後に来年クラス会まで健康であるよう乾杯し、記念写真を撮って散会しました。記念写真を添付します。



## 013Aクラス会

1999年3月以来コロナ禍で順延されていたクラス会だったが3月27日開催することとなった。

今回は同級生の懐かしい声を聴きたくて電話連絡できる方には電話でお話した。結果12名参加。会場はアルカディア市ヶ谷七階の一室。眼下に外堀の満開のソメイヨシノ



が見張らせた。

12時開始。初めに高校時代3年間見守ってくださった南澤鉄郎先生そして11名の物故者

へ黙とう。そして電話して知った欠席した友人たちの近況を私が報告後、参加者12名が高校時代の思い出やら現況などを一人ずつ話した。欠席された原秀樹さんから送られてきたサイン入りの醍醐桜のジューレ版画プレゼントを皆に手渡した。また後日欠席者の中から抽選で当たった方にも送付した。



14時終了。有志で靖国神社から千鳥ヶ淵を散策。次回は今回欠席した友人たちにも再会したい。

(白砂文子)

原秀樹さんの版画「春光(醍醐桜)」



## 039J恩師を囲む会

日時：2022年10月23日（日）

場所：1833（巣鴨／創作中華）

039Iは第2次ベビーブーム世代で、受け皿として一組分の定員を増やした、J組のあった代です。私たちの学年だけJ組があったので、体育祭などは3年間I・J組の共同参加であったものの、何となく一体感がなく盛り上がり欠けていた雰囲気がありました。

当時の学年は、女子：男子＝1：2の人数割合でクラス編成がなされており、女子はだいたい真面目で、あとは大人しい男子と時折授業をサボる少々やんちゃな少数の男子で構成されていました。

クラス会は卒業後3年くらいして一度開催したあと30年くらいは音信不通でした。久々だった前回のクラス同窓会は18名ほどが参集し、令和元年8月3日に開催しました。1年後の再会を約束したところでしたが、コロナ禍が収束せず実現できませんでした。

また、我々の恩師の三浦真先生（地理、現代社会、現在は「三浦真智」に改名なされています）の出席が叶わず非常に残念でした。今回、再会を願って先生と連絡を取ったところ、実現することができました。



参加者は先生を含めて8名と少なかったのですが、先生のお元気な姿を拝見し、また、在学当時ではなかなかお聞きできない貴重なお話や思い出を語り合い、楽しいひと時を過ごしました。

三浦先生は、岐阜でお寺の運営をされているようです。今回の上京の目的は、なんと MISIA のコンサートへの参加とのこと！先生の大変若々しいご様子に、参加者一同、喜び安堵すると共に、参加者のうち、時間が許す方々と一緒に二次会のカラオケにもお付き合いを願って、美声（？）までご披露いただきました。

先生からは上京の機会の折には、また連絡いただける旨の温かい言葉を頂戴し、参加者一同より改めて先生に感謝の意をお伝えし、再会を誓って恩師を囲む会をお開きといたしました。（幹事）齊藤正義



おもてなしの街 巣鴨地蔵通り

# ミセスファッション サン・まつみや



〈芸術は心のビタミンです〉

## 巣鴨地蔵通り商店街は 今日も元気に営業中



021G 松宮初枝

## 昭和61年卒業038期同期会を開催

本年4月8日（土）18時、昭和61年卒業生が、卒業後初の全クラス同期会を文京グリーンコートカフェテリアで開催しました。会場に175名（含：海外からの参加者数名）、ZOOMで数十名参加する盛会となりました。またA組担任：坂之井不二雄先生（保健体育）、B組担任：三浦吉明先生（国語）がお祝いに駆けつけてくれました。

### 運にも助けられた「55歳の大集合」

新型コロナウイルスの影響が残る、難しい時期に準備を開始した本同期会については、状況次第で延期もやむなしという船出でした。クラス集合写真・部活の集合写真、そして10代の恋の相手とのツーショット写真撮影など、夢のような3時間は、人生の仕上げ期に向けて癒しや勇気づけになる「貴重な宝物」となりました。その後参加者からは、「この日のために生きてきたのかも」「まだ夢だったのか本当だったのか、よくわからない」など、多くの感動の感想をいただきました。

当日の写真や動画を「早く観たい」と多くの要望がある中で、熱気も冷めやらぬ4月29日に幹事チームが集合し、最後のミーティングと「おとなの料理会」と称する打ち上げを行いました。自分達で買い出しをして自分達で料理して、みんなで飲んで食べるというイベント付ミーティングです。ここで2つのことを決定しました。

1つめは、2～3ヶ月のうちに「卒業アルバム2023」（内容は、高校時代のBGM付写真スライドと同期会当日の写真スライドと動画）を会場参加者全員に届けること。2つめは、今回の幹事チームはこれで解散し、今後のことは新チームを作るかを含めて一部有志を中心に考え始めること。

まだ同期会を開催していない学年の方々は、人生を変える同期大集合の開催を検討してみてください。久しぶりに会う同期や高校時代はほとんど話さなかった同期と再会し、協力して同期会を創り上げていく作業自体が、楽しい貴重な思い出になります。そして、紫友同窓会038期のみなさん、また必ず会いましょう。（文責）038A 矢筈原祐介



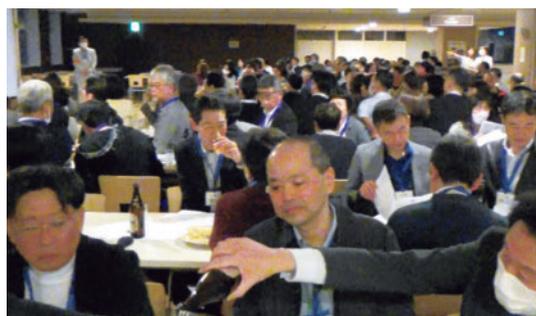
B組と 三浦吉明先生



ラグビー部と坂之井不二雄先生



話に夢中



# クラブ つながり

## 紫友美術会

～コロナ禍にもめげず～

紫友美術会は、今年、発足して34年になります。平成元年、1989年に、大勝恵一郎先生（美術・1950～76在職）のご指導のもと、美術部の卒業生を中心に呼びかけを行い、百人近くが参集してスタートしました。年一回の定期展覧会を開催し、会員の創作発表の場を確保し、又、スケッチツアーや美術展鑑賞会などの活動を通じて、世代を超えた会員、同窓生の交流を進め、芸術談義に触発されて楽しい時を過ごすなど実現してまいりました。

この3年間は、コロナ禍にもめげず、制約の多い中でも着実に活動を展開し、定期展覧会もスケッチツアーなども行いました。特に講演会については、一昨年（2021年7月）の同窓会と共催により多摩美術大学学長で埼玉県立近代美術館館長の建畠哲さん（018I）と当会代表幹事猪野忍さん（012B）との対話形式でのオンラインセミナーを実施し、美術系大学での教育など関心の高い主題で対話がはずみしました。

そして昨年5月には、「文京アカデミー千石」において、会員の石井孝夫さん（022C）による「仏像彫刻の魅力」と題した講演会を実施しました。

さらに今年は、大勝先生のご子息で会員の大勝恵悟さん（022D）の講演「JICA生活38年あの日あのころ」を同じく「文京アカデミー千石」で5月28日に開催しました。大勝さんは学生時代に培った外国語を生かそうとJICA（独立行政法人国際協力機構）に入職、在任中は特に発展途上国支援を目的とした長期赴任（北アフリカ地域）と中南米諸国への支援などの仕事に就かれました。その貴重な経験談と父君大勝先生の思い出、エピソードなどユーモアあふれる講演となりました。

定期展覧会については、母校美術科の落合良美先生のお力添えで、毎回、生徒の作品も出展いただき、コロナ禍以前と同じく盛況でした。今年も10月24日から29日まで京

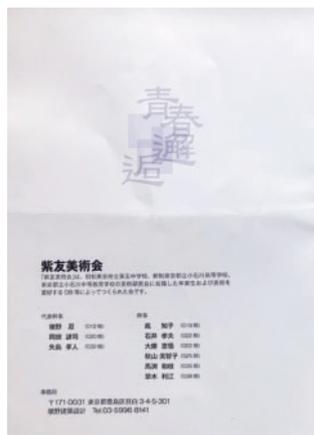
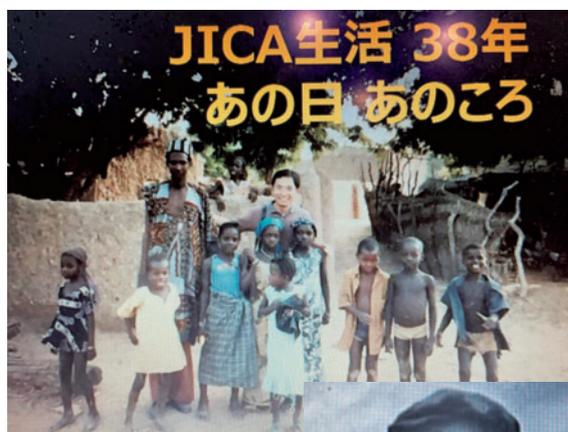


大勝恵悟さん(022D)

橋の「ギャラリーくぼた」で開催します。同窓会ホームページでもご案内しますので、同窓生の皆様、現役生、学校関係者の皆様、ぜひお出かけください。

当会の入会資格は小石川卒業生というただ一点です。美術創作に意欲のある同窓生はもとより、ライフスタイルの変化とともに生涯の趣味を持ちたい方、世代を超えた交流をしてみたい方など多くの同窓生の参加入会をお待ちしております。ぜひお問合せを。

紫友美術会幹事 岡田謙司 (020D)



## 小石川剣友会

(小石川高校及び小石川中等教育学校剣道部 OB 会)

小石川剣友会の活動は、現役との合同稽古会、OB 寄宿等種々ありますが、本年1月9日には、恒例の稽古始め・総会・新年会を開催しました。稽古始めは、新型コロナの影響で現役生の参加は叶いませんでしたが、巣鴨の三菱養和会・思斉館をお借りして行いました。

参加者は、女性剣士、現役大学生また関西在住の会員等総勢 20 名（見学者含む）で 50 歳以上の年齢差の老若男女の剣士が真剣勝負で剣を交え、交剣知愛を楽しみました。また稽古に参加できなかったOBも、昔の厳しい稽古を思い出し、非常に充実した表情で見学をしていました。

3年振りとなった総会・新年会は、巣鴨駅近くの居酒屋で、23名の参加で開催されました。（余談：剣道界では、稽古（第一道場）後の会食を、通称“第二道場”と言っています）例年通り、活動計画案、会計監査報告等を行い満場一致で承認されました。また今回会長が13年ぶりに交代し、新旧会長よりご挨拶を頂きました。更に、昨年六段・七段へ昇段された会員に、記念品を

贈呈しました。

その後、若手のOBから年齢順に一人2分を目途に近況報告を行いました。話題豊富で話好きな数名の先輩は、2分の持ち時間では足らずに大幅にオーバーすることもありました。これも剣友会ではお決まりで、そんな多くの先輩方の貴重な話を伺い、参加者は元気を頂きました。また、歓談中には、ミラノ在住の市倉昭一先輩（020）とWEBで接続し、旧交を温める場面もありました。

新年会の締めは、校歌、第二校歌（水戸黄門の主題歌：あゝ人生に涙あり、この歌は初代顧問であった故斎藤薫先生の愛唱歌です）を参加者全員が肩を組んで斉唱しお開きとなりました。その後、複数のグループに分かれ二次会（“第三道場”）へと流れました。

剣道は、対人競技でありながら、生涯に渡り修業を続けられる武道です。小石川剣友会も現役の生徒をサポートし、引き続き継続的に活動できる場にしていきたいと考えています。

(清治善光：034 / 本宮寿人：038)



“第一道場”での稽古始め



“第二道場”での会食

KIMOTO  
SEIBIDO

## 「地球にやさしい印刷」を ご提案します

通常、印刷には産業廃棄物として処理する必要がある廃液が出ます。この廃液が出ない仕組みを取り入れた「水なし印刷」は現在、地球にやさしい印刷技術として注目を浴びています。その他にもお客様のご要望に合わせて最適なプランをご提案します。



←印刷 × 環境についての取り組みをHPにて公開中！

価値をカタチに。価値を届ける。情報設計のパートナーを目指して。

株式会社 木元省美堂 <http://www.kimoto-sbd.co.jp/> 〒113-0033 東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル6階 / TEL 03-6240-0588

1983年卒 (035) G組  
木元 哲也

# 紫躑会

五中・小石川サッカー部百周年に向けて

紫友会館2階会議室の書棚の一角に、小石川高校以来のサッカー部の日誌やスコアブック、大会資料などが保管されている。

その中に、サッカー部の歴史を知る貴重な資料が大切にしまわれていた。1934年の初夏に発刊された蹴球部OB会報「蹴球」の創刊号、第二号（1938年発刊）、第三号・四号合併号（1940年発刊）である。これらは、どの号もA5版サイズの縦書きで、1頁当たり1行35文字、15行を基本に、几帳面な手書き文字が印刷されている。ガリ版時代であったと思われるので、印刷原稿の作成には字の誤りが無いよう、かつ全体バランスに細心の注意を払いながら進められたことと想像する。

創刊号の編集人であった故長坂謙三氏は、創刊号で「ハーフバックより見たる攻撃及防禦の一新法」というサッカーに必要な攻めと守りの戦術について、試合で実践した経験をもとに論述している。90年前のサッカー戦術だが、現代のサッカーにおいても間違いなく理に合った戦術と言えよう。

1924年に五中蹴球部が創立されて以来、五中・小石

川サッカー部は2024年に百周年を迎える。百年を迎えられるのは、五中、小石川高校、小石川中等教育学校の現役生の活動と、それらを支えてきた歴代サッカー部のOB・OG会である「紫躑会」の活動が、両輪となって、サッカーを愛好し続けてきた賜物と言える。

創部百周年に向けて、「紫躑会」では、サッカー部の歴史の重要な節目と捉え、千名を超える部員が活動したサッカー部の足跡を共有し、未来へ希望を託すために、記念事業を計画している。その準備を進めるため、昨年12月18日に、「五中小石川サッカー部百周年事業実行委員会」を設置し、名簿管理・IT、事業企画、記念誌作成、会計・広報の担当を決め、担当ごとの活動を始めている。情報化、デジタル化が急速に進む社会において、百周年に向け、新たな「紫躑会」活動の基盤づくりを目指している。まずは、紫躑会の公式サイトを立ち上げ、紫躑会の情報を会員誰もがアクセスしやすいように取り組んでいる。会員管理やこれまでの記念誌のデータベース化など新たな取組を通して、百周年を契機に、次の時代へのスタートを切りたいと願っている。

現役とOBとの試合を行う総会は、今年は7月15日（土）に予定している。（6.11記）

杉測 武（022D）



右より：蹴球創刊号、第2号、第3・4号

## 会報・HPに皆様の投稿と情報をお寄せください！

◎同窓会 HP は、同窓会からのお知らせや母校の情報を会員の皆さまにいち早くお届けしています。また、同窓生相互の交流や情報交換の場として、クラス会・同期会や各種講座など催事の告知や報告についても随時更新、掲載しています。各クラス幹事や広く告知をお考えの方は、是非ご利用ください。（紫友同窓会で検索！）

◎会報では、常時、「吾が校友の精神を」のページで会員皆様の自由な投稿を受け付けています。また、「クラブつながり」と「小石川つながり」のページでは学年をこえた交流を報告しています。

# 小石川つながり —交流のかたち—

## 1. 紫友まち歩き

～紫友まち歩きはあと 3回で 100回記念、頑張りましょう！～

### ● 100 回記念紫友まち歩きは、あと 3 回で達成！

2022 年は、以下の 2 回が実施されました。

- ・ 第 96 回：歩かないオンラインまち歩き（9 月）
- ・ 第 97 回：久右衛門邸と晩秋のさがみ野（12 月）

～横浜市東戸塚の「久右衛門邸」訪問～

2005 年第 1 回「向島界限・ディープな下町を歩く」から始まり、新型コロナのため 2020 年 2 月の第 95 回を最後に中断していた「紫友まち歩き」が、2022 年に入り新型コロナも落ち着いてきたので、2 年 10 ヶ月ぶりに再開し、まずオンラインでのまち歩きと、その後リアルな現地でのまち歩きで、2 度楽しみました。

あと 3 回で達成する 100 回記念紫友まち歩き「(仮)本校正門から五中小石川の 100 年を巡るまち歩き」を多くの仲間が待ち遠しく思っています。積極的な企画提案をお願いします。

なお、まち歩きの報告書は紫友同窓会公式 HP で公開されています。(トップページ→アーカイブ→同窓生の動きのアーカイブ→卒業生こんな人、あんなこと)

URL は以下です。

[https://www.shiyu-dousoukai.jp/archives/a\\_dousousei/a\\_hito\\_koto/machi/index.html](https://www.shiyu-dousoukai.jp/archives/a_dousousei/a_hito_koto/machi/index.html)

### ● 第 96 回：歩かないオンラインまち歩き

～横浜市東戸塚「久右衛門邸」をビデオ訪問～

2022 年 8 月末に ZOOM によるオンラインでの歩かないまち歩きを開催しようとの提案がありました。同窓会交流局のオンライン会合（サロン）コーディネーター役の河井さん（018I）と河村さん（035D）が企画・司会進行役を務め、9 月 18 日（日）15：00～17：30、ZOOM で実施しました。参加者は最大時 20 名で、011 から 035 まで幅広く、新規参加者も 4～5 名いました。

会合では、まず小石川の最新トピックスが紹介され、参加者各人の自己紹介と近況報告がありました。中には新潟県からの参加もあり、小千谷市片貝祭りでの四

尺玉花火の打ち上げ支援の話もありました。遠方からも参加できるオンラインというメリットを感じました。

その後、同窓生の伊藤紀幸さん（035E）が障がい者との共生を目指して取り組んでいる古民家レストラン、横浜市東戸塚「久右衛門邸」の案内と事業理念が写真とビデオを使用して紹介され、早速、次回の候補地にしようと声が上がりました。

最後にオンライン記念として、ZOOM 画面を写真で撮りました。



オンラインまち歩き

### ● 第 97 回：久右衛門邸と晩秋のさがみ野

～横浜市東戸塚の「久右衛門邸」訪問～

待ちに待ったリアルなまち歩きが 12 月 3 日（土曜）に実施されました。案内人は地元在住の松永さん（017D）で、東戸塚の里山と晩秋のさがみ野のまち歩きを楽しみ、その後、前回ビデオで拝見した「久右衛門邸」を実際に訪問してディナーを楽しみました。

参加者：6 名、案内人：松永文昭（017D）

懇親会場所：久右衛門邸、参加者：6 名



久右衛門邸 納屋カフェ

まち歩き行程は次のようでした。

相鉄いずみ野線緑園都市駅→相鉄いずみ野線に沿って南万騎が原に向かって坂道を散策→横浜市立義務教育学校緑園学園→サンステージ緑園都市東の街→フェリス女学院大学 緑園キャンパス→名瀬通りを歩いて猿田彦神社→名瀬ふれあい広場→名瀬川沿い小川アメニティ→久右衛門邸周辺散策→久右衛門邸見学と懇親会→さかえ橋バス停移動→バス移動解散（東戸塚駅及び戸塚駅へ）

オンラインまち歩きではビデオ・写真で紹介されましたが、現地の納屋カフェの建物は、築200年の道具置き場をリニューアルし、再利用したものです。

母屋での懇親会では、松永案内人によるプレゼンを楽しみながら、おいしいメニューを和気あいあいと会話しながら堪能しました。

### ●あなたも参加しませんか。

2、3時間のまち歩きとその後の懇親会です。参加者卒年は06から036まで幅広い世代を超えた同窓生が参加しています。100回目の紫友まち歩きが待ち遠しいですね。  
小林偉昭（017D）



## 2. 031まちあるきの会

031D・Gの友人の集まり（通称「小田嶋会」）でまちあるきを始めました。昨年の会報に掲載させていただいたところ、さっそくH神宮（北島）則子さんから参加表明があり、クラスを越えて会は拡大中です。

昨年秋以降の活動は、次のとおりです。

- ・2022年9月 @ルネこだいら  
G 廣瀬（加藤）奈保子さん所属の豊島区管弦楽団定期演奏会。
- ・11月 鉄道博物館（大宮）見学  
（このあと氷川神社など大宮を歩くはずが、鉄博を堪能

能したため反省会に直行）。

- ・2023年1月 @豊島区立芸術文化劇場  
豊島管弦楽団ニューイヤーコンサート。ライオンで反省会（興がのって、店員に叱られる）。
- ・2月 横浜散策（写真1）  
レトロ建築めぐり～山手～中華街。中華街で反省会。
- ・4月 花見 @城北中央公園  
氷川台駅から石神井川沿いを歩く。
- ・5月 @東京芸術劇場  
豊島区管弦楽団定期演奏会。  
同 上野、入谷散策（写真2）  
合羽橋商店街～浅草まで歩く。神谷バーで反省会。
- ・6月 目白～江戸川橋を散策。

（文責：031D 小田嶋永）



港の見える丘公園（撮影時のみマスクをはずしています）



国際子ども図書館で（旧帝国図書館）

### 3. 紫友経済人交流会

紫友経済人交流会は五中・小石川出身の企業経営者やビジネスに関わる方、OB・OGによる相互啓発・連携の場づくり、情報交換・交流など多彩な活動を展開しようとの思いから、2019年（令和元年）10月に発足しました。との思いから、2019年（令和元年）10月に発足しました。

以来、突然のコロナ禍による中断もありましたが、年に2回の会合では、第1部として各方面で活躍する講師の卓話や講演をお聴し、第2部の懇親会では参加者同士の交流の輪が広がっています。HPでは、設立趣旨とともに過去の会合の様子が報告されています。関心を持たれた同窓生の皆様には1人でも多くの会員登録と参加を呼びかけいたします。

紫友経済人交流会オフィシャルサイト

<https://shiyu-keiei.com/>

#### ● 第三回 紫友経済人交流会

- ・日時：2022年10月29日（土）
- ・場所：東京・四谷 「スクワール麹町」
- ・参加者：35名

（概要）第1部は（幹事長である）笠原盛泰さん（030H）の司会によるトークショーで、金融の分野から野村勉さん（第一勧業信用組合理事 030C）と、技術コンサル業界の大村仁さん（NTCホールディングス（株）代表取締役社長 031H）をゲストスピーカーに迎えました。同世代のおふたりが仕事を通して培った経験とピンチの乗りこえ方など大変貴重なお話に、会場全体が引き込まれました。



#### ● 第四回 紫友経済人交流会

- ・日時：2023年6月18日（日）
- ・場所：東京・四谷 「スクワール麹町」
- ・参加者：36名

（概要）第1部は週刊東洋経済編集長の風間直樹さん（047H）の「編集者視点から見た日本経済の実像」と題した講演会でした。

風間さんは早大大学院修了後に東洋経済新報社に入社、業界担当を経て調査報道部で雇用労働や社会保障など日本経済が抱える問題取材し、「雇用融解」「ルポ・収容所列島／ニッポンの精神医療を問う」など多くの著書があります。現在は、日々時間に追われる編集業務の中で新たなテーマを見出し、毎号、綿密な調査から記事にまとめていく、そんな仕事ぶりと編集者としての矜持に深く感銘を受けた講演でした。また、講演後の質問に丁寧に答える姿が印象的でした。

交流会参加記 並木 隆 (022E)



「銀座の隠れ家」として銀座で24年  
小粋な和服美人のお洒落なお店

「こ 輪」



銀座 8-6-20 銀座八番館ビル 6階（並木通）  
TEL: 03-3573-0770 中尾 輪子 (042H)

#### 4. 金融マン(N)と元経済記者(S)の対話 (24ページ、「同窓生訪問(野村勉さん)」から続く)

S アメリカから帰国後の仕事はどのようでしたか？

N 当時はみずほ銀行と大企業を受け持つみずほコーポレート銀行の2つがあって、コーポレート銀行の与信企画部副部長に任命され、それを1年。次に持ち株会社みずほフィナンシャルグループの与信企画部長を2年やりました。その間、みずほ銀行には騙されて不良債権化した大口案件が複数出てきたので、私は与信企画部長の立場から、大口案件や複雑な仕組みの特殊案件をしっかりと見られる審査態勢作りを指示しました。

それを受けて、みずほでは審査部門の組織を作り変え、企業審査第一部という部署で大口先や特殊案件も見ることになり、その部長を1年務めました。その後、シンジケートローン、証券化、M & Aなどを担う営業部隊であるコーポレートファイナンス部長を2年やり、執行役員審査第一部長、(みずほ銀行、みずほコーポレート銀行合体後の)審査業務部門の執行役員部長、審査担当常務などを務めました。

銀行員としての人生は、最初の5年、アメリカで10年と1つの部署が長かったですが、後半は1~2年で部署が変わりました。支店(の勤務)は最初の1か店だけ。支店長はやっておきたかったけれど1度もやっていません。

S 一般の市民には分かりづらい審査部門が長く、バブル崩壊、金融危機と続く大変な時期を過ごされたんですね。そして大銀行から現在の第一勧業信用組合に來られて、20年6月に理事長に就任されました。今の仕事は、金融機関が企業を育てる渋沢栄一的な世界と本来の意味でつながる仕事でもあるのでしょうか。

N そうです。今はそれを強く意識してやっている感じです。規模は小さいですが、創業ファンドの運営もしています。大きな銀行から小さな信用組合に移って、私自身は違和感がないんです。

金融の本質、すなわちお客さまの課題解決に資するサービスを提供することで、お客さま、ひいては世の中の発展に貢献するという本質は同じです。努力や工夫をして誠実に経営している限り、決して見捨てない関係性というか、そんな存在でありたいですね。

S 地域がよく見えるし、野村さんが元々やりたかったことに一番近い？

N そうですね。銀行時代は巡り合わせて残念ながら支店長をやっていませんけど、今は22支店の支店長

をやっているような、遅ればせながら人生を取り戻しているような感覚です。

S 地域に必要とされれば、多少、収益性が低くても運命共同体としてともに歩むということですか。

N そうですね。人間は頼られたりする時が一番幸福を感じるんじゃないでしょうか。

S 理事長就任の年にコロナ禍がおき、コロナで打撃を受けた多くの企業は、未だ深刻な局面にあると思いますが、それをサポートしていくご苦労とは？

N サポートはこれまでもずっとしてきました。お客さま(組合員)を持続的に支えるのが社会的な役割です。信用組合は非営利組織であり、収益第一義ではありませんが、景気の悪い時は、多少こちらが吐き出しても支えられるよう、もちろん一定の収益を蓄積しています。しかし、当組合にとってたとえ収益性が低くても地域に必要とされ、経営をやるお客さまの意志があれば、寄り添って支援していきたいと思っています。

最近では残念ながら、無責任に逃げてしまう経営者もいます。当人にやる気がなかったら助けられません。相談さえしてもらえば、再生の方法を一緒に考え、仮に商売を閉じるにしても、従業員のこと、老後のことを考えた上で、最善の方法を共に考えていきたいと思っています。

S ゾンビ企業という言葉は冷たいですが、今後つぶれる企業が出てても仕方ないですか？

N 資金繰りだけをつけて生かしておくことは意味がないと思います。世の中のありようを踏まえて、ビジネスのやり方を変えることで、社会に必要とされる存在になることが大切です。何もしないで、ただ延命するというのはよくないですね。

コロナの時は資金繰り支援をしましたが、それは緊急事態として輸血しただけの応急処置です。元々のやり方の延長線上ですよ。本当は治療に進み、さらには体質改善をしなければならぬと思います。今の時代のニーズに合わせてビジネスのあり方を変えなければいけない。コロナでライフスタイルも仕事のあり方も変わりましたね。それらを踏まえて世の中に求められているものを提供し、求められる存在になりたいと思い、ビジネスモデルの変革に取り組んでいくのであれば、応援しましょうという考えです。

S 金融側にもそれなりの訓練が要りますね。

N 職員の能力向上や再生などの専門部署も必要です。そのため総合コンサルティングという部署を作って、

人員を3倍に増強して対応しています。銀行時代の部下を部長にして、こういう時はこんな手法があるという実践を重ねながら、組織的に蓄積したノウハウを伝播していく。これからは、そうやっていかなければと思っています。従来の信用組合は、それがあまりできていなかったかもしれません。倒れそうになれば、延々と貸し続けてきた。本来は体質改善、ビジネスモデルの変革のために、いかに我々が関わっていくかが大切なポイントだと考えています。

S 融資先を求めて首都圏と消費者市場への強化を狙った地銀が、不動産ビジネスで不正融資トラブルを起こすなどの事件もありました。一方、ある信金の話では、最近は大手地銀が露骨に仕事を奪いに来て同じ土俵で戦うことになり、苦しいと嘆いていました。

N 金融機関は情報が集まってくる場所ですから、それをコーディネートして、世の中に今までなかった商品・サービスを創り出す企業を後押しすることが大切です。そうすれば資金需要は出てきます。地方には資金需要がないからと、わざわざ激戦区の東京に出てこようという考えは間違っていますよ。地方にも人、技術、風土、気候など、地元ならではの経営資源が必ずあるはずですから。それを他と結びつけて新たな化学反応を起こす役割を果たせばいいのです。

確かに競争は激しくなるでしょう。だから金利じゃない競争に持ち込むことです。どこまで地域の人々の顔を見て、みんなの悩みに応えられるか。それが勝負です。また、大手と信金、信組は両立できると思います。資金需要の大きい企業は複数の金融機関との付き合いが普通だし、ニーズに応じて使い分けているとも言えます。顔の見えるサービス、経営課題や悩みに応えられれば十分勝機があります。そうなれば一騎打ちでどちらかが追い出されるようなことにはなりません。そのためには信金も信組も、しっかりと顧客に寄り添って、意味のあるサービスを提供することが不可欠です。情報提供だったり、アドバイスだったり。

S そのための目利き力が大事だとも言われます。

N 目利きシートを作って、それを目利き力があるなどと論じている行政、マスコミも勘違いしています。目利きシートは、ただチェックポイントを示しているだけです。それを活用しながら与信の判断をし、何年か経って顧客の状況が変わってきた時に、この見方が甘かったとか、ここは良かったとかを検証し、反省・整理など総括して組織的に伝承していくことが必要なんです。それを次のファイナンスに活かすのが本当の

目利きですよ。

S 目利きシートがあると、一般にアピールしやすいですけどね。

N チェックポイントを示すだけでなく、貸出判断とその結果が経験として蓄積され、事業性の見方が培われる。それを組織的に明確化して、将来の案件判断に生かすように努力する。それが本当の目利きです。

S 目利きは審査の眼力に通じるものがあるんですね。中小企業の応援や復興支援で頑張っているとメディアが持ち上げる金融機関でも、少し景気が悪くなるとサーッと融資から手を引く問題行動（笑）もあるようです。よほど深く取材しないと内実が見えません。

N 金融機関も脆いもので、もてはやされている時が一番危ない。外に言っていることと内実とが乖離していることも多いし、外面をよく見せたがる者もいます。私が、私だけがと喧伝する者ほどあやしいのです。しかし、金融（の役割）はもっと地道なもの。野球に例えるならば、スター選手ではない。監督でもないし、コーチかと言えばコーチでもない。強いて言えば、グラウンドキーパーのようなものです。お客さまが持てる力を十分に発揮できるよう環境を整える、そんな役回りだと思うのです。おカネを融通するという立場は、自然と力関係で優位に立ちやすい。そのことを十分自覚して謙虚であるべきと考えています。

N：野村 勉さん（030C・第一勧業信用組合理事長）

S：嶋沢裕志さん（026B・元日本経済新聞記者）

（編集）

この後にもSさんは質問を用意していますが、残念ながら紙面の都合で引き取らせていただきます。お二人の対話は、「同窓会報」の掲載記事としては少々異質なものではありませんが、これも小石川流かと思えます。本日はお忙しい中、ありがとうございました。



# 事務局だより

事務局長 清水 茂 (031D)

事務局は、031D 清水茂、030A 清水潤子、035G 駒田晴美の3人で担当しています。原則として火曜日と金曜日が在室日ですが、その他の日は留守電、FAX、メールにてご用件を承っておりますので、お気軽にご連絡ください。

## ●ホームカミングデー

コロナ禍のため3年間見送りとなっていたホームカミングデーを、本年度は学校創作展（9月16日、17日）に合わせて開催する方向で準備を進めています。詳しくは同窓会ホームページでお知らせします。

## ●評議委員会について

同窓会と会員をつなぐパイプ役として、各クラスから1～3名の方を評議委員として選出いただいています（評議委員の一覧はホームページを参照ください）。評議委員の皆様には、クラスを代表して同窓会の運営・活動への提言、ご意見などをいただいております。

登録、欠員が生じているクラスは、クラス会幹事など実質的に活動されている方にお引受けいただき、事務局へご連絡ください。また、評議委員会への出席率向上の為にも、可能であれば各クラス2名以上の方を選任いただきたく、宜しくお祈いします。

## ●名簿の変更について

引越しや改姓などによる登録情報の変更がある場合には、次の方法で変更・届け出をお願いします。

- ① 「Web名簿管理システム」にログインして、ご自身で変更する（「Web名簿管理システム」を利用するには、メールアドレスの登録が必要です。未登録の方は、事務局までメールアドレスをお知らせください）。  
Web名簿管理システム <https://shiyu.alumnet.jp>
- ② 住所・姓名等の変更内容を、事務局まで電話、Fax、メールで連絡する。
- ③ メールアドレスをご登録された方には、同窓会と学校のお知らせや最新トピックを掲載した「紫友ニューズレター」を無料配信しています。

## ●会費の納入について

紫友同窓会の運営は同窓会員の納入会費によって成り立っています。財政運営を健全に維持するために、2014年から、毎年2,000円の会費納入をお願いしております。納入には下記の4種類の方法があります。

- ① 郵便局：会報の宛名台紙に印刷された「払込取扱票」をご利用ください（振込手数料は同窓会負担）。  
※現金にて手続きの場合、別途110円掛かります。
- ② 銀行振込：紫友同窓会口座にお振り込みください（振込手数料はご負担ください）。  
※振込の際は、必ず「卒業回または卒年次」「クラス」「お名前」をご記入ください。（記入例 030A シユウタロウ）
- ③ コンビニ支払・スマホ決済：昨年度より導入しましたので、宛名台紙に印刷された「払込取扱票」をご活用ください（手数料は同窓会負担）。
- ④ 口座自動引落し：毎年振込の煩わしさを解消するため、「口座振替サービス」を導入しています。口座振替依頼書はホームページに掲載していますが、見られない方は事務局にご連絡いただければ郵送いたします。今年度分からの口座振替を希望される方は、事務処理の都合上10月15日迄にお申し込みください（振替予定日は11月27日です）。

## ●紫友スタジオ

同窓生のリアル交流の活動拠点となる「紫友スタジオ（収容人数：約20人）」を開設しています。場所は、不忍通りをはさんだ学校の向かい側、1階にキャピタルコーヒーがあるビルの地下です。クラス会、会議・セミナー、楽器練習等に、是非ご活用ください。

問合せ先：k100kouryusitu@gmail.com

## ●東洋文庫ミュージアムの利用について

年会費を納入された会員の方は、無償で同施設の観覧、利用ができます。利用希望者は、事務局にて会員証を発行しますので、初回利用日の2週間前までに事務局へご連絡ください。

## ●紫友文庫

会員の皆様から寄贈された同窓生・小石川に関する著書を「紫友文庫」と名付け、配架しています。一覧はホームページをご覧ください。閲覧・貸出は事務局までご連絡ください。

## ●「紫友みらい基金」へのご寄付のお願い

母校創立百周年を契機に、教育支援・交流促進・小石川の杜プロジェクトの3つの「新しい同窓会活動」が始まりました。それらを継続実施する財務基盤を構築するため、百周年募金の残余資金（約42.5百万）を原資に「紫友みらい基金」を創設しました。活動継続には10年間で約1億円の費用が見込まれ、会員・客員の皆様からのご寄付をお願い申し上げます。

### 【募金要項】

1. 基金名称：紫友みらい基金
2. 募金の目的
  - ① 教育支援活動の継続、推進
  - ② 交流促進活動の継続、推進
  - ③ 小石川の杜プロジェクトの継続、展開
3. 募金目標額 1億円（2019年～10年間を想定）

### ・「紫友みらい基金」特別推進キャンペーン

11・12ページでご案内のとおり、母校創立105周年に向けて、「紫友みらい基金」の推進キャンペーンを実施し、ご協賛の同窓生より提供されたオリジナル物品・サービスを、返礼品として贈呈いたします。

※当基金への寄付は、税の優遇措置・控除対象には該当しませんので、あらかじめご了承ください。

### 【返礼品の贈呈】

一口5,000円以上のご寄付に対して、右記、返礼品一覧表の該当カテゴリからご希望のものを1点お選びください。

※ご寄付1回毎に贈呈し、期間内に何回でも可。

### 【ご寄付と返礼品の申込み方法】

- ① 郵便局：会報の宛名裏面に印刷された「払込取扱票」をご利用ください（手数料は同窓会負担）。票の「通信欄」に希望の返礼品をご記入ください。

(例) A-1 希望

- ② 銀行振込を利用して紫友同窓会口座にお振り込みされる方は下記 구글フォーム QRコードより希望返礼品をお選びください。

※年会費2,000円と合算した額をお振込みください。

振込金額のうち、会費2,000円を超える金額が「紫友みらい基金」へのご寄付となります（会費が優先的に納入されます）。

### 【返礼品一覧表】（2023年7月現在）

※カテゴリ＝ご寄付金額の上下限度額

※協賛同窓生（12ページ参照）略称 紫友同窓会＝紫  
塚田さん＝塚、太田さん＝太、窪田さん＝窪、  
中村さん＝中、伊藤さん＝伊、安城さん＝安

### カテゴリ A (5,000円以上 10,000円未満)

- A-1 野老朝雄さん (040E) 意匠マグネット (紫)
- A-2 懐かしの校舎イラスト絵葉書セット (紫)
- A-3 オリジナルマスクケース (紫)

※ 以上は同窓会制作品です。

### カテゴリ B (10,000円以上 20,000円未満)

- B-1 スマホホルダー “elastiX” (塚)
- B-2 和柄小物 (文庫ブックカバー) (窪)
- B-3 ロワイヤルヴェルジュ (蒲萄調味料) 1本 (中)
- B-5 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 1kg (安)
- B-6 「我らは長七の教え子だった」(長七物語) (紫)

### カテゴリ C (20,000円以上 50,000円未満)

- C-1 和柄小物 (名刺入れ) (窪)
- C-2 蒲萄ジュースとヴェルジュセット (中)
- C-3 クリエイトファーム産 赤ワイン 1本 (中)
- C-5 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 5kg (安)
- C-6 小石川百年史誌 3部セット (同)

### カテゴリ D (50,000円以上)

- D-1 クリエイトファームブドウ狩りセット (中)  
(ワイン+ジュース+ヴェルジュ各1本)
- D-2 ショコラ房商品詰め合わせ (通年配送) (伊)
- D-3 久右衛門邸ランチコース 1名様食事券 (伊)
- D-4 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 10kg (安)
- D-5 カシミアストール (百周年記念制作品) (紫)
- D-6 「Pムーミンパパ」1泊2食付き 1名様 (太)

### 母校創立 105周年記念キャンペーン

今回、紫友みらい基金に20,000円以上寄付された方（カテゴリC及びカテゴリD対象者）へ合わせてB-6（長七物語）を進呈いたします。

### 会費・寄付の振込先「紫友同窓会口座」

【郵便局】口座番号 00110-2-11869 加入者名「紫友同窓会」

【銀行】みずほ銀行駒込支店 普通口座 0629241

名義「シユウドウソウカイ」

※振込の際は、必ず「卒回または卒年次」「クラス」「お名前」をご記入ください。（記入例：030A シユウタロウ）

※使途を指定される寄付は「お名前」の後ろに下記の数字を付記してください。（記入例：030A シユウタロウ -3）

教育支援活動（教育支援口⇒1）交流促進活動（交流活動口⇒2）小石川の杜PJ活動（環境企画口⇒3）

※問い合わせ 紫友同窓会事務局 原則として、火曜と金曜の10時から17時まで在室  
Tel/Fax 03-3945-1961（留守電あり） メールアドレス jimukyoku@shiyu-dousoukai.jp

※同窓会事務局のアドレスが変更になりました

銀行振込の方向け  
返礼品申し込み QRコード→



## ○逝去者一覧

前号の発行以降に事務局にご連絡いただいた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日	卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日	卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日			
旧職員(事務)	穂積雪江		02E	黒川 篤	2022.8	08A	伊藤旺子	016F	池田京子	2022.3.12	
五中10A	尾立維恒	2012	02E	永瀬恒雄	2022.2.10	08A	手嶋 康	2022.7.20	016G	浅沼 惇	
五中13C	園田正治	2018.7.10	02F	大庭信一	2021.11.21	08B	小菅康正	2022.11.19	017B	木屋野明	2022.10.5
五中14D	荒津謙二	2001.8	03A	篠 弘	2022.12.12	08C	藤田 理	2021.11	017C	青山 泉	2022.4.23
五中14E	安芸基雄	2018.4.7	03B	小林清志	2022.7.30	08D	宮本 宏	2023.1	017F	石原憲夫	2022.2.5
五中14E	近藤正直	2017.7	03F	松平博之	2005.8.10	08E	柴田真宏	2022.3	017G	大崎 清	2022.10.12
五中15D	藤井麟太郎	2019.4.17	03G	安藤黎二郎	2022.1.31	08F	塩沢優介	2022.10.9	018A	井尻 広	2018.7.14
五中16B	藤田榮一	2019	03G	古在由昭	2022.2.19	09B	小泉恵一	2021.10.10	019A	武留井隆夫	2022.6
五中17C	長田信夫	2011	03G	森本龍幸	2022.3.1	09B	榊山 隆	2014.8.12	019F	川口 明	2022.10.4
五中17A	松垣司郎		04A	賀来荘吉	2023.1.23	09D	大村庄司	2022.4.22	020F	岩井洵子	2022.1
五中17B	藤井光敏		04A	深井 清	1998	09D	篠原憲二	2022.11.22	021G	駒形範子	
五中17E	菱田淳三	2016.7	04C	本山照夫	2022.10.3	09D	前川哲也	2023.1.30	021G	仲田達夫	2021.1.9
五中18E	志村建吾	2008.10.18	04D	川戸二郎	2017	09H	中村紘史		022D	興津光一	2023.1.17
五中19D	在塚忠一	2012.10.22	04D	中條嶺明	2021.11	010A	橋本 満	2022.7.30	022D	高橋 博	2022.4.14
五中20B	大塚泰一郎	2011	04E	海野英晴	2022.8.7	010A	藤原宏道	2021.3.8	022H	諏訪茂則	2022.8.17
五中20A	鈴木 享	2019	04G	楠山利雄		010D	黒田則雄	2021.12.9	022I	安藤希与子	2021.8.19
五中20C	釜沢弘実	2022	04G	樋口時弘	2023.2.26	010H	久保田四郎	2020.11.15	026A	永井具子	2015
五中21D	高野 隆	2022.5.20	04G	古屋成正	2021.11.2	011A	奥 保喜	2022.6.7	026I	清水篤人	2021.9.25
五中21D	水谷六良		04H	倉田日出男	2021.4.18	011E	千葉 信	2019.12.15	027I	小田嶋隆	2022.6.24
五中22C	伊勢田義一	2021.2.5	04H	龍野順久	2022.10.20	011E	箭内 陽	2021.11.3	028C	和田 修	2022.10.20
五中22C	坂上義次郎	2019.7	05A	加藤 迪	2023.5.19	012F	熊井邦彦	2010.3	033A	秋山 実	2021.2.16
五中22B	小寺磐男	2021.1.27	05B	中川美智子	2022.10.8	012H	塚田豊雄	2021.12	035D	東 憲生	2015.7
五中22B	土師保幸	2022.7.27	05D	笠原隆彰	2022.1	013A	伊神八洲夫		035I	菱田 徹	2022.3.12
五中23B	内田盛也	2023.3.20	05D	田中伸生	2021	013A	大木崇由	2023.4.20	039B	望月裕史	2021.8
五中23B	五代友和	2018.3.31	05H	佐藤彰也	2021.10.10	013A	川村克彦		040I	渡辺英俊	2021.11
五中23B	竹内 忠		06A	榎元紀二郎	2022.3	013C	河口直樹	2022.7	042I	青木幹男	2021.8.2
五中23C	徳田時男	2022.7.21	06C	福屋正嗣	2022.4.1	013F	篠井保彦	2019	044G	福島 裕	2022.3.17
五中23D	石井和三	2019.10.23	06D	関 穎介	2021.11.2	013G	飯島康夫	2023.2.24			
五中23E	井戸川徹	2018	06H	石黒乙亥	2022.3.11	013G	西海正彦	2021.10			
五中24D	五十里光秋	2008.12.25	06H	高橋啓二	2021.12.19	013G	目澤省吾	2022.4.26			
五中26C	杉山庸夫		07A	青木初夫	2022.4.11	013H	入谷幸江	2021.12			
五中26C	福山 勝	2021.3.7	07D	大塚義明		014B	平坂克彦	2022.12			
五中27D	齋藤安俊	2022.10.26	07G	小川茂雄	2022.3.3	014B	本多 登	2022			
01B	安中和彦	2022.1	07H	青柳紀正	2021.11.9	014D	屋部憲弘	2023.1.29			
02D	尾崎達助	2022.1.11	07H	池田省三	2022.1	014E	洲桃圭治	2022.6.27			
02E	伊東 洋	2023.4.4	07H	上田和生	2018.5.16	015A	依田弘長	2022.4.1			
						015E	伊集院礼子	2021.11.26			
						015E	鈴木廣之	2022.8			
						016C	村野司郎	2021.11			

## 表紙の言葉 「光のうち—2019」(50mmx60mmx30mm acrylic resin leaf vein)

フジタユメカ 藤田夢香 (047F)

表紙の作品は、カメラのレンズに使われるほどの高純度のアクリルに、シルクスクリーンという版画の技法を使って彩色をした小さな立体です。「版画」といえば、一般に何枚でも同じものが刷れる複製画の技法ですが、さまざまな素材に刷ることが可能なシルクスクリーンの特性を生かし、紙以外の素材を使ってアクリルそのものに彫り込んだり、植物の種や葉の葉脈を落とし込んだりと同じものは一つとない、一点ものの作品を制作してきました。

この「光のうち」というタイトルの作品は、数年前からシリーズ化して取り組んでいるもので、タイトルにある「うち」は、「守られるべき場所」としての「家」や内面の「内側」という思いも込められています。日常の中、目にもみえず、言葉にも形にもならない時間の積み重ねや、日々のうつろいを「時の結晶」のように表出したイメージとして捉えた作品のシリーズです。

透明なアクリルに光が通ると光の屈折により、ある角度から見えていたものが見えなくなったり、色味が変わったりと、今、そこにあったはずのものが見えない驚きや、その力強さを小さな作品の中に込めました。

ささやかな存在の中の「光」をこれからも制作を通して見つめ続けていけたらと想っています。

## 編集後記

コロナ禍が本格化した3年前から「常識破りの図書館たち」というコラムを、ある媒体に書いています。

感銘を受けた図書館の1つが「東洋文庫」。アジア全域を対象とする東洋学の専門図書館・研究所で、1924年に三菱の創業家3代目・岩崎久彌(1865～1955)が当時、岩崎家の別邸だった六義園の近く、母校のある不忍通り沿いに創設しました。2011年10月には情報発信拠点「東洋文庫ミュージアム」も併設され、幅広い客層が訪れるようになりました。

数ある収蔵資料の中でも、オーストラリア出身の医師、冒険家、ジャーナリストで、中華民国総督府顧問も務めたジョージ・アーネスト・モリソンのコレクション「モリソン文庫」は圧巻です。貴重な蔵書・資料群は、好奇心と行動力に支えられた波乱万丈の人生を雄弁に物語っており、何度も見たくになります。

紫友同窓会の会員証があれば無料と聞き早速、事務局に申請しました。敷地内には「小岩井農場」の産品も味わえるオリエンタル・カフェもあります。母校や六義園へ赴くついでにいかがでしょう。灯台もと暗し。高校時代から存在を知っていればと複雑な思いが湧いています。 嶋沢裕志 (026B)



例年、夏前の2か月が小誌編集の季節です。このジリジリと匍匐前進のような作業に手を挙げて8年目、我流も少しは進歩して、昔流の割付け用紙に糊と鋏が机周りから消えました。今は届いた原稿(文章と写真)をワード2段に組み直し、余白があれば埋め草や広告を考えて1ページずつ作っています。

便利な編集ソフトが簡単に手に入る時代に、流行りのコスパやタイパとは無縁の作業を続けていますが、出来上がった冊子をめぐりながら、「あちゃー」と青ざめ赤面する直しがないかハラハラしながらの一杯を楽しみに今号も手を離れます。

今回も記事の出来上がる過程で、普段の日常なら接点も面識もない同窓生と知り合えて、そのやり取り一つ一つが印象的でした。皆様、ありがとうございました。また、読者の皆様には身近な同窓生ネタと小誌への率直なご感想を是非お寄せください。

並木 隆 (022E)

## 紫友同窓会会報 第51号

2023年8月26日 発行

発行：都立小石川中等教育学校 紫友同窓会

事務局：〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-29

都立小石川中等教育学校内

TEL・FAX 03-3945-1961 (留守電アリ)

(原則火・金曜日の10時から17時まで在室)

メールアドレス jimmu-kyoku@shiyu-dousoukai.jp

※同窓会事務局のアドレスが変更になりました

ホームページ <https://www.shiyu-dousoukai.jp>

(または“紫友同窓会”で検索)

印刷所：株式会社アイワード

非売品

紫友同窓会 × 晴れ着の丸昌

# 卒業衣裳 特別割引

府立五中・小石川高校および  
小石川中等教育学校の

在校生・卒業生・教職員・同窓会員 とそのご家族の皆様へ

この会報をお持ちになった方は(お友達・お知り合いも割引対象!)

振袖・卒業衣裳・男子紋服など全てのレンタル衣裳

## 10%OFF!

成人式の  
振袖も  
10%OFFです!



●晴れ着の丸昌池袋店のみ有効●その他割引・優待サービスや互助会カード、特約店が発行する丸昌紹介カードのご利用不可●草履やブーツ・その他の単品レンタル、特価品や販売品、着付け・美容・撮影料は対象外●レンタル合計44,000円(税込)未满是別途送料2,200円(税込)必要●衣裳ご成約後の割引は不可●卒業衣裳予約は6月中旬から翌年3月末迄●有効期限2024年9月末

池袋駅西口より徒歩5分。(ご入店は16時頃まで)

この広告ページを  
撮影した写真のご提示  
でも割引いたします



ハードフル・コミュニケーション

晴れ着の丸昌 池袋店

東京都豊島区池袋2-39-2 ☎0120(870)511  
毎週火曜定休(祝日は営業) ※夏季休館期間・年末年始休業あり / 営業時間10:00~18:00

丸昌池袋店ホームページ  
スマートフォンのみ対応

生涯の趣味として  
交流の場として

# 紫友美術会

## 新規会員募集!

shiyu.bijyutsukai@gmail.com

お問い合わせ

紫友美術会展 鑑賞会 スケッチ会 講演会

彫洋 刻日画 本画 陶芸書道 水彩道